



LS 460 / LS 460 L
取扱説明書



Welcome to Lexus

ようこそレクサスへ

安全、快適にお使いいただくため、本書をお読みください。



TABLE OF CONTENTS

目次

1 運転する前に

運転するまでに必要となる操作、ご注意が説明してあります。

2 運転するときに

走行、停止の方法や安全運転の方法が説明してあります。

3 室内装備の使い方

室内装備を快適にご使用いただくための説明がしてあります。

4 お手入れのしかた

お車のお手入れ、メンテナンスに関する方法が説明してあります。

5 トラブルが起きたら

故障やパンクしたときなど、万一のときの対処に関する説明がしてあります。

6 車両仕様

車の仕様やカスタマイズ機能に関する情報が記載してあります。

さくいん

本書に記載されている情報を五十音順などの方法で探すことができます。

1 運転する前に

1-1. キーの取扱い	
キー	26
1-2. ドア・トランクの開閉の しかた、ロックのしかた	
スマートエントリー& スタートシステム.....	30
ワイヤレスリモコン.....	41
ドア	43
トランク	49
1-3. シート、ハンドル、 ミラーの調整のしかた	
フロントシート.....	55
パワーリヤシート（5席車両）....	60
パワーリヤシート（4席車両）....	63
ドライビングポジション メモリー（運転席）.....	67
シートポジションメモリー （助手席）.....	70
リヤシートポジション メモリー	72
ヘッドレスト	74
シートベルト	77
ハンドル	82
インナーミラー.....	83
ドアミラー	84
1-4. ドアガラス・ムーンルーフの 開け方、閉め方	
パワーウィンドウ.....	87
ムーンルーフ	90

1-5. 給油のしかた	
給油口の開け方	94
1-6. 盗難防止システム	
エンジンイモビライザー システム	98
オートアラーム	99
1-7. 安全にお使いいただくために	
正しい運転姿勢	104
SRSエアバッグ	105
チャイルドシートの取り付け ...	115

2 運転するときに

2-1. 運転のしかた	
運転にあたって	124
エンジン（イグニッション） スイッチ	132
オートマチック トランスミッション	136
方向指示レバー	140
パーキングブレーキ	141
ブレーキホールド	143
ホーン（警音器）	145
2-2. メーターの見方	
計器類	146
表示灯／警告灯	148
マルチディスプレイ	151

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの 使い方	
ライトスイッチ.....	154
フォグライトスイッチ.....	157
ワイパー & ウォッシャー.....	158

2-4. その他の走行装置の使い方	
クルーズコントロール.....	161
レーダークルーズ コントロール.....	164
レーダークルーズコントロール (全車速追従機能付き).....	173
LKA (レーンキーピング アシスト).....	185
電子制御エアサスペンション...	190
運転を補助する装置.....	192
プリクラッシュ セーフティシステム.....	198
プリクラッシュ セーフティシステム (カメラセンサー付).....	203
後方プリクラッシュ セーフティシステム.....	212

2-5. 様々な状況での運転	
荷物を積むときの注意.....	215
寒冷時の運転.....	217

3 室内装備の使い方

3-1. 室内灯のつけ方	
室内灯一覧.....	222
・インテリアライト.....	223
・パーソナルライト.....	223

3-2. 収納装備の使い方	
収納装備一覧.....	225
・グローブボックス.....	227
・コインホルダー.....	228
・ドアポケット.....	228
・カップホルダー.....	229
・コンソールボックス.....	231
・クールボックス・小物入れ.....	232
・小物入れ.....	236

3-3. その他の室内装備の使い方	
サンバイザー.....	238
バニティミラー.....	239
外気温度表示.....	240
灰皿.....	241
シガレットライター.....	242
アクセサリーソケット/ アクセサリーコンセント.....	244
ステアリングヒーター.....	247
コンフォータブル・ エアシート.....	249
アームレスト.....	252
リヤシートリラクゼーション システム (4 席車両).....	253
テーブル (4 席車両).....	255
リヤサンシェード.....	257
リヤドアサンシェード.....	261
トランクスルー.....	264
コートフック.....	266
フロアマット.....	267
トランク内装備.....	268

4 お手入れのしかた

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	272
内装の手入れ	275
タイヤについて	277

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	281
ガレージジャッキ	283
エンジンルームカバー	285
電球（バルブ）の交換	287
ヒューズの点検、交換	301
電子キーの電池交換	314
ウォッシュ液の補給	316

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

非常点滅灯	318
発炎筒	319
けん引について	321
イベントデータレコーダー	325

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは	327
警告メッセージが表示された ときは	331
パンクしたときは （スベアタイヤ搭載車）	333
パンクしたときは （パンク修理キット付き車）	344
エンジンがかからないときは ...	356

シフトレバーが シフトできないときは	358
パーキングブレーキが 解除できないときは	359
キーを無くしたときは	363
電子キーが正常に 働かないときは	364
バッテリーがあがったときは ...	367
オーバーヒートしたときは	370
スタックしたときは	373

6 車両仕様

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ （指定燃料、オイル量など）	376
----------------------------------	-----

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ 機能一覧	383
--------------------------	-----

さくいん

略語一覧	388
------------	-----

五十音順さくいん	389
----------------	-----

症状別さくいん	399
---------------	-----

1

2

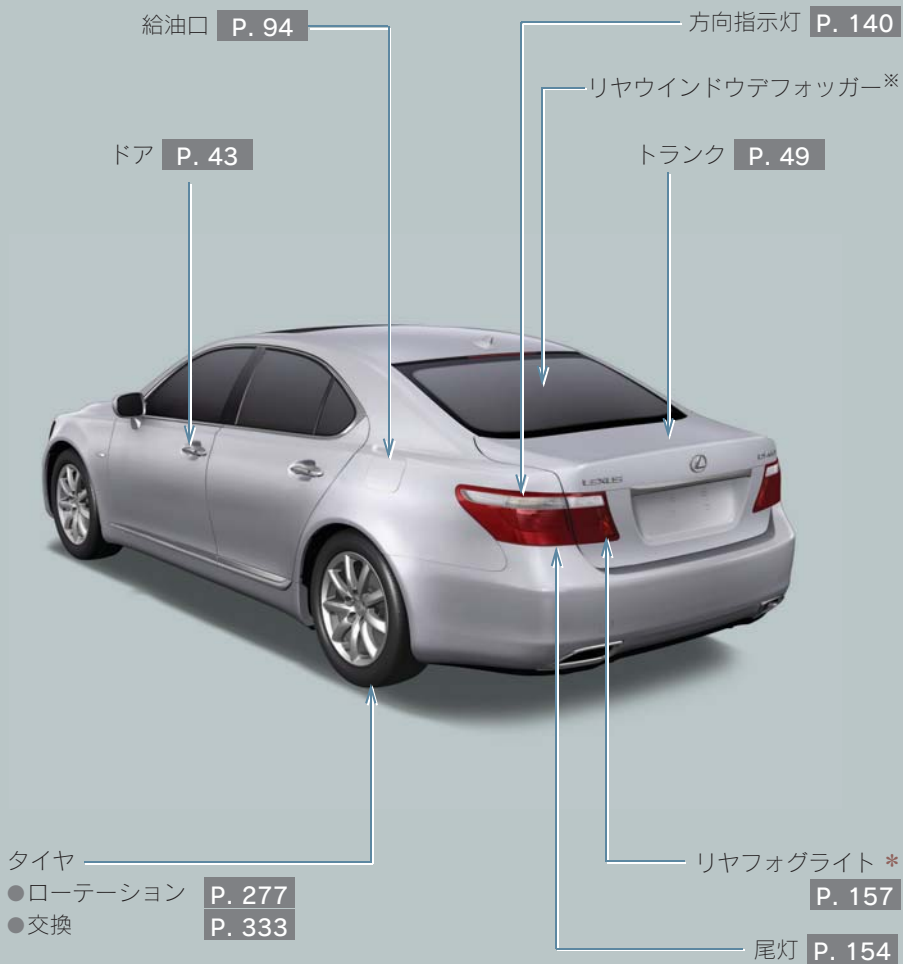
3

4

5

6





* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

フロント席

助手席 SRS エアバッグ P. 105

SRS ニーエアバッグ
P. 105

ハンドル位置調整スイッチ P. 82

運転席 SRS エアバッグ P. 105

ドアポケット P. 228

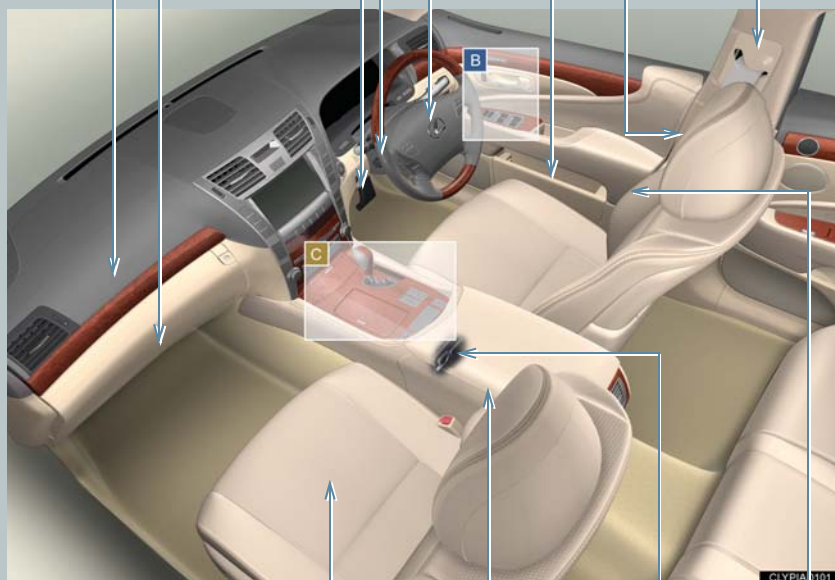
ヘッドレスト P. 74

シートベルト P. 77

A

B

C



フロントシート P. 55

コンソールボックス
P. 231

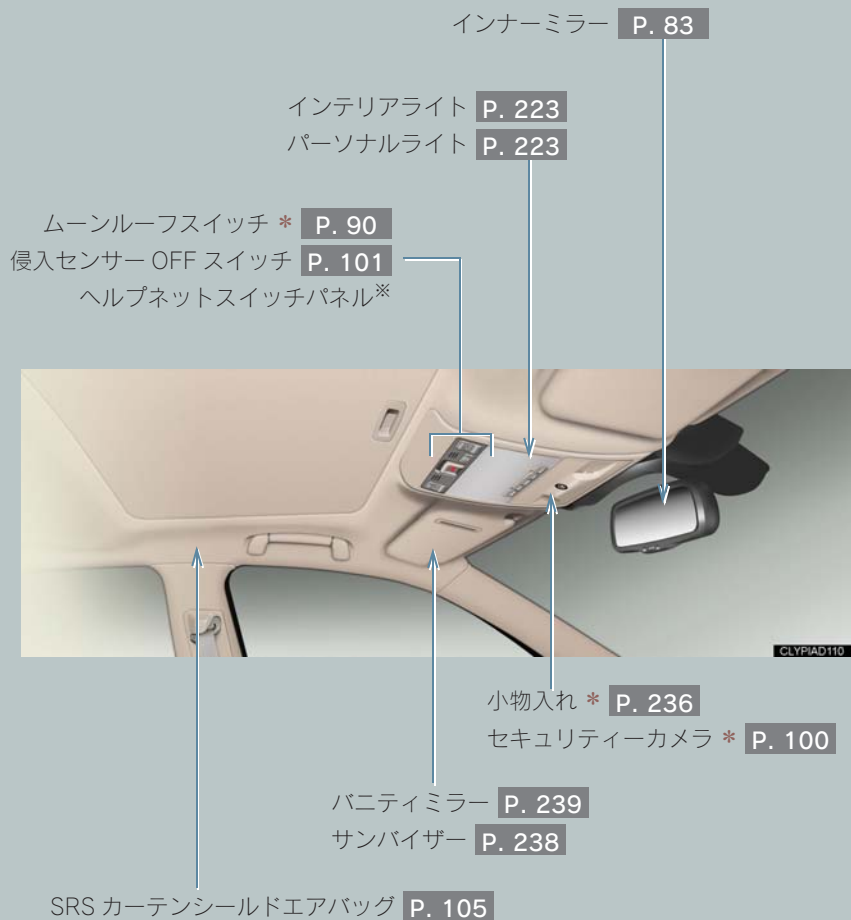
SRS サイドエアバッグ
P. 105

アクセサリースOCKET P. 244

AUX 入力端子*

VTR 入力端子*

A



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B

ドアロックレバー P. 43

ドライビングポジションメモリースイッチ P. 67

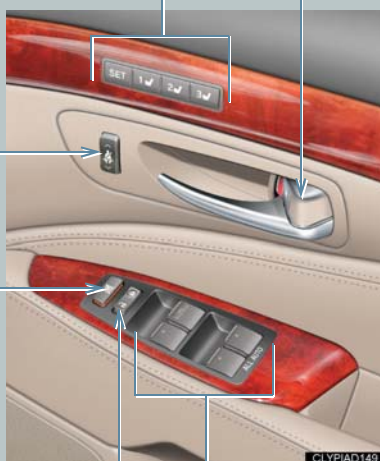
シートポジションメモリースイッチ * P. 70

シートベルト高さ調整スイッチ P. 77

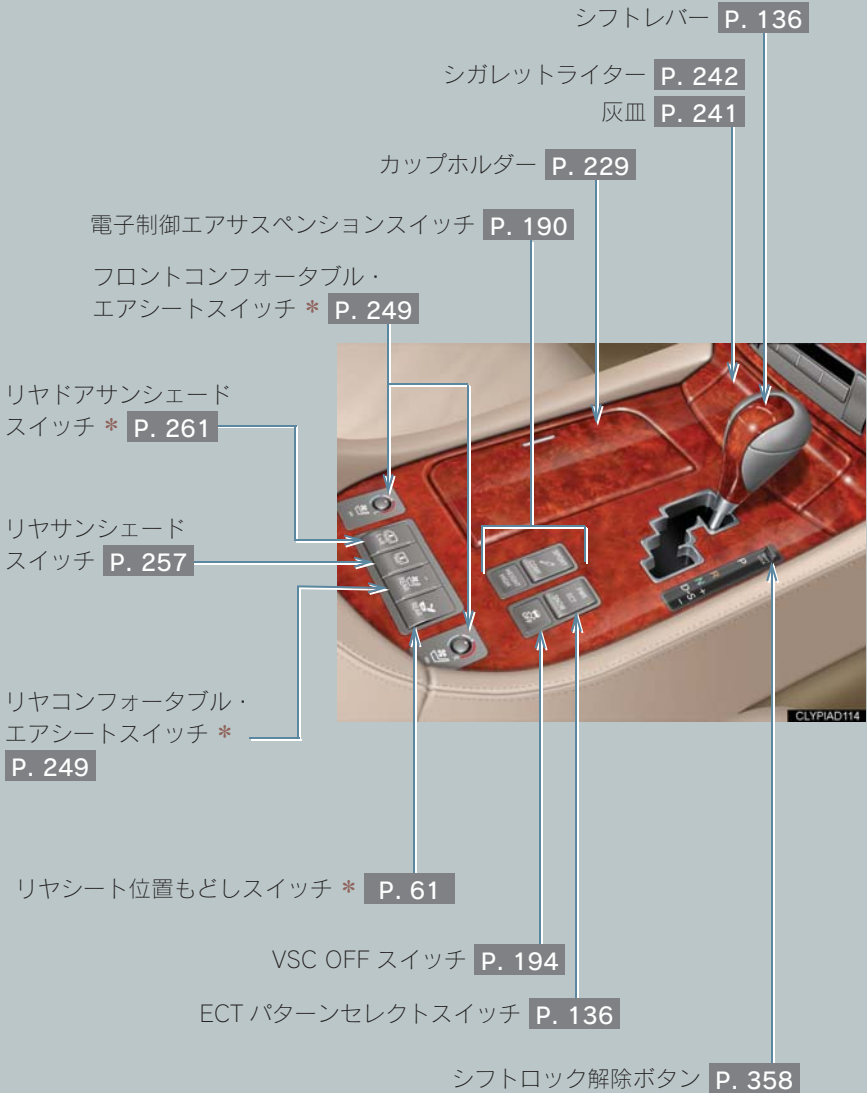
ウインドウロックスイッチ P. 87

ドアロックスイッチ P. 43

パワーウインドウスイッチ P. 87



C



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

イラスト目次

インストルメントパネル

ワイパー&ウォッシャー
スイッチ P. 158

エンジン (イグニッション) スイッチ
P. 132

グローブボックス P. 227

トランクオープナー
メインスイッチ P. 49

メーター P. 146

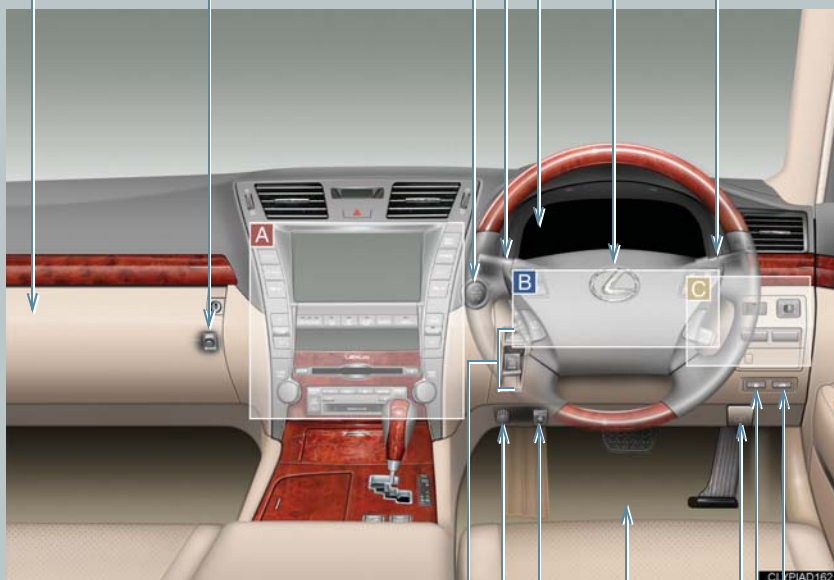
マルチディスプレイ P. 151

ライトスイッチ P. 154

方向指示レバー P. 140

フォグライトスイッチ P. 157

ホーン
P. 145



パーキングブレーキスイッチ P. 141

ブザー音量調整ツマミ P. 33

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチ *
P. 199, 204

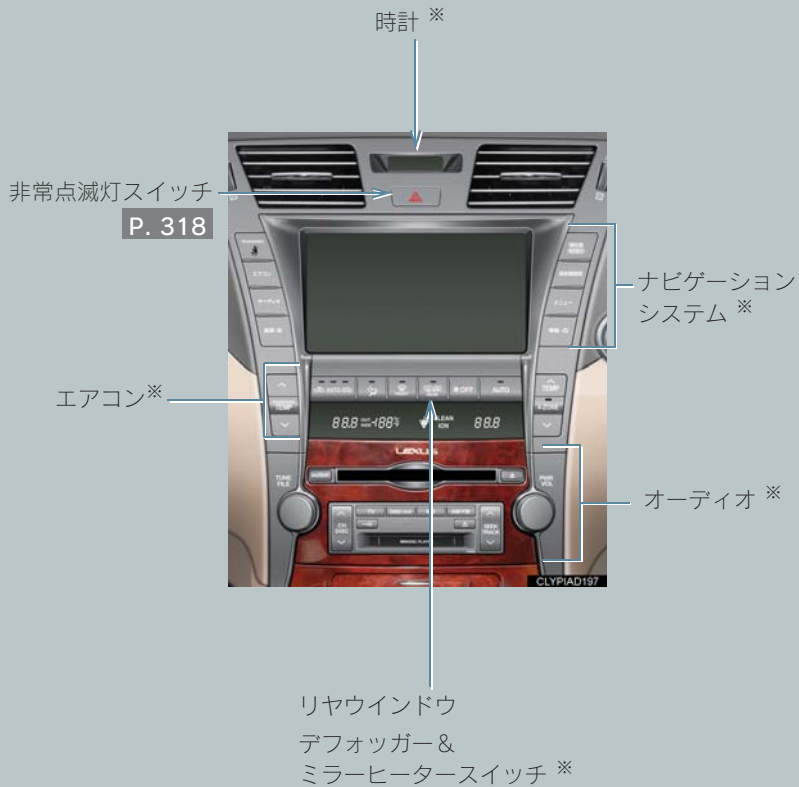
トランクオープナー P. 49

フロアマット
P. 267

ボンネット解除
レバー P. 281

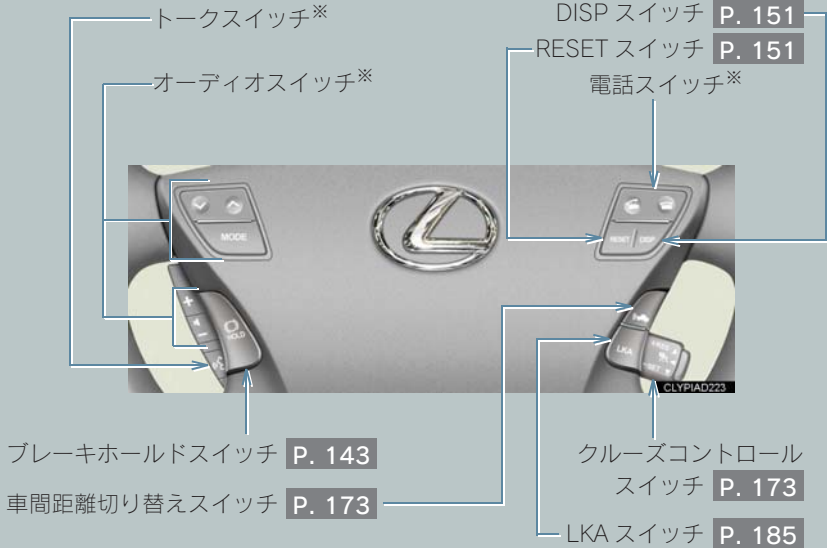
給油口オープナー
P. 94

A

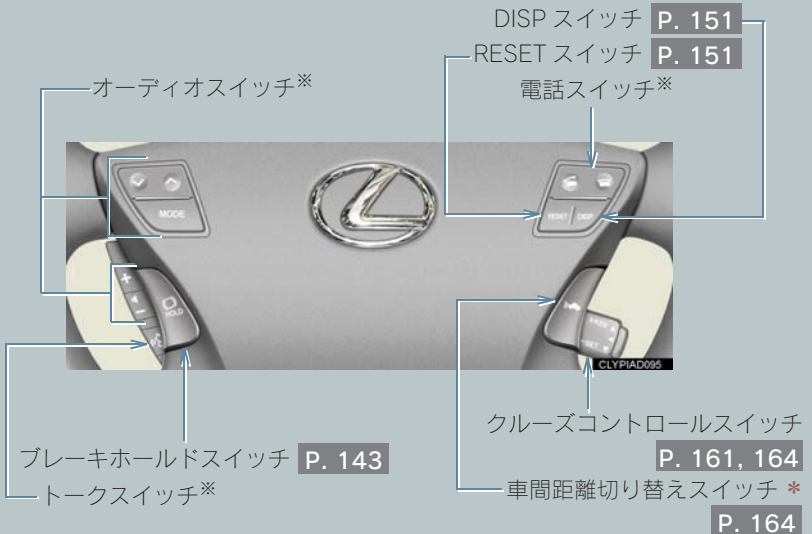


* : グレードなどで異なる装備やオプション装備
※ : 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B ▶ LKA（レーンキーピングアシスト）装着車



▶ LKA（レーンキーピングアシスト）非装着車



C

ドアミラースイッチ P. 84

インストルメントパネル照度調整スイッチ P. 147

ステアリングヒーター
スイッチ * P. 247

クリアランスソナースイッチ※

AFS OFF スイッチ P. 155



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

リヤ席 (5 席車両)

小物入れ P. 236

クールボックス・小物入れ *

P. 232

トランクスルー機構 *

P. 264

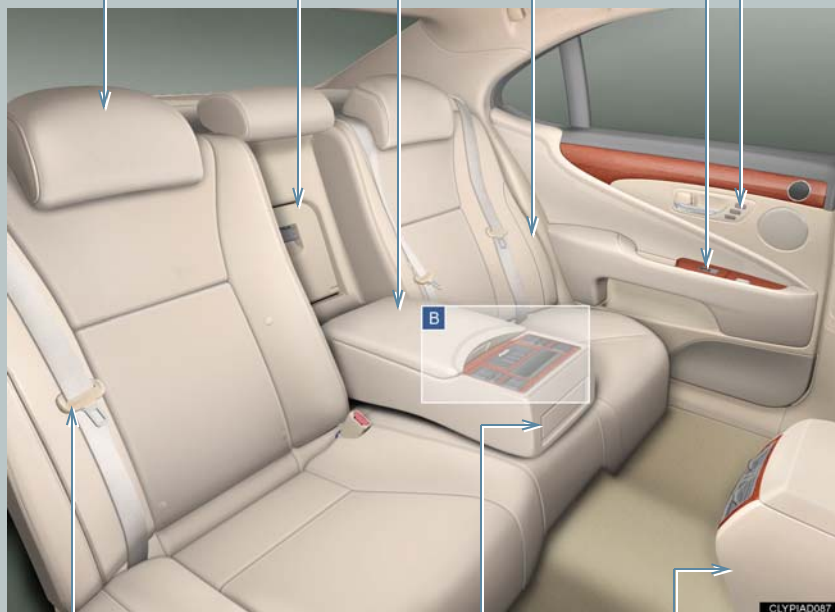
ヘッドレスト P. 74

A

シートポジションメモリー
スイッチ * P. 72

パワーウィンドウ
スイッチ P. 87

SRS サイドエアバッグ *
P. 105



シートベルト P. 77

カップホルダー P. 229

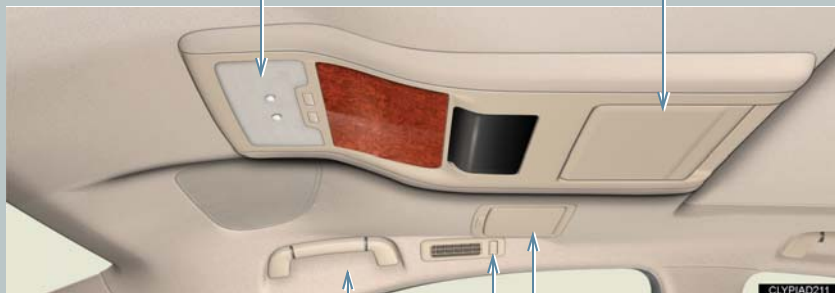
シガレットライター P. 242

A

インテリアライト **P. 223**

パーソナルライト **P. 223**

後席 9 型ワイドディスプレイ※



SRS カーテンシールド
エアバッグ **P. 105**

バニティーミラー **P. 239**

コートフック **P. 266**

B

パワーシート
スイッチ * **P. 60**

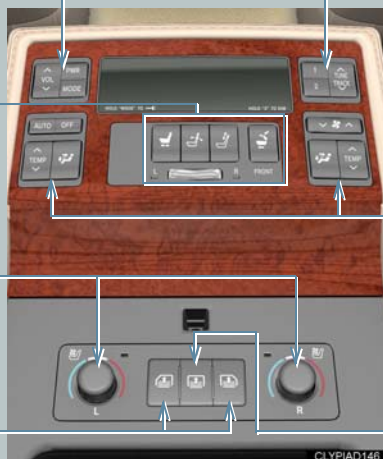
リヤオーディオスイッチ※

コンフォータブル・
エアシートスイッチ*
P. 249

リヤエアコンスイッチ※

リヤドアサン
シェードスイッチ *
P. 261

リヤサンシェード
スイッチ **P. 257**



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

※ : 別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

イラスト目次

リヤ席 (4 席車両)

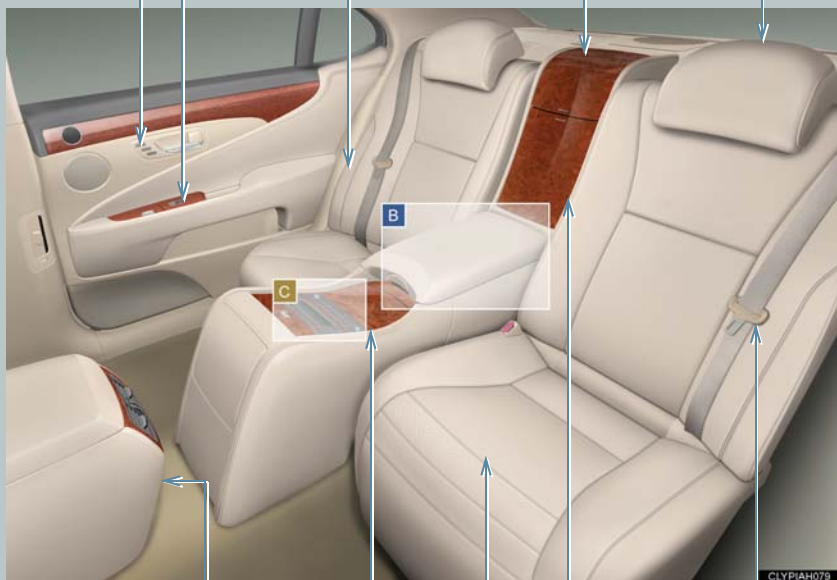
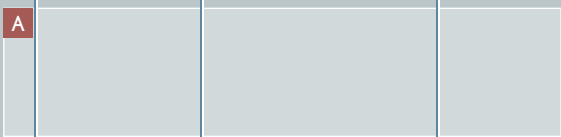
シートポジションメモリスイッチ P. 72

DVD プレイヤー※
ヘッドフォン端子※

パワーウィンドウ
スイッチ P. 87

SRS サイド
エアバッグ P. 105

ヘッドレスト P. 74



アクセサリコンセント P. 244

カップホルダー P. 229

SRS シートクッションエアバッグ P. 105

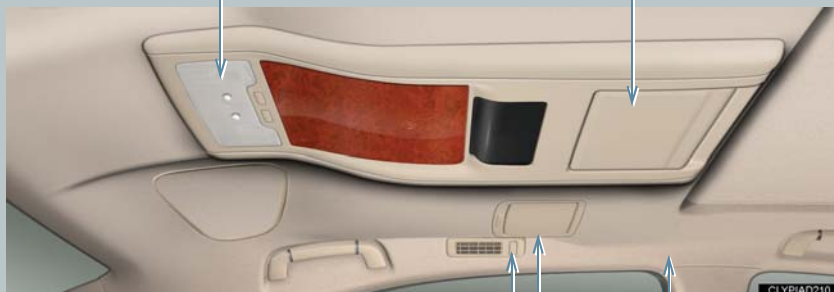
小物入れ P. 236

シートベルト P. 77

A

インテリアライト P. 223
パーソナルライト P. 223

後席 9 型ワイドディスプレイ[※]



コートフック P. 266
バニティーミラー P. 239

SRS カーテンシールド
エアバッグ P. 105

[※]：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

B

アクセサリソケット P. 244

入力端子※

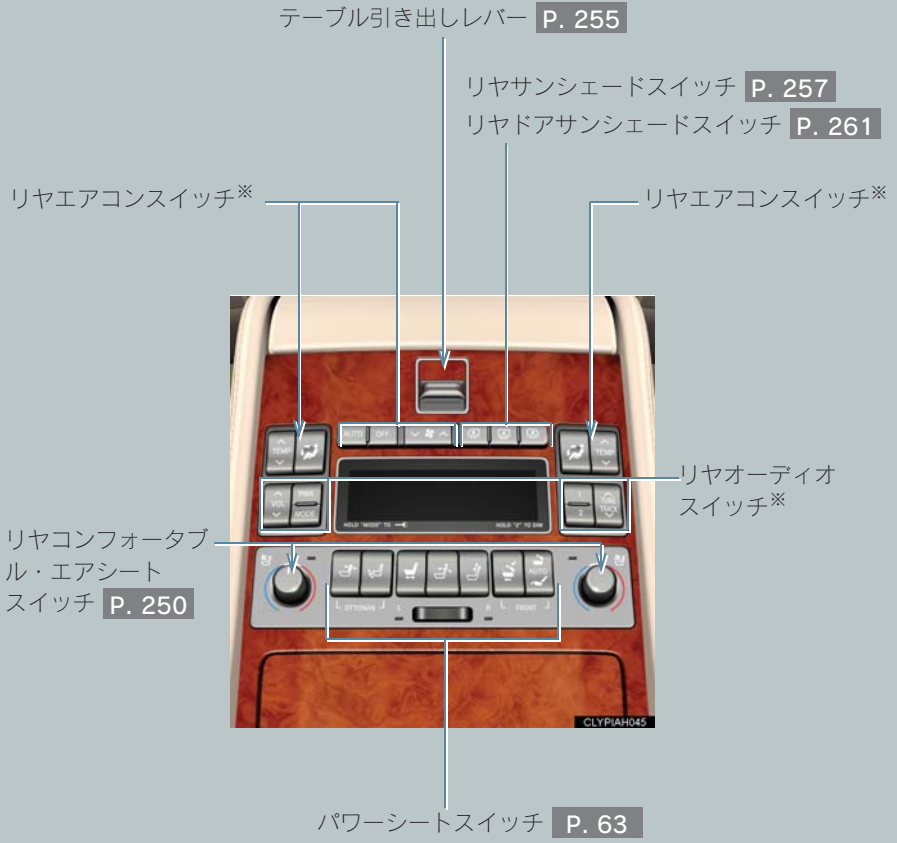
リヤシートリラクゼーション
システムコントローラー P. 253



後席ディスプレイリモコン※

クールボックス・小物入れ P. 232

C



※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備や色と一致しない場合があります。

違法改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違法改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはSRSエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。
 - ・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、違法改造になることがあります。
 - ・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。
- フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界を妨げるばかりでなく、違法改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまをのせるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまをのせる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 115)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています。)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

注意

ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

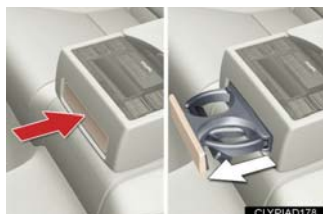
機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について





セーフティーシンボル

“してはいけません” “このようにしないでください” “このようなことを起こさないでください” という意味を表しています。



操作を示す矢印

 スイッチなどの操作（押す、まわすなど）を示しています。

 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に

1

- 1-1. キーの取扱い
 - キー 26
- 1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた
 - スマートエントリー&スタートシステム 30
 - ワイヤレスリモコン 41
 - ドア 43
 - トランク 49
- 1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた
 - フロントシート 55
 - パワーリヤシート (5 席車両) 60
 - パワーリヤシート (4 席車両) 63
 - ドライビングポジションメモリー (運転席) 67
 - シートポジションメモリー (助手席) 70
 - リヤシートポジションメモリー 72
 - ヘッドレスト 74
 - シートベルト 77
 - ハンドル 82
 - インナーミラー 83
 - ドアミラー 84
- 1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方
 - パワーウインドウ 87
 - ムーンルーフ 90
- 1-5. 給油のしかた
 - 給油口の開け方 94
- 1-6. 盗難防止システム
 - エンジンイモビライザーシステム 98
 - オートアラーム 99
- 1-7. 安全にお使いいただくために
 - 正しい運転姿勢 104
 - SRS エアバッグ 105
 - チャイルドシートの取り付け 115

キー

お客様へ以下のキーをお渡しします。



1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 30)
- ・ ワイヤレス機能の作動 (→P. 41)

2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

■ カードキー



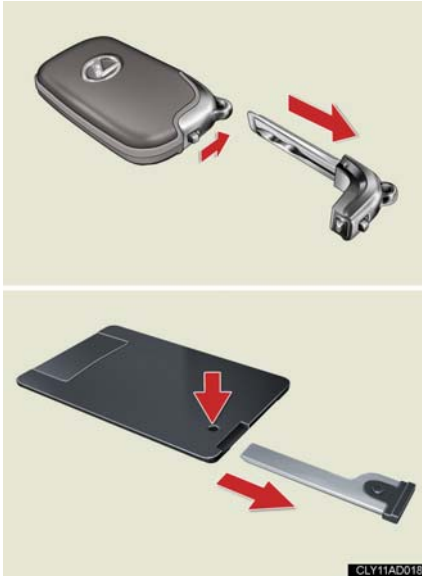
1 電子キー

- ・ スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 30)

2 メカニカルキー

カードキーには、使用方法などが記されたインフォメーションカードが同封されています。カードキーとともに携帯していただくことをおすすめします。

メカニカルキーを使うには



メカニカルキーを取り出す

メカニカルキーは差し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに差し込めないときは、キー溝面の向きをかえて差し込んでください。

使用後は元にもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 364)

1

運転する前に

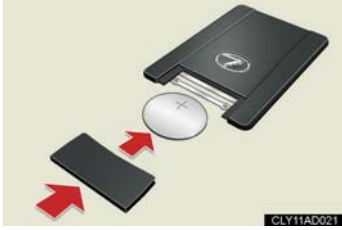
知識

■ カードキーについて

- カードキー内蔵のメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時のみ使用してください。
- メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。



- メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



- 電池カバーがはずれたときや濡れたときに電池をはずした場合は、電池の+極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。

● カードキーは非防水です。

■ 駐車場などでキーを預けるときは

必要に応じてトランクオープナーのメインスイッチを OFF にして、グローブボックスとトランクスルードアを施錠します。(→P. 49, 227, 264)
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■ キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所(財布の中など)に保管してください。万一メカニカルキーを紛失した場合、レクサス販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。(→P. 363)

■ 航空機に乗るときは

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

⚠ 注意

■ キーの故障を防ぐために

以下のことをお守りください。

- 落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない
- 温度の高いところに長時間放置しない
- 濡らしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない
- キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近づけたりしない
- 分解しない
- テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

 注意

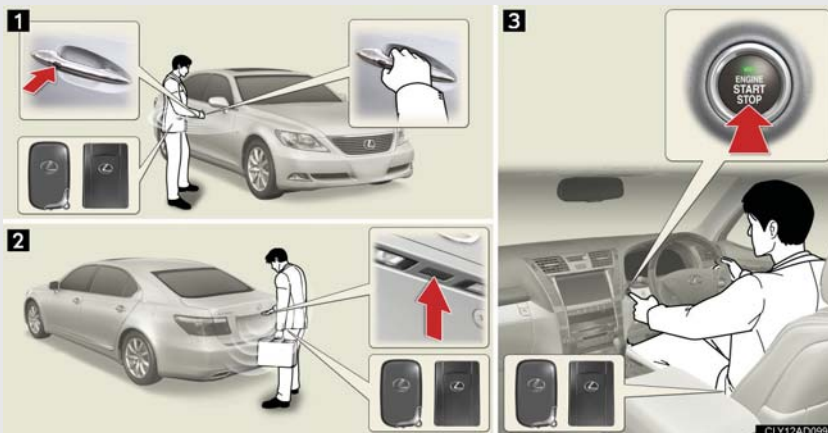
■ カードキー取り扱いの注意

- メカニカルキーをカードキーに差し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。
- 電池やカードキーの電極が濡れた場合は、電池が腐食するおそれがあります。水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分を拭き取ってください。（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください。）電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。
- 電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷をつけたりするおそれがあります。
- 電池カバーを頻繁に取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。
- 電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。
- 以下のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷をつけたり塗装がはがれたりするおそれがあります。
 - ・ 小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき
 - ・ シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき
 - ・ シンナーやベンジンでカードキーの表面を拭いたとき

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた スマートエントリー&スタートシステム

電子キー（カードキーを含む）をポケットなどに携帯するだけで以下の操作がおこなえます。

（必ず運転者が携帯してください。）



1 ドアの施錠・解錠 （→P. 31）

2 トランクの解錠 （→P. 31）

3 モードの切り替え、エンジンの始動 （→P. 132）

ドアの解錠・施錠



ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実に触れてください。

施錠したあと3秒間は解錠できません。



ロックスイッチを押して施錠する

長押しするとドアガラスが閉まります。
ムーンルーフ装着車は、ムーンルーフも閉まります。

トランクを開ける

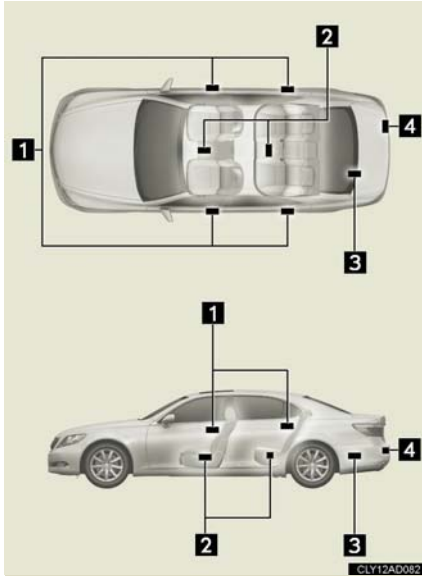


スイッチを押す

パワートランクリッド装着車の場合は自動で全開します。

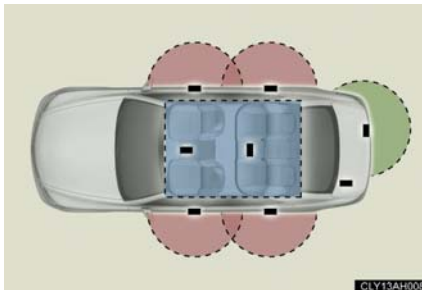
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置



- 1 車外アンテナ
- 2 車内アンテナ
- 3 トランク内アンテナ
- 4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）



- : ドアの施錠・解錠時
ドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。(電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します。)
- : トランクの解錠時
トランクオープンスイッチから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。
- : エンジン始動時またはモード切り替え時
車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。(施錠は 1 回、解錠は 2 回)

トランク：ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする時、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ ブザーの音量調整

作動の合図のときに鳴るブザーや半ドア警告ブザーはお好みの音量に調整できます。



1 音量大

2 音量小

いっぱいまでまわすと音を消すことができます。

■ 機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、エンジンイモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法：→P. 364)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所に置いたとき
- 無線機や携帯電話、コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき




- 電子キーが、以下のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
 - ・ アルミ箔などの金属の貼られたカード
 - ・ アルミ箔を使用したたばこの箱
 - ・ 金属製の財布やかばん
 - ・ 小銭
 - ・ カイロ
 - ・ CD や DVD などのメディア
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 近くでほかの電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき
- 電子キーを、以下のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
 - ・ ほかの車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
 - ・ パソコンや携帯情報端末（PDA など）
 - ・ デジタルオーディオプレーヤー
 - ・ ポータブルゲーム機器
- リヤガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

■ 解錠ドアの切替機能

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー&スタートシステムで解錠できるドアの設定を切り替えることができます。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする。


手順 2 オートアラームの侵入センサーを停止する。（操作中のオートアラーム誤作動防止）（→P. 99）

手順 3 キー表面のインジケーターが点滅していないのを確認後  ボタンと同時に、 または  のいずれかを約 5 秒間押し続ける。

操作をおこなうごとに次の表のように設定が切り替わります。（続けて切り替え操作をおこなう場合は、ボタンから手をはなした後 5 秒以上間隔をあけてから手順 3 をおこなってください。）

マルチディスプレイ表示	解錠できるドア	ブザー音
	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（3回） 車内：“ポーン”（1回）
	握ったドアハンドル側の前後席を解錠	車外：“ピピッ”（4回） 車内：“ポーン”（1回）
	握ったドアハンドルのドアのみ解錠	車外：“ピピッ”（1回） 車内：“ポーン”（1回）
	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠	車外：“ピピッ”（2回） 車内：“ポーン”（1回）

手順 4 ワイヤレスリモコンでドアを解錠し、いずれかのドアを開ける。

 ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。（→P. 99）

■ 節電機能

電子キーの電池と車のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー&スタートシステムを停止します。

- 1ヶ月以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった
- 車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかをおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムが復帰します。

- 電子キーを携帯し、ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレスリモコンで施錠・解錠する（→P. 41）
- メカニカルキーで施錠・解錠する（→P. 364）

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は1～2年です。(カードキーは1年半程度で消耗します。)
- 電子キーは常に電波を発信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しなかったり作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。(→ P. 314)
- 電池の著しい消耗を防ぐために以下のような磁気を発生する電化製品の1m以内に電子キーを置かないでください。
 - ・ TV
 - ・ パソコン
 - ・ 携帯電話やコードレス電話機、および充電器
 - ・ 電気スタンド
 - ・ 電磁調理器

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車に近づけすぎないようにしてください。

作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。)

■G-Link サービス (ご契約のお客様のみ)

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れ・ドアガラスの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを、携帯電話などへメールでお知らせすることができます。また携帯電話からリモート操作機能*を使用して、ドアの施錠やドアガラスの全閉、非常点滅灯の消灯を操作できます。
- うっかり通知・リモート操作機能は車内の電子キーの検知を利用しています。そのためスマートエントリー&スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知・リモート操作機能が正しく働かないことがあります。

詳しくは別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link サービス /G-Security」をご覧ください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ ご注意いただきたいこと

- 電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。
 - ・ ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
 - ・ トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近づきすぎた場合
 - ・ エンジン始動時またはモード切り替え時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤシート後方のパッケージトレイ上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合
- 電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。
- 車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。
- 洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、電子キーが作動範囲内にある場合ドアが解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます。）
- 手袋を着用していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。
- 車に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレスリモコンなどで施錠をおこなうと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。（ワイヤレスリモコンを使って解錠すると復帰します。）
- 急なドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ急に入ってドアハンドルを操作したときは、解錠されない場合があります。その場合は、ドアハンドルを一度元の位置にもどし、解錠されたことを確認してからドアハンドルを引いてください。

■ 長期間運転しないときは

盗難防止のため、電子キーを車から 2 m 以上離しておいてください。

■ 解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ 警告音と警告表示について

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、マルチディスプレイに警告が表示されることがあります。以下の対処方法にしたがい適切に対処してください。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出した後、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じてください。
車外から“ピー”と 60 秒間鳴る	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、再度施錠してください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めた後、再度施錠してください。
車内から“ポーン、ポーン”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードにした（アクセサリモードのとき運転席ドアを開いた）	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

警告音	状況	対処方法
車内から“ピー”と鳴り続ける※ ¹	“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON またはアクセサリーモードのとき、シフトレバーを P 以外の位置にしたままドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P に入れ、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてください。
車内・車外から“ピー”と鳴り続ける※ ¹	“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON またはアクセサリーモードのとき、シフトレバーを P 以外の位置にしたまま電子キーを持ち出して運転席ドアを閉めた	シフトレバーを P に入れ、“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください。
車内から“ポーン”と1回鳴る※ ¹	電子キーの電池が残り少ない	電子キーの電池を交換してください。
	電子キーを携帯していないか、電子キーが正常に作動しない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯してエンジンをかけてください。※ ²
車内から“ポーン”と1回鳴る 車外から“ピー、ピー、ピー”と3回鳴る※ ¹	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にせずに電子キーを外に持ち出して運転席ドアを閉めた	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後、再度運転席ドアを閉めてください。
	“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF になっていないときに、同乗者が電子キーを持ち出してドアを閉めた	キーを車内にもどしてください。

※¹ メーター内のマルチディスプレイに警告メッセージが表示されます。

※² 電子キーが車内にあってもエンジンが始動しない場合は、電池が切れているか電波の状況が悪い可能性があります。(→P. 33)

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

- ドア・トランクの施錠、解錠：→P. 364
- エンジン始動：→P. 365

■ 電池が切れたときは

→P. 314

■ 販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。
(カスタマイズ一覧 →P. 383)



警告

■ 電波がおよぼす影響についての警告

- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナから約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ワイヤレスリモコン

車外からドアを施錠・解錠、トランクを解錠できます。



- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラスが閉まる（長押し）
ムーンルーフ装着車は、ムーンルーフも閉まります。
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラスが開く（長押し）
ムーンルーフ装着車は、ムーンルーフも開きます。
- 5 トランク解錠（長押し）
パワートランクリッド装着車：
トランクが開く（長押し）

知識

■ 作動の合図

ドア：ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。
（施錠は1回、解錠は2回）

トランク：ブザーで知らせます。

ドアガラス・ムーンルーフ：ブザーで知らせます。

■ 半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとする時、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■ ブザーの音量調整

作動の合図のときに鳴るブザーや半ドア警告ブザーはお好みの音量に調整できます。
（→P. 33）

■ オートアラームについて

ワイヤレスリモコンで施錠するとオートアラームが設定されます。（→P. 99）

■ **G-Link サービス（ご契約のお客様のみ）**

うっかり通知機能によって、施錠のし忘れ・ドアガラスの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを、携帯電話などへメールでお知らせすることができます。また携帯電話からリモート操作機能*を使用して、ドアの施錠やドアガラスの全閉、非常点滅灯の消灯を操作できます。詳しくは別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link サービス /G-Security」をご覧ください。

■ **電池の消耗について**

→P. 36

■ **解錠操作のセキュリティ機能**

→P. 38

■ **ワイヤレスリモコンが正常に作動しないときは**

● ドア・トランクの施錠、解錠：→P. 364

● エンジン始動：→P. 365

■ **電池が切れたときは**

→P. 314

■ **機能が正常に働かないおそれのある状況**

→P. 33

■ **販売店で設定可能な機能**

トランク解錠操作の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧 →P. 383）

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた ドア

スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 31

■ ワイヤレスリモコン

→P. 41

■ ドアロックスイッチ



1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー



1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開きます。

キーを使わずに車外から運転席ドアを施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリまたはイグニッション ON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

チャイルドプロテクター



施錠側になると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

オートドアロック・アンロック機能

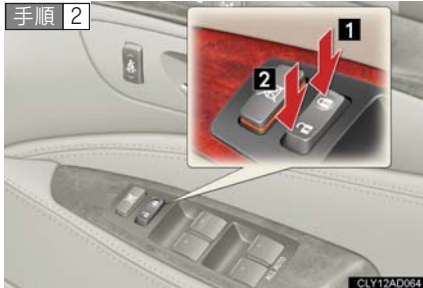
以下の機能を設定・解除することができます。

機能	作動内容
シフト連動オートロック	エンジン回転中にシフトレバーを P から動かすと全ドアが施錠されます。
シフト連動オートアンロック	シフトレバーを P に入れると全ドアが解錠されます。
車速感応オートロック	速度が 20 km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
運転席ドア連動オートアンロック	“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてから 10 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

■ 設定・解除のしかた

以下の手順で、各機能の設定と解除が交互に切り替わります。

手順 1 すべてのドアを閉め、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにする(その後20秒以内に手順2をおこなう。)



シフトレバーをPまたはNに入れ、運転席ドアロックスイッチの**1**または**2**を約5秒間押しはなす。

設定または解除をおこなう機能によってシフトレバーとスイッチの位置を以下の表から選択します。

機能	シフトレバーの位置	スイッチの位置
シフト連動オートロック	P	1
シフト連動オートアンロック		2
車速感応オートロック	N	1
運転席ドア連動オートアンロック		2

設定または解除の切り替え操作が完了すると、すべてのドアが施錠された後、解錠されます。

1

運転する前に

 知識

■ **チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方**

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

■ **衝撃感知ドアロック解除システム**

車が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の形態によっては作動しないことがあります。

■ **イージークローザー**

ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。

- “エンジンスタートストップ” スイッチがどのモードであっても、イージークローザーは作動します。
- 車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアレバーや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。(ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。)
- イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、異常ではありません。

■ **販売店で設定可能な機能**

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧→ P. 383)

⚠ 警告

■ 事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- シートベルトを必ず使用する
- すべてのドアを施錠する
- すべてのドアを確実に閉める
- 走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
 ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。
- お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ ドアを開閉するときは

傾斜地、ドアと壁などの間が狭い場所、強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ イージークローザーについて



- ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが動き自動で完全に閉まります。指などを挟まないよう十分注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 半ドア状態からイージークローザーが作動するまでに数秒かかります。指などをドアの間に挟まないでください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- ロックレバーやチャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、イージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。



■ **イージークローザーの故障を防ぐために**

頻繁にドアの開閉を繰り返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

1-2. ドア・トランクの開閉のしかた、ロックのしかた トランク

トランクオープナーやスマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

■ 車内からトランクを開けるには



トランクオープナースイッチを押して、トランクのロックを解除する

パワートランクリッド装着車の場合
は自動で全開します。

■ 車外からトランクを開けるには

▶ スマートエントリー&スタートシステム

→P. 31

▶ ワイヤレスリモコン

→P. 41

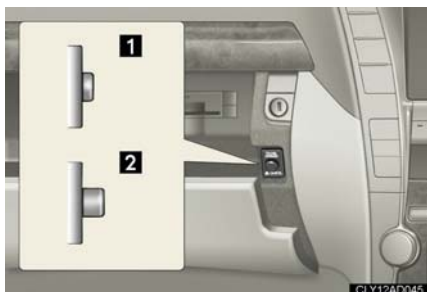
トランククローザー（パワートランクリッド装着車）



スイッチを押すとブザーが鳴り、トランクが自動で閉まります。

トランクが閉まる途中でスイッチを押すと、トランクは再び開きます。

トランクオープナーを使用できなくするには



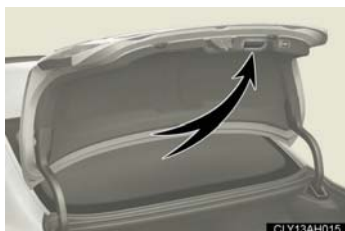
グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

- 1 ON
- 2 OFF

ワイヤレスリモコン、スマートエントリー&スタートシステムでも、トランクが開かなくなります。

知識

■ トランクグリップ



トランクを引き下げるときにお使いください。

■ イージークローザー

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働きトランクが自動で閉まります。

- “エンジンスタートストップ” スイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- イージークローザーが作動しないときには、トランクを一旦半分以上開けてから、再度閉めてください。

■ トランク内キー閉じ込み防止機能について（すべてのドアが施錠されている場合）

トランク内に電子キーを置いたままトランクリッドを閉めると、警告音が鳴ります。この場合はトランクリッドの解除スイッチで開けられます。

■ 過負荷防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドの上に無理な力がかかっていると作動しません。

■ 落下防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドが自動で開くときに無理な力がかかると、トランクリッドが急激に落下しないようにブレーキをかけます。

■ 挟み込み防止機構（パワートランクリッド装着車）

トランクリッドが閉まる途中で異物を挟むと、作動が停止し、開きます。

■ 販売店で設定可能な機能

パワートランクリッドを非作動にすることができます。
（カスタマイズ一覧→ P. 383）

⚠ 警告**■ 走行中の警告**

- 走行中はトランクを閉じてください。

開けたまま走行すると、トランクが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

- 走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

■ お子さまをのせているときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

警告

■ トランクの使用にあたって

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
トランクが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。



- 半開状態で使用すると、トランクが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。



- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。
- トランクは必ず外からトランク上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けしないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

警告

■ イージークローザーについて



トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクの間に挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■ パワートランクリッドについて

パワートランクリッドの操作時は、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身の回りの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。
- 人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- トランクが自動で開いている途中でパワートランクリッドスイッチを押すと、作動が停止します。坂道などの傾斜地では、停止させたとき急に開いたり閉じたりするおそれがあるため、十分注意してください。
- 傾斜した場所では、開いたあとにトランクが落ちる場合があります。トランクは必ず全開で静止していることを確認して使用してください。
- 次のような場合、システムが異常と判断し自動作動が停止することがあります。手動作動に切り替わり、急にトランクリッドが落ちるなどして思わぬ事故につながるおそれがあるため、十分に注意してください。
 - ・ 自動作動中、障害物に干渉したとき
 - ・ エンジン停止時でパワートランクリッドが自動作動しているときに、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたりエンジンを始動したりして、バッテリー電圧が急に低下したとき
- トランクリッドにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を取り付けないでください。自動で作動できずにパワートランクリッドが故障したり、開いたあとに落ちるおそれがあります。



警告

■ 挟み込み防止機能（パワートランクリッド装着車）

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- 挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、トランクが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。
- 挟み込み防止機構は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。



注意

■ イージークローザーの故障を防ぐために

イージークローザーの作動中はトランクに無理な力をかけないでください。

■ パワートランクリッドの故障を防ぐために

- パワートランクリッドを作動させる前に、トランクリッドの上に雪や氷などの荷物が乗っていないことを確認してください。また、凍結によるトランクの貼り付きがないことを確認してください。トランクリッドに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。
- パワートランクリッドの作動中は、トランクリッドに無理な力をかけないでください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた フロントシート

運転席

助手席

CLY14AH003

- 1 前後位置調整
運転席はシートの動きに合わせてヘッドレストの高さも自動で調整されます。
- 2 リクライニング調整
- 3 ヘッドレストの上下調整 (→ P. 74)
- 4 クッション前端の上下調整
- 5 シート全体の上下調整
- 6 腰部硬さ調整 (ランバーサポート)
運転席：硬さと上下の調整
助手席*：硬さの調整
- 7 クッションの長さ調整*

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

助手席側面スイッチ



● リクライニング

1 前

可倒ヘッドレスト装着車：“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのときはリクライニング後、ヘッドレストが上昇したのち前倒しになります。作動が完了するとブザーが鳴ります。作動の途中でスイッチから手をはなすと、ヘッドレストは中立位置にもどります。

2 後ろ

可倒ヘッドレスト装着車：“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのときにヘッドレストが前倒しになっていると、中立位置までもどります。

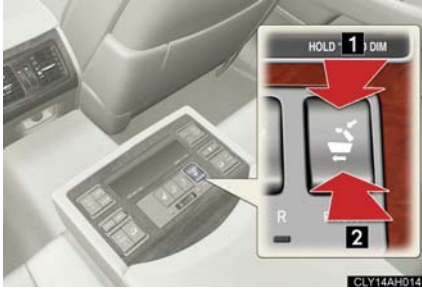
● 前後位置

3 前

4 後ろ

リヤ席からの助手席操作について*

▶ 5 席車両



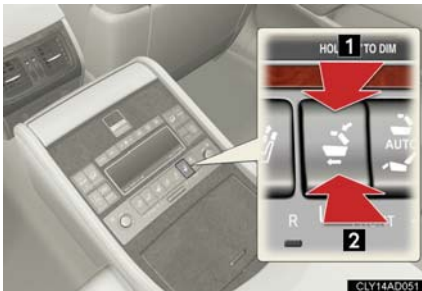
1 助手席を前へ移動

前端位置で作動が止まると、ブザーが鳴ります。

2 助手席を後ろへ移動

ヘッドレストが前倒しになっているときは、ヘッドレストが元にもどり背もたれが中立位置までもどります。

▶ 4 席車両



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 4 席シート車の助手席側面スイッチについて

以下の場合、リクライニングスイッチを操作してもヘッドレストが作動しません。

- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を乗せているときなど、シートが重量を検知しているとき
- 助手席でシートベルトを着用しているとき

■ リヤ席からの助手席操作について

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき使用できます。ただし以下の場合、スイッチを操作しても助手席が作動しません。

- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を乗せているときなど、シートが重量を検知したとき
- 助手席でシートベルトを着用しているとき
- 助手席ドアが開いているときの前方への作動

■ 運転席クッション長さの自動調整*

運転席を前方に調整しているとき、インストルメントパネル周辺にクッションの先端が接触しそうになると、自動的にクッションが短くなるよう調整します。

■ シート作動の自動停止（4 席車両）

フロントシートがテーブルまたはオットマンと接触しそうになると、シートの作動が止まります。（マルチディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

**警告****■ シート調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。

倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫をうけたり肩部ベルトが首にかかるなどして生命に関わる重大な傷害のおそれがあります。

■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について

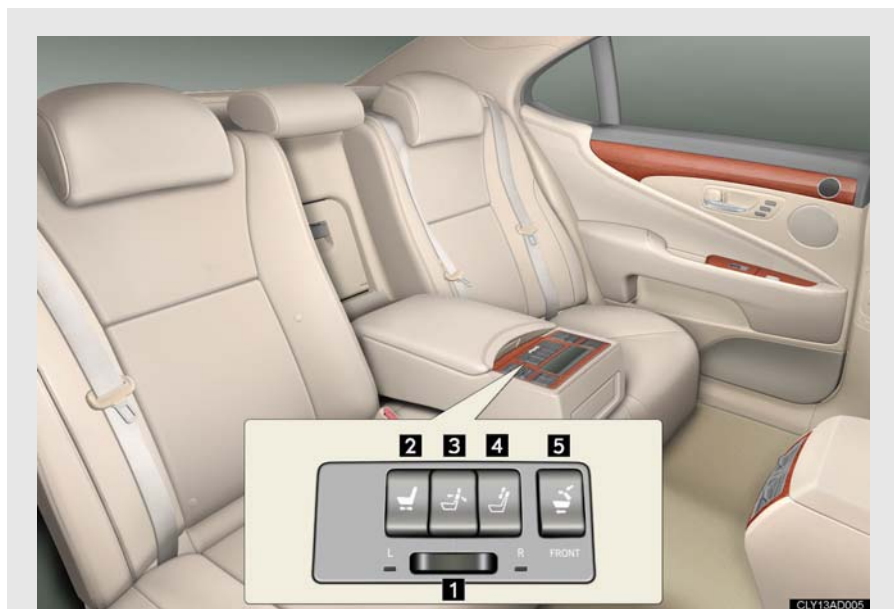
助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。

足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

**注意****■ 運転席またはリヤ席からの助手席操作について**

操作するときは助手席の上や足元に作動を妨げるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた パワーリヤシート（5 席車両）*



1 シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

2 前後位置調整

3 背もたれ上部角度調整

4 ヘッドレスト高さ調整（→P. 74）

5 助手席コントロールスイッチ（→P. 57）

ドア連動シートリターン機能により、ドアを開けると自動的にシートが中立位置にもどり、乗降しやすくなります。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

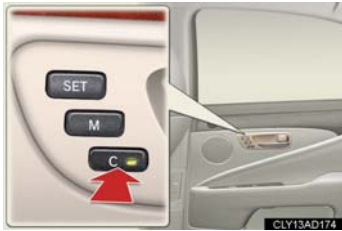
フロント席からリヤシートをもどす



ボタンを押しているあいだ、リヤシートが中立位置へもどります。

知識

■ ドア連動シートリターン機能のキャンセル



C ボタンを押すとドア連動シートリターン機能がキャンセルされ、ドアを開けてもシートがもどらなくなります。

キャンセル中はインジケータが点灯します。ドアと連動させるにはもう一度 C ボタンを押します。

次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。

- SET・M・C ボタンのいずれかを押す。
- シート調整スイッチのいずれかを押す。

■ “エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にした後約 45 秒間は、ドア連動シートリターン機能が作動します。



■ **シート調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫をうけたり肩部ベルトが首にかかるなどして生命に関わる重大な傷害のおそれがあり危険です。

■ **前後調整をするときは**

足元のスペースを確保し足をフロント席に挟まないように注意してください。

■ **フロント席からリヤシートをもどすときは**

リヤ席の乗員が車をおりてから操作してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた パワーリヤシート（4席車両）

1

運転する前に



リヤ左席（助手席後ろ側の席）には、リクライニング機能とオットマン（フットレスト）を備えたリラクゼーションシートが装備されています。

1 シート選択

調整できるシートのインジケーターが点灯します。

2 前後位置調整

3 背もたれ上部角度調整

4 ヘッドレスト高さ調整（→P. 74）

5 リクライニング調整

6 オットマン（フットレスト）角度調整

7 助手席コントロールスイッチ

8 リラクゼーションモードスイッチ

ドア連動シートリターン機能により、ドアを開けると自動的にシートが中立位置にもどり、乗りおりしやすくなります。

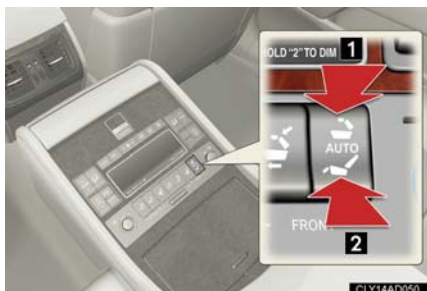
フロント席からリヤシートをもどす



ボタンを押しているあいだ、リヤシートが中立位置へもどります。

リラクゼーションモード（リヤ左席）

スイッチ操作で、シートをリラクゼーションモードにすることができます。助手席が前へ移動し、リヤ左席の背もたれとオットマンが同時に作動します。



スイッチを押すとブザーが鳴り、作動を開始します。

- 1 リラクゼーションモードにする
- 2 中立位置にもどす

途中で止めるには、もう一度スイッチのどちらかを押すか、ほかのシート操作スイッチを押してください。

知識

■ リラクゼーションモードについて

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき使用できません。ただし以下の場合、スイッチを押しても作動しません。

- 助手席に乗員がいるときや重い荷物を乗せているときなど、シートが重量を検知したとき
- 助手席でシートベルトを着用しているとき

■ ドア連動シートリターン機能のキャンセル



C ボタンを押すとドア連動シートリターン機能がキャンセルされ、ドアを開けてもシートがもどらなくなります。

キャンセル中はインジケーターが点灯します。ドアと連動させるにはもう一度 C ボタンを押します。

次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。

- S E T ・ M ・ C ボタンのいずれかを押す。
- シート調整スイッチのいずれかを押す。

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動

- “エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後約 45 秒間は、リラクゼーションモードのリターン操作でリヤシートを中立位置にもどせます。
- “エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にした後約 45 秒間は、ドア連動シートリターン機能が作動します。

■ シート作動の自動停止

リヤシートと助手席が接触しそうになると、ブザーが鳴りシートの作動が止まります。



警告

■ シート調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。

必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして生命に関わる重大な傷害のおそれがあり危険です。

■ 前後調整やオットマンの操作をするときは

足元のスペースを確保し足をフロント席に挟まないように注意してください。

■ フロント席からリヤシートをもどすときは

リヤ席の乗員が車をおりてから操作してください。

■ オットマンの使用について

● オットマン部分には座らないでください。

シートベルトが適切に着用できないため、急ブレーキや事故のときに体がシートから投げ出され、重大な傷害を受けたり最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● つまずいてけがをするのを防ぐため、車を乗りおりする際はオットマンを格納してください。



注意

■ オットマンの故障を防ぐために

● 足元のスペースを確保しオットマンの作動を妨げないようにしてください。

● オットマン部分に重いものを乗せないでください。

ドライビングポジションメモリー（運転席）

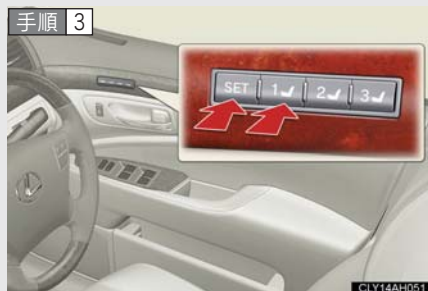
お好みのドライビングポジション（運転席、ハンドルの位置、ドアミラーの角度、シートベルトの高さ）を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。また、ドアの解錠と連動させることもできます。

ドライビングポジションは3パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにする。

手順 2 運転席、ハンドル、ドアミラー角度、シートベルト高さを好みの位置に調整する。



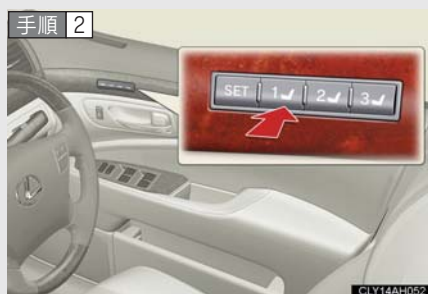
SET ボタンを押した後、3 秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーがPの位置にあることを確認します。

手順 1 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッションONモードにする。



1～3のうち呼び出したいポジションのボタンを押す。

ドアの解錠と連動させるには

お好みのポジションをあらかじめ 1 ~ 3 のいずれかのボタンに登録しておきます。

▶ ワイヤレスリモコンでの登録

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを開める。



1 ~ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの **i** ボタンをブザーが鳴るまで押す。

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

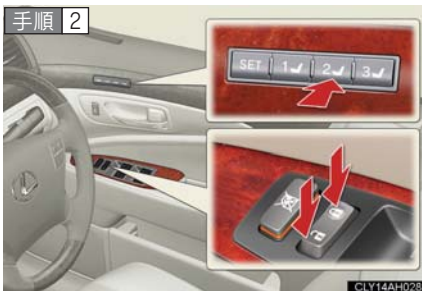
手順 3 いずれかのドアを開ける。

i ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます。
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作をおこなってください。(→P. 99)

▶ ドアロックスイッチでの登録

登録させたいキー（カードキーを含む）のみ携帯してください。車内にキーが2つ以上あると、正確に登録できません。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを開める。




1 ~ 3 のうち連動させたいボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。(運転席側・助手席側のどちらか一方でおこなう)

スマートエントリー&スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠して運転席ドアを開けると、ドライビングポジションが呼び出されます。

 知識

■ ドアの解錠との連動を解除するには

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にし、運転席ドアを閉める。

手順 2 ワイヤレスリモコンで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ワイヤレスリモコンの  ボタンをブザーが鳴るまで押す。

ドアロックスイッチで解除する場合：SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側をブザーが鳴るまで押す。

■ “エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にした後に運転席ドアを開けると、180 秒以内、または再び運転席ドアを閉めて 60 秒以内ならスイッチ操作（1～3）でポジションの呼び出し（ハンドルを除く）ができます。

■ ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1～3 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する（シートのみ作動停止）

■ シート作動の自動停止（4 席車両）

フロントシートがテーブルと接触しそうになると、シートの作動が止まります。（マルチディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

 **警告**
■ シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったり、運転手の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

シートポジションメモリー（助手席）*

お好みの助手席の位置とシートベルトの高さを登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

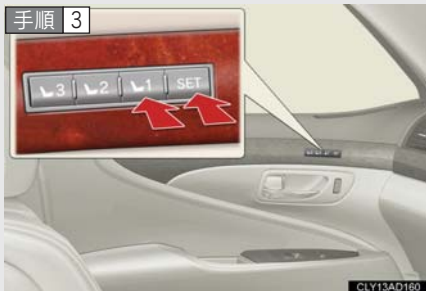
シートポジションは3パターンまで登録できます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2 助手席とシートベルトの高さを好みの位置に調整する。

手順 3

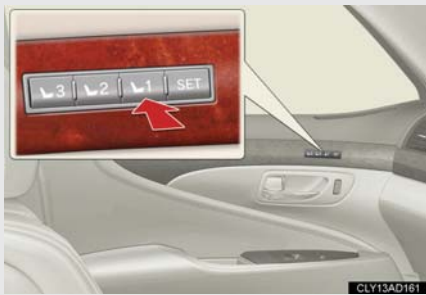


SET ボタンを押した後、3 秒以内に1～3のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し

シフトレバーがPの位置にあることを確認します。



1～3のうち呼び出したいボタンを押す。

4 席車両：オットマン作動時または、後席用テーブル使用時はポジションの呼び出しができません。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識**■ “エンジンスターストップ” スイッチ OFF 後の作動**

“エンジンスターストップ” スイッチを OFF にした後でも、助手席ドアを開けて 180 秒以内ならスイッチ操作（1 ～ 3）でポジションの呼び出しができます。

■ ポジションの呼び出し作動を止めるには

以下のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 ～ 3 のボタンを押す
- シート調整スイッチを操作する

■ シート作動の自動停止（4 席車両）

フロントシートがテーブルまたはオットマンと接触しそうになると、シートの作動が止まります。（マルチディスプレイに警告メッセージが表示されます。）

 **警告****■ シート調整時の警告**

シート調整中は、シートがリヤ席乗員に当たったりしないよう注意してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた

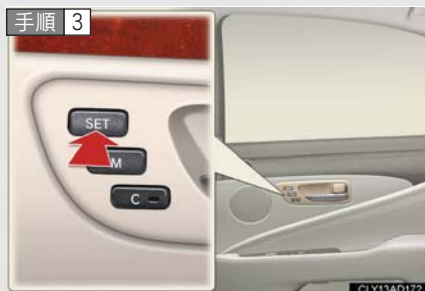
リヤシートポジションメモリー*

お好みのリヤ席の位置を登録して、ワンタッチで呼び出すことができます。

■ ポジションの登録

手順 1 “エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにする。

手順 2 リヤ席を好みの位置に調整する。



SET ボタンをブザーが鳴るまで押す。

すでに登録されている場合は、上書きされます。

■ ポジションの呼び出し



M ボタンをブザーが鳴るまで押す。

4 席車両：オットマンは、上方向には作動しません。呼び出すときの位置よりも下に登録されている場合のみ作動します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ ドア連動シートリターン機能

ドアを開けたときに、シートが自動で中立位置にもどります。“エンジンスターストップ”スイッチを OFF にした後も、45 秒間はドア連動シートリターン機能が作動します。

■ ポジションの呼び出し作動・ドア連動のシートリターン作動のキャンセル



C ボタンを押すと、ポジションの呼び出し作動やドア連動シートリターン機能がキャンセルされます。

キャンセル中はインジケータが点灯します。機能を復帰させるにはもう一度 C ボタンを押します。

次のいずれかの操作でシートのリターン作動が途中で止まります。

- SET・M・C ボタンのいずれかを押す。
- シート調整スイッチのいずれかを押す。

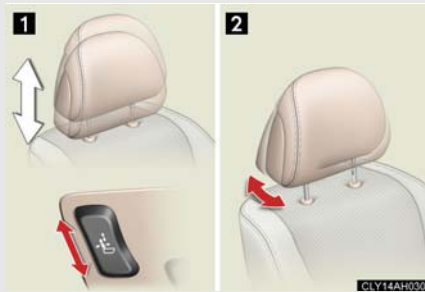
警告

■ シート調整時の警告

シート調整中は、リヤ席乗員がフロントシートに当たらないよう注意してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ヘッドレスト

■ フロント席



1 上下調整

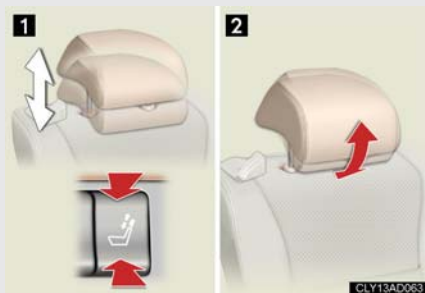
→P. 55

2 前後調整

助手席可倒ヘッドレスト装着車：運転席のみ調整できます。

■ リヤ外側席

▶ 電動式



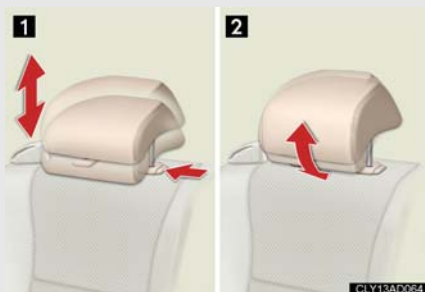
1 上下調整

5 席車両：→P. 60

4 席車両：→P. 63

2 前後調整

▶ 手動式

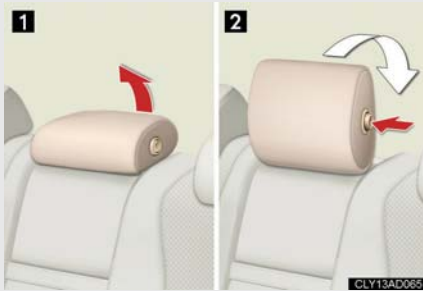


1 上下調整

下げるときは解除ボタンを押しながら調整します。

2 前後調整

■ リヤ中央席（5 席車両）



1 使用時

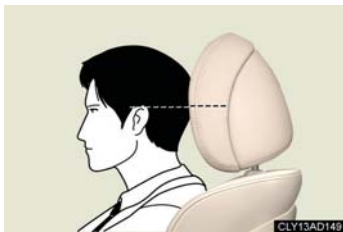
2 格納時

知識

■ ヘッドレストの取りはずしについて

ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはレクサス販売店へご相談ください。

■ ヘッドレストの高さについて（リヤ中央席を除く）



必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。



■ **ヘッドレストについて**

以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには



- 肩部ベルトを肩に十分かける
首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。
- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方



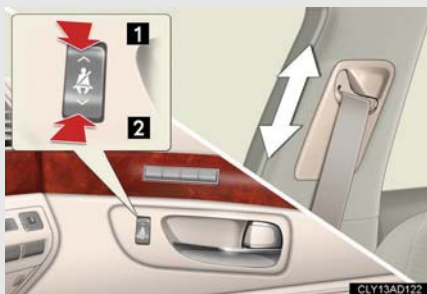
1 固定

“カチツ”と音がするまで差し込みます。

2 解除

解除ボタンを押します。
はずれないときは、ベルトをひき上げながら解除ボタンを押してください。

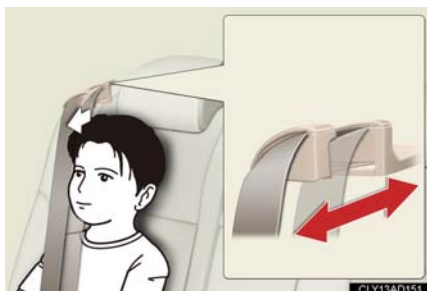
■ シートベルトの高さ調節（フロント席）



1 上がる

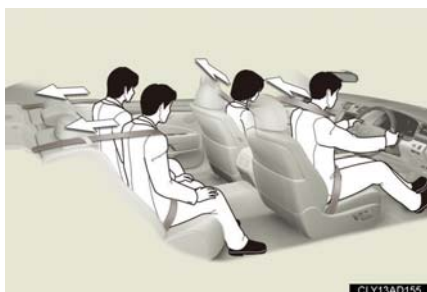
2 下がる

シートベルトコンフォートガイド（リヤ外側席）



肩ベルトが首の近くにかかるときはコンフォートガイドを前方にスライドさせてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席、リヤ外側席）



前方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横や後ろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティシステム装着車フロント席）

レーダーセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻きこみ、より早く乗員を拘束することで衝突の被害を軽減します。

また、急ブレーキをかけたときも作動します。（→P. 198, 203）

知識

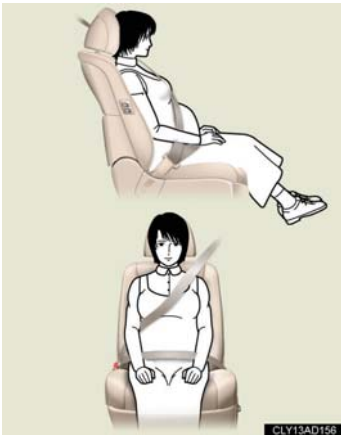
■ 緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ チャイルドシート固定機構付シートベルト

リヤ席の肩部ベルトは、いっぱいまで引き出してからもどすとその位置で固定され引き出せなくなります。これは、チャイルドシートを固定するための機構です。ベルトを一度完全に巻きもどしてからもう一度引き出せば解除できます。(→P. 115)

■ 妊娠中の女性や疾患のあるかたの場合



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。(→P. 77)

妊娠中のかたも、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ お子さまのシートベルトの使い方

シートベルトは、それを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 115)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 77)

■ シートベルト高さの自動調整（運転席・4 席車両の助手席のみ）

調整後のシートベルト高さをドライビングポジションメモリーとシートポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 67, 70)

■シートベルトプリテンショナーについて

- 助手席に乗員がいないと、助手席のシートベルトプリテンショナーは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席のシートベルトプリテンショナーが作動することがあります。
- シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さない
上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■助手席シートベルトプリテンショナーについて

助手席座面には座布団などを敷かないでください。

乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席のシートベルトプリテンショナーが作動しないことがあります。

 **警告****■ シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。
- プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付シートベルトの取り付けや取りはずし、分解、廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ プリテンショナー付シートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、シートベルトがロックされ、引き出すことも巻き取ることもできなくなります。作動後、シートベルトは再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。

■ プリクラッシュシートベルトについて

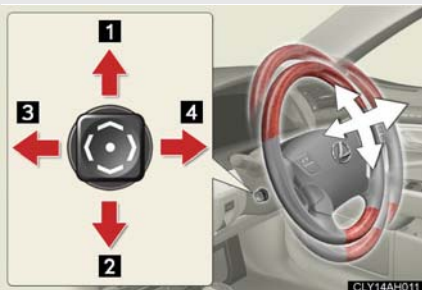
プリクラッシュセーフティシステムを過信しないでください。
運転するときは常に周囲の状況に注意し、進行方向の障害物などを確認して安全運転に心がけてください。

■ チャイルドシート固定機構付きシートベルトについて

お子さまをチャイルドシート固定機構付きシートベルトで遊ばせないでください。誤って作動させ万が一ベルトが首に巻きついた場合、ベルトを引き出すことができなくなり、窒息など重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。万が一誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ハンドル

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき、ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。



- 1 上がる
- 2 下がる
- 3 前方に動く
- 4 手前に動く

オートアウェイ&オートリターン機構



“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にすると、乗降がしやすいようにハンドルが動きます。

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにすると、元の位置にもどります。

知識

■ ハンドル位置の自動調整

お好みのハンドル位置をドライビングポジションメモリーに登録することができます。(→P. 67)

警告

■ 走行中の警告

運転中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤って、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた インナーミラー

自動（AUTO）モードにしておくと、センサーが後続車のライトを感知し、自動で反射光を減少させます。



自動モードの切り替え

自動モードのときはインジケーターが点灯します。

“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにしたときは、ミラーは常に自動モードになっています。

知識

■ センサーの誤作動防止



センサーの誤作動を防ぐため、センサーに触れたりセンサーを覆ったりしないでください。

警告

■ 運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。

運転を誤って、死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

1-3. シート、ハンドル、ミラーの調整のしかた ドアミラー

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリまたはイグニッション ON モードのとき、スイッチで鏡面の角度調整ができます。



- 1 ミラーを選ぶ
(L : 左、R : 右)
- 2 スイッチを操作してミラーの鏡面を上下左右に調整する。

ドアミラーを格納するときは



- 1 格納する
 - 2 元の位置にもどす
- スイッチを中立の位置 (AUTO) にすると自動モードに切り替わり、ドアの施錠・解錠と連動します。

知識

■ ミラーが曇ったときは

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。(別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。)

■ レインクリアリングミラー

雨天時など鏡面に付着した水滴を膜状に広げる(親水効果)ことにより、後方を見やすくします。

■ 次の場合、一時的に親水効果が失われますが、晴天時に太陽光を1・2日間当てると回復します。

- ミラーの汚れを拭き取ったとき
- ミラーが曇ったとき
- 自動洗車機でワックス洗車したとき
- 長期間、地下駐車場など日の当たらない場所に駐車していたとき

■ ミラー角度の自動調整

お好みのミラー角度をドライビングポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P. 67)

■ リバース連動機能

後退時にドアミラーの角度が下向きになり、下方が見やすくなります。ただし、ミラー選択スイッチを中立の位置(L・Rの間)にしておくと、この機能は作動しません。

警告

■ 走行しているときは

走行中は以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、運転を誤って死亡や重大な傷害につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ミラーを格納したまま走らない
必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを元の位置にもどして、正しく調整する

■ ミラーが動いているときは

手を触れないでください。

手を挟んでけがをしたり、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

■ ミラーヒーターが作動しているときは

鏡面が熱くなるので触れないでください。



■ ミラー鏡面が凍結したとき

親水膜の効果を持続させるため、ミラー鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさずに、ミラーヒーターを作動させるか、温水をかけるなどして解氷してください。

1-4. ドアガラス・ムーンルーフの開け方、閉め方 パワーウィンドウ

スイッチでドアガラスを開閉できます。



- 1 閉める
- 2 自動全閉※
- 3 開ける
- 4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。



ロックスイッチ



スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

 知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ドアロック連動ドアガラス開閉機能

- ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーでドアガラスを開閉できます。
(→P. 41, 364)
- スマートエントリー&スタートシステムでドアガラスを閉じることができます。
(→P. 31)

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にした後も、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■ 挟み込み防止機能

ドアガラスを開めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■ G-Link サービス（ご契約のお客様のみ）

うっかり通知機能によって、施錠のし忘れ・ドアガラスの閉め忘れ・非常点滅灯の消し忘れを、携帯電話などへメールでお知らせすることができます。また携帯電話からリモート操作機能*を使用して、ドアの施錠やドアガラスの全閉、非常点滅灯の消灯を操作できます。詳しくは別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link サービス /G-Security」をご覧ください。

■ 販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 383)

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

警告**■ ドアガラスを開閉するときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻きこんだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などをださないよう声かけをしてください。
- お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
ドアガラスに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

ムーンルーフ*

頭上のスイッチでムーンルーフを開閉およびチルトアップ/ダウンできます。

■ 開閉



1 開く

全開の少し手前で止まります。(風切音の低減機能。) さらに開く場合は、スイッチをもう一度押してください。

2 閉まる

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

■ チルトアップ/ダウン



1 チルトアップ

2 チルトダウン

途中で止めるには、スイッチを軽く押します。

□ 知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ ムーンルーフ開警告ブザー

“エンジンスタートストップ”スイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチディスプレイにメッセージが表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能

- ワイヤレスリモコンまたはメカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。
(→P. 41, 364)
- スマートエントリー&スタートシステムでムーンルーフを閉じることができません。(→P. 31)

■ “エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の開閉作動

“エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードまたは OFF にした後約 45 秒間操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しません。

■ 挟み込み防止機能

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

■ 反転して閉じ切らないときは

下記の操作をおこなってください。

● 閉まる時に反転し、閉じ切らない場合

CLOSE 側を押し続ける。※

- ・ スイッチを押し続けているあいだムーンルーフが開閉作動を繰り返します。
- ・ ムーンルーフが全閉したら復帰操作が完了します。

● チルトダウン時に反転し、閉じ切らない場合

手順 1 UP 側を押す。

ムーンルーフをチルトアップ状態にします。

手順 2 スイッチから一度手を離し、もう一度 UP 側を押し続ける。※

- ・ スイッチを押し続けているあいだムーンルーフが開閉作動を繰り返します。
- ・ ムーンルーフが全閉したら復帰操作が完了します。

※ 復帰操作作動中はスイッチを押し続けてください。途中でスイッチから手を離すと最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ サンシェード

手動で開閉できます。ただし、ムーンルーフが開くときは連動して開きます。

■ 販売店で設定可能な機能

ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能などの設定を変更できます。
(カスタマイズ一覧 →P. 383)

警告**■ ムーンルーフを開けているときは**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

■ ムーンルーフを開閉するときには

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、骨折など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。



- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手、腕、頭、首を挟んだり巻きこんだりしないように注意してください。
- お子様には、ムーンルーフの操作をさせないでください。
ムーンルーフに挟まれたり巻きこまれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

1-5. 給油のしかた 給油口の開け方

以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

ドアとドアガラスを閉め、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしてください。

■ 給油口の開け方



スイッチを押す



キャップをゆっくりまわして開ける



キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを開めるときは



キャップを“カチッ”と音がするまでまわして閉めます。

手をはなすと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■ 燃料の種類

無鉛プレミアムガソリン

■ 燃料タンク容量

約 84 L

■ 給油口が車内から開けられないときは



車内のスイッチを押しても給油口が開かないときは、トランク内のレバーを引きます。

 **警告**

■ **給油について**

給油前には以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 車体などの金属部分に触れて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。
- キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開ける
キャップを開けると、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと、気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。
- 給油口に、静電気を除去していない人を近付けない
- 気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。
- 喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。
- 車内にもどったり、帯電している人や物に触れない
再び帯電する可能性があります。

■ **給油時の注意**

- 給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。
- 正常に給油できない場合は、スタンドの係員を呼んで指示にしたがってください。

■ **キャップ交換時の警告**

レクサス純正以外のキャップを使用しないでください。

純正品を使用しないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意****■ 給油するときは**

指定以外のガソリン（無鉛レギュラーガソリン）や他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。



“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

知識

■機能が正常に働かないおそれのある状況

周囲の環境や条件により、エンジンイモビライザーシステムが正常に働かずエンジンが始動できないことがあります。(→P. 33)

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムを無効にするなどの改造や取りはずしをしないでください。お守りいただかないとシステムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

不正な侵入を検知した場合、音と光で警報します。

■ オートアラームが作動するとき

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、キーを使わずに解錠されたり、こじ開けられたとき
 - 施錠時にボンネットが開けられたとき
 - 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）
- ※ G-Link サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合Eメールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書 /G-Link サービス /G-Security」をご覧ください。

■ オートアラームを設定するには



ドア・トランク・ボンネットを閉め施錠します。30秒経過すると自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームの設定を解除・作動を停止するには以下のいずれかをおこなってください。

- ドアまたはトランクを解錠する。
- エンジンを始動する。(数秒後に解除・停止します。)

 注意

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動および盗難を防ぐため、以下のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ*が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームの作動について

次のような場合オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除、作動を停止する操作をおこなってください。

- 車内に残った人が、ドアやトランク、ボンネットを開けたとき
- 施錠後、バッテリーあがりなどでバッテリーの充電や交換をしたとき

■ セキュリティカメラ*



オートアラームが作動するとカメラが車内の様子を撮影します。詳しくは別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書 / G-Link サービス / G-Security」をご覧ください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

侵入センサー

侵入センサーは、車内に不正に入り込んだ侵入者の動きを電波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

車内で動くすべてのものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを停止するには



“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にし、侵入センサー OFF スイッチを押す


メーター内のマルチディスプレイに、侵入センサー停止のメッセージが表示されます。もう一度スイッチを押すと侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを停止してアラームを設定するには、アラームを設定するたびに侵入センサー OFF スイッチを押す必要があります。

知識

■ 侵入センサーの停止・復帰について

- 侵入センサーを停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとに“エンジンスタートストップ”スイッチを押すかスマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによる解錠操作をおこなうと、侵入センサーが復帰します。
- オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサーは復帰します。

 注意

■ 侵入センサーの検知について

次のような場合侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。



- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



- 立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



- 雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



- 霜よけシートが風などで動いたとき

 注意

- マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にあるとき
- ドアガラスやムーンルーフ*などが開いているとき
- 高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき
- ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転ください。



- 1 まっすぐ座り、背もたれから背をはなさない（→ P. 55）
- 2 シートをペダルが十分に踏み込めるようなシート位置にする（→ P. 55）
- 3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする
- 4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 82）
- 5 ヘッドレストの中央が耳のいちばん上の辺りになるようにする（→ P. 74）
- 6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 77）

警告

■ 走行中は

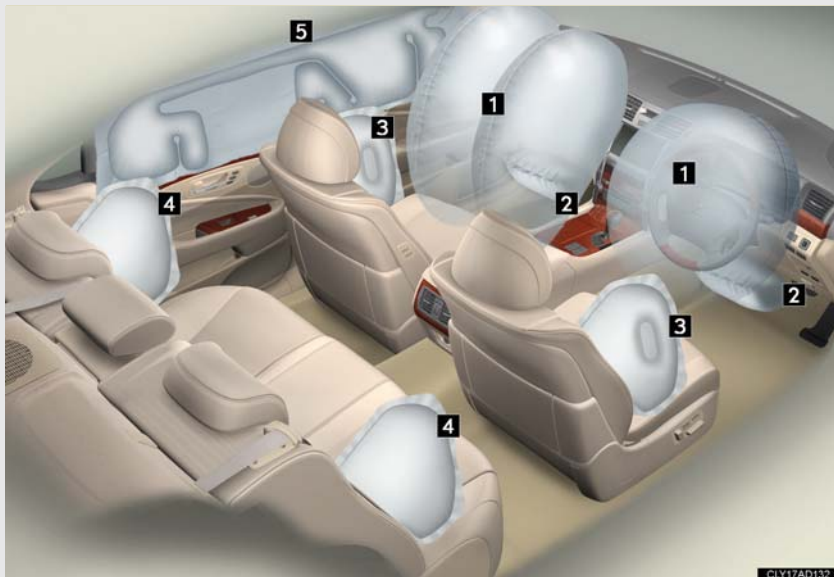
- 走行中は運転席の調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。
- フロントシートの下に物を置かないでください。物が挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■ シートを調整するときは

- 同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。
- シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。



▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
(運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和)

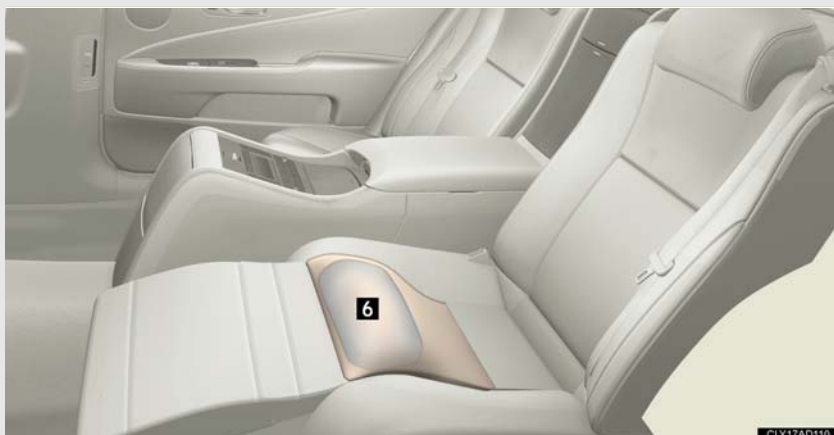
2 SRS ニーエアバッグ
(運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助)

▶ SRS サイドエアバッグ& SRS カーテンシールドエアバッグ

3 SRS フロントサイドエアバッグ
(フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

4 SRS リヤサイドエアバッグ (パワーリヤシート装着車)
(リヤ外側席乗員の胸などへの衝撃を緩和)

5 SRS カーテンシールドエアバッグ
(フロント席とリヤ外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和)



6 SRS シートクッションエアバッグ（4席車両リラクゼーションシートのみ）
（リラクゼーションシート乗員の拘束に寄与）

知識

■ SRS エアバッグが展開すると

- SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。
- 作動音とともに白いガスが発生します。
- フロント席、リヤ席、フロントピラーやルーフサイドレール的一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。
- フロントドアガラスが破損することがあります。
- G-Linkの契約期間内は、SRSエアバッグが作動すると自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。詳しくは「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

■ SRS エアバッグが作動するとき (フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ)

- フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値 (移動も変形もしない固定された壁に、車速約 30 km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値) 以上の場合に作動します。

ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突 (例えば、車両前部がもぐりこむ、下に入り込む、トラックの下敷きになる、など) の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

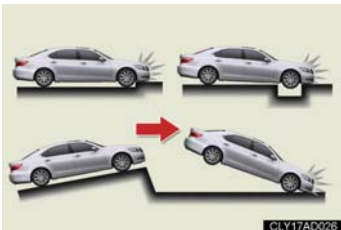
- 衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。
- 助手席に乗員がいないと、助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席 SRS エアバッグと助手席側の SRS ニーエアバッグが作動することがあります。

■ SRS エアバッグが作動するとき (SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ)

- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、側面から強い衝撃を受けた場合に作動します。
- 助手席に乗員がいないと、助手席の SRS サイドエアバッグは作動しません。しかし、シートに荷物が置かれていたり、シートベルトのバックルが留められている場合は、乗員がいなくても助手席の SRS サイドエアバッグが作動することがあります。

■ 衝突以外で作動するとき (フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ)

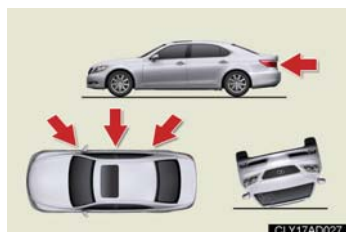
以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。



- 縁石や歩道の端など、硬いものにぶつかったとき
- 深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき
- ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■ SRS エアバッグが作動しないとき (フロント SRS エアバッグ、SRS シートクッションエアバッグ)

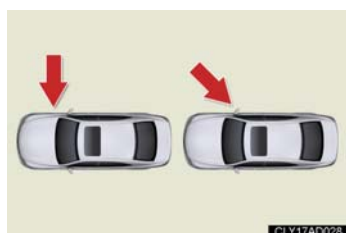
フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。



- 側面からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

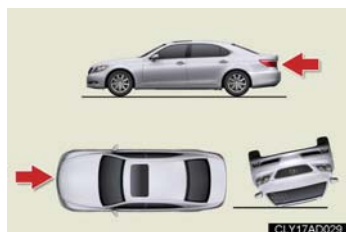
■ SRS エアバッグが作動しないとき (SRS サイドエアバッグ & SRS カーテンシールドエアバッグ)

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグとSRSカーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。



- 客室部分以外の側面への衝撃
- 斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

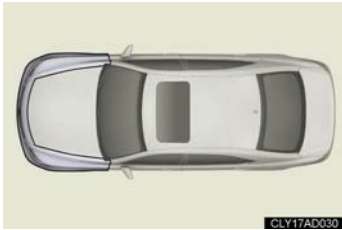


- 前方からの衝突
- 後方からの衝突
- 横転

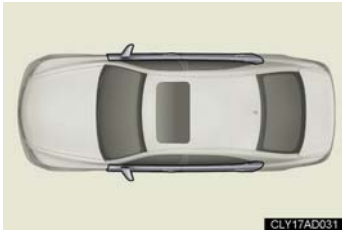
■ レクサス販売店に連絡が必要な場合

以下のような場合には、できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。
レクサス販売店で点検を受ける前にバッテリーのケーブルをはずさないでください。

● いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき



- フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



- ハンドルのパッド部分やダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近、インストルメントパネル下部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- 4席車両のリラクゼーションシート：シートクッションの表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



- SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき
- SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



■ SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転手と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。
- 助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。



- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。



- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。
- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。



- ドアやフロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。



警告

■ SRS エアバッグについて

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRSエアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。

お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめいたします。(→ P. 115)



- ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。



- ダッシュボード、ステアリングパッド、インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない。



- ドア、フロントガラス、ドアガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。

**警告****■ SRS エアバッグについて**

- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーがついている場合は取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。
- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。
- SRSエアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRSエアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため触れないでください。
- SRSエアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。
- 助手席座面には座布団などを敷かないでください。
乗員の重量が分散されるためセンサーが乗員を検知せず、衝突時に助手席 SRS エアバッグが作動しないことがあります。



■ 改造・廃棄について

レクサス販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・センター・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理や取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理や改造
- グリルガード(ブルバー・カンガルーバーなど)、除雪装置、ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

1-7. 安全にお使いいただくために チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤ外側シートに取り付けてください。

取り付け方法は、必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがってください。



- 1 チャイルドシート固定機構付きシートベルト
(リヤ席シートベルト)



- 2 ISOFIX 対応チャイルドシート
固定専用バー

リヤシート外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すボタンがシートに付いています。)



- 3 トップテザーアンカー

テザーベルトを固定するとき 사용합니다。
トップテザーアンカーはリヤシートのそれぞれの座席に装備されています。

チャイルドシート固定機構付きシートベルトで固定する

手順 1



チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートを保ックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

手順 2



肩部ベルトを最後まで引き出し、わずかにもどす（ロックモード）。

巻き取り方向のみの作動に切り替わります。

手順 3



チャイルドシートをリヤシートに押しさえつけながら、肩部ベルトを巻き取らせる。

たるみがなくなるまで巻き取らせた後、引き出せないことを確認します。

手順 4



取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

シートベルトで固定したチャイルドシートの取りはずし



バックルをはずしてベルトをいっぱいまで巻き取らせてください。

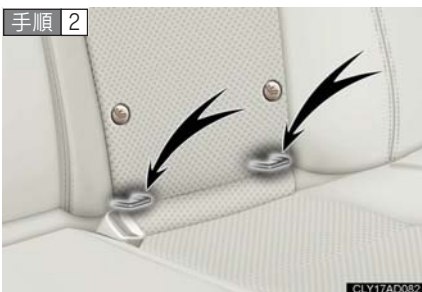
1

運転する前に

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーで固定する



ヘッドレストをいちばん下まで下げる。(→ P. 74)



ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーの位置を確認する。

固定専用バーは、シートクッションの奥にあります。



チャイルドシートをシートに取り付ける。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。

取り付け方法は、チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがってください。



トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める。

テザーベルトは必ずヘッドレストの上を通し、ピンと張ってフックがしっかり固定されているか確認します。



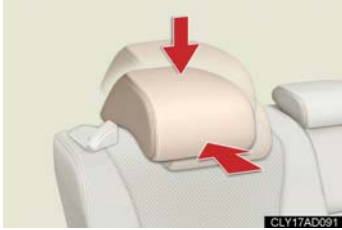
取り付けしたチャイルドシートを軽くゆさぶり、固定されていることを確認する。

 知識

■ パワーリヤシートの外側席にチャイルドシートを取り付けるときは


シートを以下のように調整してください。

- 背もたれ上部をいちばん後ろにする。
- 4席車両：背もたれをいちばん上まで起こす。
- シートをいちばん後ろに下げる。
- ヘッドレストをいちばん低くし、いちばん後ろにする。


■ ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカーには、LS460/LS460L 指定の道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート (ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー&トップテザーアンカー対応のレクサス純正チャイルドシート) を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたってはレクサス販売店にご相談ください。

 **警告**
■ チャイルドシートについて

- 事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、子供がフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。
- お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

警告

■チャイルドシートについて

- たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシート固定機構付きシートベルトについて

お子さまをチャイルドシート固定機構付きシートベルトで遊ばせないでください。誤って作動させ万が一ベルトが首に巻きついた場合、ベルトを引き出すことができなくなり、窒息など重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。万一誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■チャイルドシートを取り付けるときは

- シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。



- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

 警告

■ チャイルドシートを取り付けるときは


- 助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けしないでください。うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。



- やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばん後ろに下げて取り付けてください。助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ジュニアシートを取り付けるときは、チャイルドシート固定機構が作動しないようにするため、肩部ベルトをいっぱいまで引き出さないでください。



■ **チャイルドシートを取り付けるときは**

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心になるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。
- ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■ **チャイルドシートを使用しないときは**

- 車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートに取り付けてください（→ P. 116, 117）。チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

2-1. 運転のしかた

運転にあたって 124
 エンジン（イグニッション）
 スイッチ 132
 オートマチック
 トランスミッション 136
 方向指示レバー 140
 パーキングブレーキ 141
 ブレーキホールド 143
 ホーン（警音器） 145

2-2. メーターの見方

計器類 146
 表示灯／警告灯 148
 マルチディスプレイ 151

**2-3. ライトのつけ方・ワイパーの
使い方**

ライトスイッチ 154
 フォグライトスイッチ 157
 ワイパー & ウォッシャー 158

2-4. その他の走行装置の使い方

クルーズコントロール 161
 レーダークルーズ
 コントロール 164
 レーダークルーズコントロール
 （全車速追従機能付き） 173
 LKA（レーンキーピング
 アシスト） 185
 電子制御
 エアサスペンション 190
 運転を補助する装置 192
 プリクラッシュ
 セーフティシステム 198
 プリクラッシュセーフティ
 システム
 （カメラセンサー付） 203
 後方プリクラッシュ
 セーフティシステム 212

2-5. 様々な状況での運転

荷物を積むときの注意 215
 寒冷時の運転 217

2-1. 運転のしかた

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける (→P. 132)

■ 発進する

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする。
(→P. 136)

手順 2 パーキングブレーキを解除する。
(→P. 141)

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足をはなし、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する。

■ 停車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける。
長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。 (→P. 136)

■ 駐車する

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む。

手順 2 パーキングブレーキをかける。
(→P. 141)

手順 3 シフトレバーを P にする。
(→P. 136)

手順 4 “エンジンスタートストップ” スイッチを押してエンジンを止める。

手順 5 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する。

上り坂の発進のしかた

手順 1 パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを D にする。

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む。

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する。

 知識

■ 上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールが働きます。(→P. 192)

■ 雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。
- 雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■ 運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

 **警告**

■ 発進するときは

エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■ 運転するときは

- 踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。
 - ・ アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
 - ・ 後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
 - ・ 車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
 - ・ ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 警告

- 燃えやすい物の上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。
- シフトレバーを前進側のシフトポジションにいれたまま惰性で後退したり、Rにいれたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。
- 車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因になるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにレクサス販売店で点検整備を受けてください。
- 走行中に決してシフトレバーをPまたはRの位置に動かさないでください。機械に重大なダメージを与えると共に、車がコントロールを失う結果を招くことがあります。
- 走行中はシフトレバーをNにしないでください。Nにすると、エンジンブレーキがまったく効かないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 走行中はエンジンを切らないでください。パワーステアリング装置は、エンジンがかかっていると作動しません。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→ P. 136)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- 走行中はハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、すべての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

 **警告**

- オフロード走行をしないでください。

本格的なオフロード走行を目的とした AWD 車ではありません。やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。

- 渡河などの水中走行はしないでください。

電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

■ すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。

シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 停車するときは

- 空ぶかしをしないでください。

シフトレバーが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。

どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を止め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。

- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルに足を置いてください。



警告

■ 駐車するときは

- 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したまましていると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。
 - ・ スプレー缶からガスがもれたり、出火する
 - ・ プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
 - ・ 炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる
- ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落とされたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。
- ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けしないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの動きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。
- シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの動きをして火災につながるおそれがあり危険です。
- 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。
- エンジン回転中または停止直後はマフラーやバンパー一体ディフューザーに触れないでください。
やけどをするおそれがあります。
- 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

 警告**■ 排気ガスについて**

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（CO）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 換気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
とくに車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずレクサス販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ 仮眠するときは

必ずエンジンを停止してください。

エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に止めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ ブレーキをかけるときは

- 電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- ブレーキシステムは三つの独立したシステムで構成されており、一つの油圧システムが故障しても、のこりは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。この状態で走行しないでください。走行中、ブレーキ警告灯（赤色）の点灯と同時にブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店に連絡してください。

■ 万一脱輪したときは（AWD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

 注意

■ 運転中は

坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■ 駐車するときは

必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■ 部品の損傷を防ぐために

- パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けしないでください。
- ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

■ ブレーキパッド摩耗の警告メッセージが表示されたら

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換がおこなわれないと、ローターの損傷につながる場合があります。

ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■ 走行中にタイヤがパンクしたら

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかりと持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

- ハンドルがとられる
- 異常な振動がある
- 車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法は P. 333, 344 をご覧ください。

 注意

■ 冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

- エンストする
- 電装品がショートする
- 水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で以下の点検をしてください。

- ブレーキの効き具合
- エンジン、トランスミッション、トランスファー（AWD 車）ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化
- プロペラシャフト、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ

電子キーを携帯して以下の操作をおこなうことで、エンジンの始動またはモードを切り替えることができます。

■ エンジンのかけ方

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。

手順 2 シフトレバーがPの位置にあることを確認する。

手順 3 ブレーキペダルをしっかりと踏む。

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。

緑色に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4



“エンジンスタートストップ”スイッチを押す。

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏みつけてください。

どのモードからでもエンジンを始動できます。

■ “エンジンスタートストップ” スイッチのモード切り替え

ブレーキペダルを踏まずに“エンジンスタートストップ”スイッチを押すと、モードを切り替えることができます。（スイッチを押すごとにモードが切り替わります。）



1 OFF ※

非常点滅灯が使用できます。

2 アクセサリーモード

オーディオなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

すべての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

※：シフトレバーがP以外のときは OFF になりません。

 知識

■ エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。(→ P. 98)

■ ステアリングロックが解除できないときは



マルチディスプレイにメッセージが表示され、“エンジンスタートストップ”スイッチ上のインジケーターが緑色に点滅します。ハンドルを左右にまわしながら再操作してください。

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときはシステムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■ 自動電源 OFF 機能

シフトレバーが P にあるとき、1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、“エンジンスタートストップ”スイッチが自動で OFF になります。

■ 電子キーの電池の消耗について

→P. 36

■ 電子キーが正常に働かないときは

→P. 364

■ スマートエントリー&スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 33

■ ご留意いただきたいこと

→P. 37

 警告**■ エンジンを始動するとき**

必ず運転席に座っておこなってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ 緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3 秒以上“エンジンスタートストップ”スイッチを押し続けてください。

ただし、緊急時以外は走行中に“エンジンスタートストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンが停止すると、予期せぬ事故につながる可能性があります。

 注意**■ バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリまたはイグニッション ON モードにしたまま長時間放置しないでください。

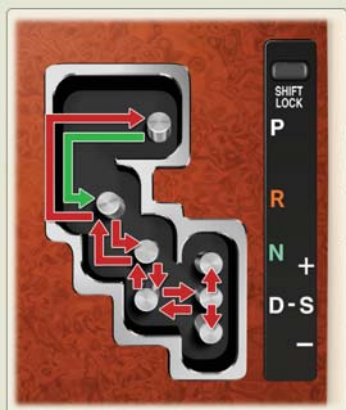
■ エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、頻繁にエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かしかた



← “エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードの状態、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

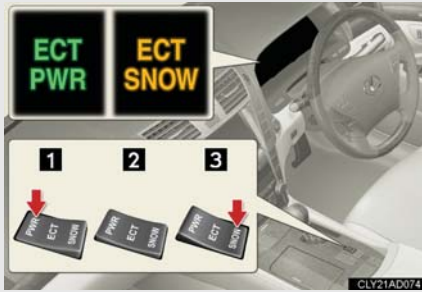
シフトポジション	目的
P	駐車またはエンジン始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行※ 1
S	Sモード走行※ 2 (→ P. 137)

※ 1 燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

※ 2 S モードはシフトレンジを選択することで、使用するギヤ段の上限を制限し、エンジンブレーキ力を切り替えたり、高速ギヤ段への不要なアップシフトを抑えた走行ができます。

■ 走行モードの選択

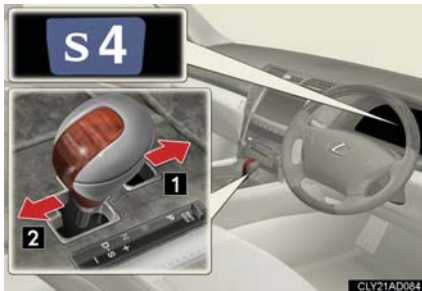
走行・使用条件にあわせて以下のモードを選択できます。



- 1 パワーモード（パワフルな運転や山間地などの走行）
- 2 通常走行モード
- 3 スノーモード（雪道など、すべりやすい路面での発進、走行）
通常走行モードにもどすときは SNOW を押します。

■ S モードでのシフトレンジ切り替え

シフトレバーを S の位置にして、以下のように操作します。



- 1 シフトレンジアップ
- 2 シフトレンジダウン

S ポジションへ操作したときの初期シフトレンジは車速に応じて 4、5、6 レンジもしくは 7レンジに設定されます。ただし D ポジションにて AI-SHIFT 制御中はそれにしたがって、初期のシフトレンジが 2 レンジまたは 3 レンジになる場合があります。（→P. 139）

■ シフトレンジ機能

シフトレンジ	機能
8	スピードや走行条件に応じて、1 速から 8 速のギヤが自動的に変わります。
7	スピードや走行条件に応じて、1 速から 7 速のギヤが自動的に変わります。
6	スピードや走行条件に応じて、1 速から 6 速のギヤが自動的に変わります。
5	スピードや走行条件に応じて、1 速から 5 速のギヤが自動的に変わります。
4	スピードや走行条件に応じて、1 速から 4 速のギヤが自動的に変わります。
3	スピードや走行条件に応じて、1 速から 3 速のギヤが自動的に変わります。
2	スピードや走行条件に応じて、1 速から 2 速のギヤが自動的に変わります。
1	ギヤが 1 速に固定されます。

シフトレンジの数字が小さい方がエンジブレーキ力は大きくなります。

知識

■ S モード

- 6 レンジ以下のとき、シフトレバーを“+”側へ保持すると 8 レンジに設定されます。
- 6 レンジ以上でシフトレバーを“-”側へ操作したとき、走行状態に応じて 2 レンジ以上シフトダウンすることがあります。
- エンジン過回転前に自動的にシフトアップします。

■ シフトダウン制限警告ブザー（S モード走行時）

安全や走行性能を確保するため、シフトダウン操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトダウンできない場合があります。（このときブザーが 2 回鳴ります。）

■ リバース警告ブザー

シフトレバーを R に入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■ クルーズコントロールを使って走行しているとき

S モード走行時に 7、6、5 または 4 ヘシフトレンジダウンしてもエンジンプレーキは効きません。(→P. 161, 164, 173)

■ スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、エンジンを切ると、自動的に通常走行モードに切り替わります。

■ シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 358

■ AI-SHIFT について

AI-SHIFT は、運転者の運転操作と走行状況により、自動的に最適なシフトレンジに切り替えます。

AI-SHIFT は、シフトレバーを D または S にしているときに自動的に作動します。

NAVI・AI-SHIFT：

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。詳しくは別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

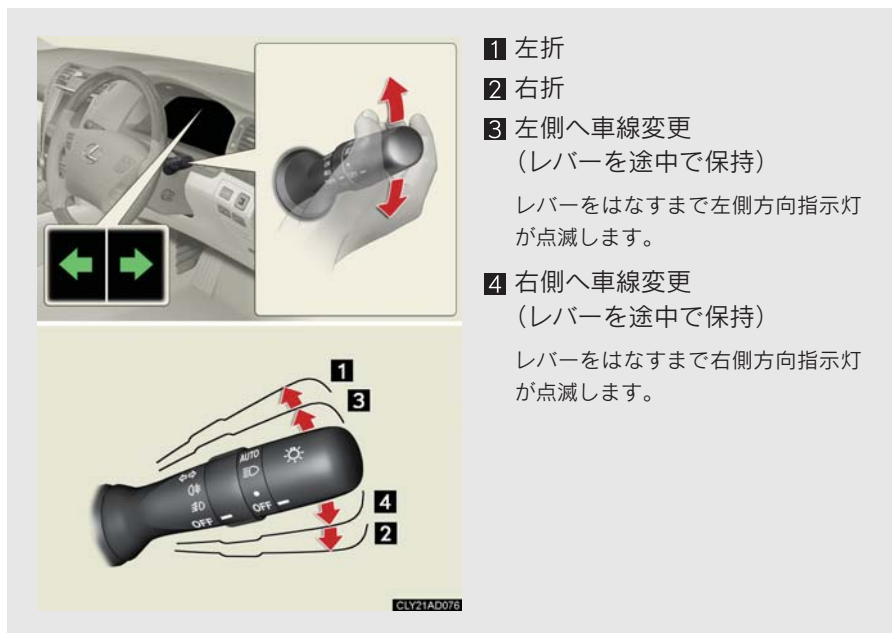


警告

■ すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンプレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

2-1. 運転のしかた 方向指示レバー



知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

2-1. 運転のしかた パーキングブレーキ

パーキングブレーキは電動パーキングブレーキシステムを採用しています。

■ マニュアルモード



1 パーキングブレーキをかける

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モード以外で操作したとき、パーキングブレーキ表示灯がしばらく点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

2 パーキングブレーキを解除する

パーキングブレーキ表示灯が消えます。ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモード



ON/OFF

パーキングブレーキがシフトレバーの操作に応じて自動で作動します。

シフトレバーは、ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

(→P. 136)

- P から P 以外にしたとき
パーキングブレーキが解除される
- P 以外から P にしたとき
パーキングブレーキがかかる

 知識

■ **パーキングブレーキの作動**

- “エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モード以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。
- “エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モード以外では、オートモードによる作動（かける、解除する）はできません。
- 短時間に作動を繰り返すと、システムのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1分程度で元の状態にもどります。

■ **パーキングブレーキ表示灯について**

パーキングブレーキをかけた状態で“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが異常ではありません。

■ **パーキングブレーキの作動音**

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ **システムに異常があるときは**

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→P. 327, 331）
また、状況によってはパーキングブレーキ表示灯が点滅します。

 注意

■ **駐車するとき**

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P にし、車が動かないことを確認してください。

■ **システムに異常が発生したら**

安全な場所に車を止め、警告表示を確認してください。

■ **故障などでかかったままになったとき**

手動解除用ツールを使用して、パーキングブレーキを完全に解除してください。（→P. 359）

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

2-1. 運転のしかた

ブレーキホールド

シフトレバーが D、S または N でブレーキホールドシステムが ON のとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトレバーが D または S のとき、アクセルペダルを踏むと同時にブレーキが解除され、スムーズに発進できます。



ブレーキホールドシステム ON

ブレーキホールドスタンバイ表示灯が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯が点灯します。

知識

■ システムの作動条件

以下のときはシステムを ON できません。

- トランクまたはボンネットが閉まっていない
- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない

ブレーキホールドシステムが ON のときにいずれかを検出したときは、システムが OFF になり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯が消えます。ブレーキ保持中に検出した場合はさらに警告音とともに、マルチディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると自動的にパーキングブレーキがかかります。このときは警告音とともに、マルチディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあります。このときはマルチディスプレイにメッセージが表示されます。
- ブレーキ保持中にシステムを OFF するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

パーキングブレーキは自動的に解除されません。パーキングブレーキスイッチを操作してブレーキを解除し、パーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。(→P. 141)

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 327, 331)



警告

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界を超えて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。




注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中に“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。“エンジンスタートストップ”スイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。

2-1. 運転のしかた ホーン（警音器）



ハンドルの  周辺部を押すとホーンが鳴ります。



“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 マルチディスプレイ

→P. 151

3 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

4 燃料計

燃料残量を示します。

5 インstrumentパネル照度調整スイッチ

6 オドメーター

走行した総距離を表示します。

7 トリップメーター

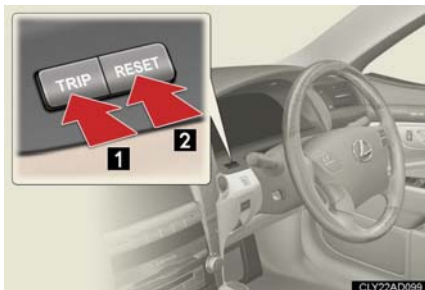
リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

8 トリップメーター切り替え・トリップメーターリセットスイッチ

9 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

トリップメーター切り替え、トリップメーターリセットスイッチ



- 1 表示を切り替える
- 2 表示中のトリップメーターの走行距離が0にもどる

インストルメントパネル照度調整スイッチ

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。



- 1 明るくなる
- 2 暗くなる

⚠ 注意

■ エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

- タコメーターの針がレッドゾーン（エンジンの許容回転数を超えている範囲）に入らないようにしてください。
- 水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。（→ P. 370）

2-2. メーターの見方 表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

▶ メーター



▶ センターパネル



■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。



方向指示表示灯
(→P. 140)



尾灯表示灯 (→P. 154)



ヘッドライト
上向き表示灯 (→P. 154)



フロントフォグライト
表示灯 (→P. 157)



リヤフォグライト
表示灯* (→P. 157)



スポーツモード表示灯
(→P. 190)



コンフォートモード表示灯
(→P. 190)



エアサスペンション HIGH
表示灯 (→P. 190)



ECT SNOW 表示灯
(→P. 137)



ECT PWR
表示灯 (→P. 137)



クルーズコントロール
表示灯
(→P. 161, 164, 173)



LKA 表示灯* (→P. 185)



※
AFS OFF 表示灯
(→P. 155)



※
スリップ表示灯
(→P. 193)



※
ブレーキホールド
スタンバイ表示灯
(→P. 143)



※
ブレーキホールド
作動表示灯 (→P. 143)



パーキングブレーキ表示灯
(→P. 141)

※ 作動確認のために“エンジンスターストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→ P. 327)



※作動確認のために“エンジンスターストップ”スイッチをイグニッション ON モードにすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

▲ 警告

■ 安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、“エンジンスターストップ”スイッチをイグニッション ON モード にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

2-2. メーターの見方 マルチディスプレイ

マルチディスプレイは、外気温や走行に関する様々な情報を表示します。



- トリップインフォメーション
(→P. 152)

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

- シフトポジション・シフトレンジ表示
(→P. 136)

- クリアランスソナー表示*

(別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」参照)

- レーダークルーズコントロール表示*
(→P. 164, 173)

レーダークルーズコントロール使用時に自動で表示されます。

- レーンキープアシスト表示*
(→P. 185)

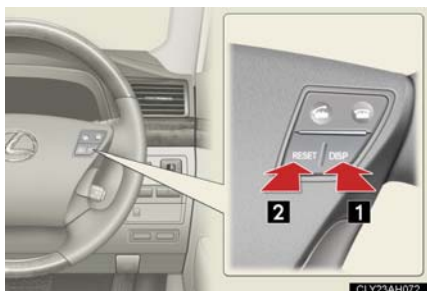
レーンキープアシスト使用時に自動で表示されます。

- 警告メッセージ (→P. 331)

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

トリップインフォメーション



❶ DISP スイッチ

項目を切り替えるには、DISP スイッチを押します。

❷ RESET スイッチ

■ 外気温

外気温度を表示します。

-40°C ~ 50°C の間に表示します。

■ 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- ・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- ・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

■ 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

リセットするには、平均燃費表示中に RESET スイッチを押します。

■ 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

■ 給油後平均燃費

給油をしてからの平均燃費を表示します。

■ 給油後走行距離

給油をしてからの走行距離を表示します。

■ 走行時間

リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に RESET スイッチを押します。

■ 平均車速

エンジンをかけてから、またはリセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に RESET スイッチを押します。



知識

■ システムチェック表示

“エンジンスタートストップ” スイッチをイグニッション ON モードにしたとき、システムの作動確認のため「SYSTEM CHECK」と表示されます。チェックが終わると、通常の画面表示になります。

■ 外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

■ トリップインフォメーションの背景画を消すには

瞬間燃費以外を表示中に DISP スイッチを約 1 秒以上押します。
表示したいときはもう一度約 1 秒以上押します。

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。



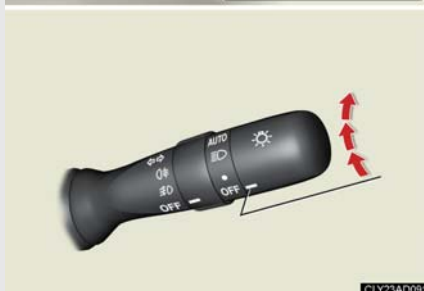
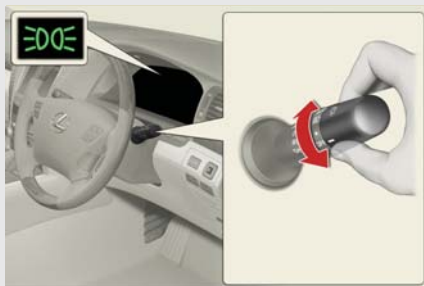
注意

■ 低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切り替えが遅れる場合がありますので、車内を暖めてください。

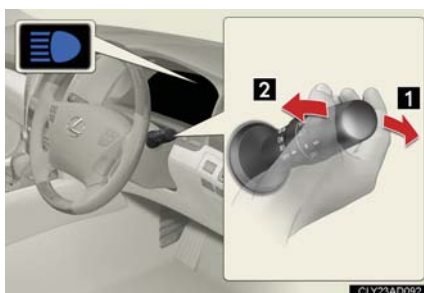
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ライトスイッチ

自動または手動でヘッドライトなどを点灯できます。



- 車幅灯・尾灯・番号灯・インストルメントパネルライトを点灯
- ☰ 上記ライトとヘッドライトを点灯
- AUTO** ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯（“エンジンスターストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき）

ハイビームにする



- 1 ライト点灯時ハイビームに切り替え
レバーを元の位置へもどすとロービームにもどります。
- 2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯
ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーをはなすと、ロービームにもどるまたは消灯します。

AFS (アダプティブフロントライティングシステム)

AFS は交差点やカーブでの視認性を向上させるため、ハンドル操作によって変化するタイヤの角度や車速に応じてヘッドライトの光軸を自動で調整します。

車速が 10 km/h 以上のときに作動します。

■ AFS を OFF にするには



ON/OFF

AFS を OFF にすると AFS OFF 表示灯が点灯します。

知識



■ ライトセンサー



センサーの上に物を置いたり、センサーをふさぐような物をフロントガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に動かなくなります。

■ ライト消し忘れ防止機能

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にして運転席ドアを開けるとヘッドライトと尾灯が消灯します。

再びライトを点灯する場合は、“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードにするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度  または  の位置にします。

■ オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■ AFS OFF 表示灯が点滅するときは

システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

■ 販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。(カスタマイズ一覧 →P. 383)

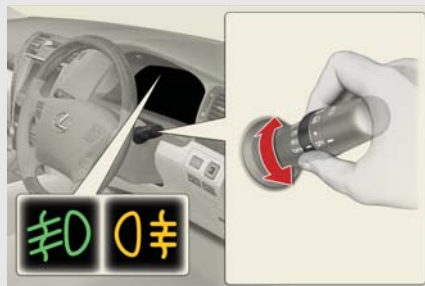


■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

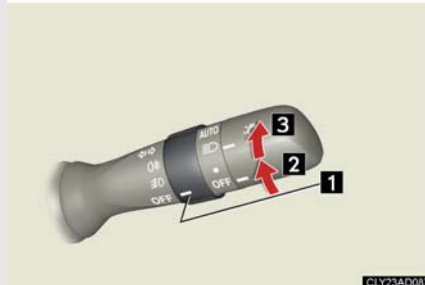
2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 フォグライトスイッチ

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。(リヤフォグライトはフロントフォグライトが点灯しているときのみ使用できます。)



- 1 消灯
- 2 フロントフォグライト点灯
- 3 リヤフォグライト*装着車：
フロント&リヤフォグライト
点灯 (再度操作すると、リヤ
フォグライトのみ消灯)

手をはなすと **≠0** の位置までもどります。



知識

■ リヤフォグライトについて

- リヤフォグライトが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。
- 雨や霧などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。
視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。
必要なとき以外は使用しないでください。

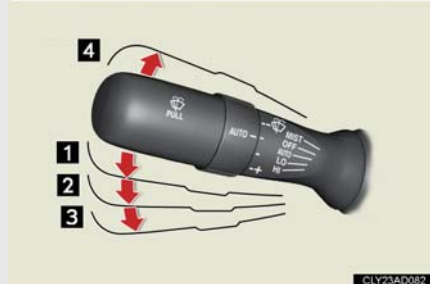
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方 ワイパー & ウォッシャー

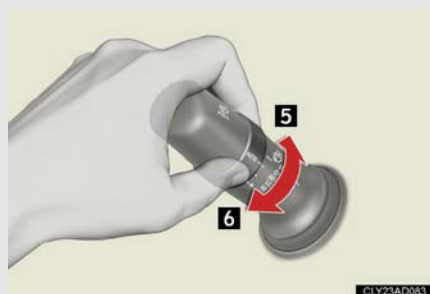
AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。



- 1 雨滴感知オート作動 (AUTO)
- 2 低速作動 (LO)
- 3 高速作動 (HI)
- 4 一時作動 (MIST)



CLY23AD082



CLY23AD083

- 5 雨滴センサーの感度調整 (低)
- 6 雨滴センサーの感度調整 (高)



7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。(数回作動した後、液だれ防止としてさらに1回作動します。)

知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 車速による作動への影響

AUTO 選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）が変わります。

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切り替わります。

(雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます。)

■ AUTO 作動について



雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などでよごれたときに正しく作動しないことがあります。

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのときにワイパースイッチを AUTO モードにすると、動作確認のためワイパーが1回作動します。

■ ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

 **警告**

■ **AUTO モード時のワイパー作動に関する警告**

AUTO モードでは、センサーに触れたり、フロントガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないようにご注意ください。

 **注意**

■ **フロントガラスが乾いているときは**

ガラスを傷つけるおそれがありますのでワイパーを使わないでください。

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作しつけないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

2-4. その他の走行装置の使い方 クルーズコントロール*

アクセルペダルを踏まなくても一定の速度で走行できます。



- 1 クルーズコントロール表示灯
- 2 クルーズコントロールスイッチ

■ 速度を設定する



手順 1

ON-OFF スイッチでシステムを ON にする

OFF には再びスイッチを押します。



手順 2

希望の速度まで加速/減速し、レバーを下げて設定する

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 設定速度を変える



1 増速

2 減速

希望の速度になるまでレバーを保持します。

レバーを上または下に軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整できます。

■ 定速走行を解除する・復帰させる



1 解除

レバーを手前に引きます。ブレーキを踏んだときも解除されません。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行にもどります。

車速が約 40km/h 以上のとき有効です。

□ 知識

■ 設定条件について

- シフトレバーが D、または S の 4、5、6、7、8 レンジのとき設定できます。
- 車速は約 40 ~ 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ 定速走行の自動解除

以下のとき自動的に定速走行が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が働いた

■ 定速走行中に表示灯が点滅したときは

ON-OFF スイッチでシステムを一度 OFF にし、再度設定してください。

設定できないとき、またはすぐに解除されるときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。



警告

■ 誤操作を防ぐために

クルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

■ クルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、クルーズコントロールを使用しないでください。

車のコントロールを失い、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。

レーダークルーズコントロール*

アクセルペダルを操作しなくても、一定の速度での走行や、先行車の車速変化に合わせた追従走行ができます（車間制御モード）。定速制御モードでは一定の速度で走行できます。



- 1 クルーズコントロール表示灯
- 2 レーダークルーズコントロール表示
- 3 車間距離切り替えスイッチ
- 4 クルーズコントロールスイッチ

● 先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチでシステムを ON にする

OFF には再びスイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 2



定速制御モードを選択するには



■ 設定速度を変えるには



希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

- 1 ON-OFF スイッチでシステムを ON にする
- 2 定速制御モードに切り替え (約 1 秒間長押し)

OFF には再び ON-OFF スイッチを押します。

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるときに車間制御モードにもどります。

- 1 増速
- 2 減速

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

レバーを軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには



1 解除

レバーを手前に引きます。
ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、定速走行にもどります。
車速が約 45km/h 以上のとき有効です。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに車間距離を切り替え

1 長い

2 中間

3 短い

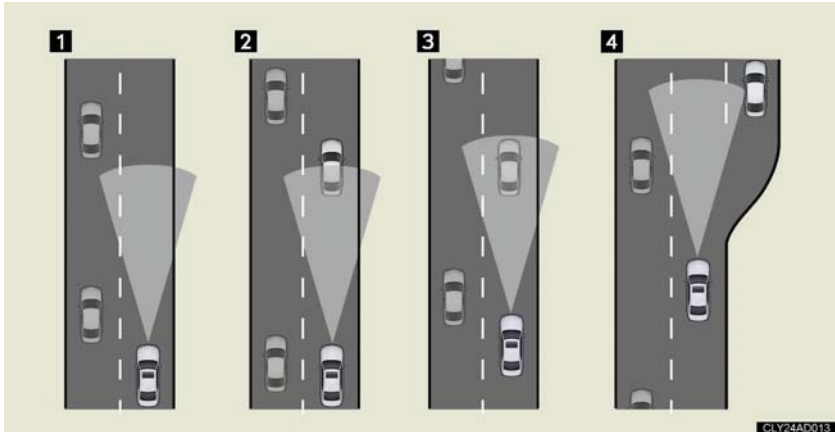
“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードになるたびに **1** にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 120 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、希望の車間距離を車間距離切り替えスイッチで設定します。

2 減速走行：

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

3 追従走行：

設定した車速より遅い先行車に追従するとき

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行：

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中に他車の割り込みなどで十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意を促します。ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

知識

■レーダークルーズコントロールの警告灯・警告表示

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告表示でお知らせします。(→P. 331)

■モードの切り替えについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切り替えることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへもどすことはできません。システムを OFF してから再度操作してください。

■設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4、5、6、7、8 レンジのとき設定できます。
- 車速は約 45 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■車間制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 速度が約 40km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が働いた
- レーダーセンサーの汚れが判定された
- ワイパーが高速で作動した
- 走行モードをスノーモードにセットした

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■ 定速制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が働いた

■ 車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 166) (時速 80 km/h で走行している場合)

なお、車速に応じて車間距離は増減します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■ レーダーセンサーとグリルについて

システムを正しく働かせるためにセンサーとグリルは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。) 汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



■ 接近警報について

車間距離が短くても、以下のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者がおこなう必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりするとおぼろげに危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。

 **警告****■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況**

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御がおこなわれず、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 接近警報が頻繁に鳴るとき

■ レーダーセンサーが正しく検知しないおそれのある先行車

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 168）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき



警告

■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。

レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 周囲の車より水や雪が撒き散らされ、レーダーセンサーの作動の妨げになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルには以下のことをしないでください。

センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 何か貼ったり、取り付ける
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）*

アクセルペダルを踏まなくても、一定の速度での走行や、先行車の車速変化に合わせた追従走行ができます（車間制御モード）。定速制御モードは一定の速度で走行できます。



- 1 クルーズコントロール表示灯
- 2 レーダークルーズコントロール表示
- 3 車間距離切り替えスイッチ
- 4 クルーズコントロールスイッチ

● 先行車との車間距離が確保しやすい高速道路や自動車専用道路などでご使用ください。

■ 速度を設定する



ON-OFF スイッチでシステムを ON にする

OFF には再びスイッチを押します。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 2



定速制御モードを選択するには



■ 設定速度を変えるには



希望の速度（約 45km/h ～ 100km/h）まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

車速が約 45km/h 未満で先行車が検知できるときに操作をすると、設定速度を約 45km/h として先行車に追従走行を始めます。（車間制御モードのみ）

- 1 ON/OFF スイッチでシステムを ON にする
- 2 定速制御モードに切り替え（約 1 秒間長押し）

OFF するには再び ON/OFF スイッチを押します。

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるときに車間制御モードにもどります。

- 1 増速（車間制御モードで制御停車中を除く）
- 2 減速

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

レバーを軽く操作して手をはなせば、設定速度を微調整できます。

■ 制御を解除する・復帰させるには



1 解除

レバーを手前に引きます。

走行中にブレーキを踏んだときも解除されます。(制御停車中は、ブレーキを踏んでも制御は解除されません。)

2 復帰

レバーを上げると、定速走行にもどります。

車速が約 45km/h 以上のとき有効です。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）



スイッチを押すごとに車間距離を切り替え

1 長い

2 中間

3 短い

“エンジンスタートストップ” スイッチがイグニッション ON モードになるたびに 1 にもどります。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

■ 制御停車から追従走行に復帰させるには（車間制御モード）



先行車の発進後、レバーを上げる

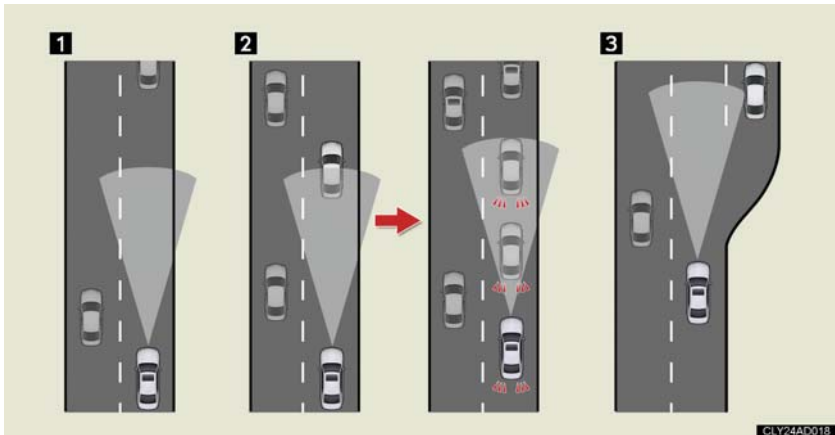
先行車の発進後にアクセルを操作し
ても追従走行に復帰します。



車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーとカメラセンサーにより、車両前方約120m以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。



1 定速走行：

先行車がないとき

運転者が設定した車速で定速走行します。また、希望の車間距離を車間距離切り替えスイッチで設定します。

2 減速走行 - 追従走行：

設定した車速より遅い先行車が現れたとき

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。先行車が停止したときは、続いて停止します。先行車の発進後、クルーズコントロールレバーを上げるか、アクセルを踏むと追従走行にもどります。

3 加速走行：

設定した車速より遅い先行車がいなくなったとき

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

接近警報

追従走行中に他車の割り込みなどで十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意を促します。ブレーキを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

知識

■ レーダークルーズコントロールの警告灯・警告表示

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告表示でお知らせします。(→P. 331)

■ モードの切り替えについて

車間制御モードを使用してから定速制御モードに切り替えることはできません。また、定速制御モードから車間制御モードへもどすことはできません。システムを OFF してから再度操作してください。

■ 設定条件について

- シフトレバーが D または S の 4、5、6、7、8レンジのとき設定できます。
- 車速は約 45 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■ 加速について

通常走行と同様にアクセル操作で加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■ 車間制御走行の自動解除

以下ようになったとき、自動的に車間制御走行が解除されます。

- 先行車がないとき速度が約 40km/h 以下になった
- 速度が 40km/h 以下で追従走行中に先行車がいなくなった
- 車が横すべりして VSC が働いた
- レーダーセンサー / カメラセンサーのよごれが判定された
- ワイパーが高速で作動した
- 走行モードをスノーモードにセットした
- パーキングブレーキが作動した
- 急坂路で制御停車した

- プリクラッシュブレーキが作動した
- 制御停車時に次を検出した
 - ・運転席シートベルトを着用していない
 - ・運転席ドアが開いた
 - ・トランクまたはボンネットが開いた

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

- 設定速度より実際の速度が約 16 km/h 以上低下した
- 速度が約 40 km/h 以下になった
- 車が横すべりして VSC が働いた

■車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→P. 175) (時速 80 km/h で走行している場合)

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車したときの車間距離は設定に関わらず約 3 ~ 5m です。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50 m
中間	約 40 m
短い	約 30 m

■ レーダーセンサーとグリルについて

システムを正しく働かせるためにセンサーとグリルは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。) 汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。



■ カメラセンサーについて

システムを正しく働かせるためにフロントガラスは常にきれいにしておいてください。



■ 接近警報について

車間距離が短くても、以下のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 速度を設定した直後
- アクセルが踏まれたとき

**警告****■安全にお使いいただくために**

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。装置を過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者がおこなう必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりするとおぼやかし危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点**●運転者が見る過程での支援内容**

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。

運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときは ON-OFF スイッチでシステムを OFF にしてください。



警告

■ レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御がおこなわれず、思わぬ事故につながり、重大な傷害または死亡におよぶおそれがあります。

- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
急な下り坂では設定車速以上になることがあります。
- 高速道路の出入り口
- レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 接近警報が頻繁に鳴るとき

■ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P. 178）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 停車中の車がいるとき
- 先行車の後部が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- 同じ車線を二輪車が走行中のとき

 **警告****■ 車間制御が正しく働かないおそれのある状況**

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
センサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 周囲の車が水や雪を撒き散上げて走行している場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）
- カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合
- ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合
- 先行車が急ブレーキをかけた場合

■ レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルには以下のことをしないでください。
センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 何か貼ったり、取り付ける
- 汚れたままにしておく
- 分解したり、強い衝撃を与える
- 改造や塗装
- 純正品以外の部品に交換する
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。



■ **カメラセンサーを正しく働かせるためには**

以下のことをお守りください。

- フロントガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、または分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスターでガラスの曇りをとる
- ダッシュボードの上に物を置かない
フロントガラスに写りこんだ映像で性能が低下する場合があります。
- カメラのレンズをよごしたり、傷をつけたりしない
- カメラセンサーの近くのフロントガラスにステッカーなどを貼らない。

LKA（レーンキーピングアシスト）*

白線の整備された高速道路や自動車専用道路を走行中に、カメラセンサーを利用して車線を認識させることにより、車線内の走行を支援します。

■ 車線逸脱警報機能

LKAがONで、50 km/h以上で走行中に車線から逸脱する可能性があるときシステムが判断した場合に、ピピピピ・・・というブザーやマルチディスプレイ表示、ハンドルの動きによる体感警報を用いて注意を促します。

■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（→ P. 173）の車間制御モードが65 km/h以上で設定されると、車線維持支援機能が付加され、車両が車線中央付近を走行するようにハンドルに小さい操舵力を与えてドライバーのハンドル操作を支援します。

車線維持支援機能作動中は体感警報は作動しません。

■ 設定のしかた

白線の認識状態、車速、レーダークルーズコントロール（車間制御モード）の設定状況に応じて車線逸脱警報機能と車線維持支援機能が自動的に作動します。



設定

解除するには再度スイッチを押します。

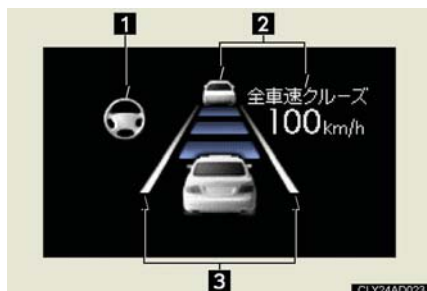
* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 各機能の作動条件

LKA スイッチ設定	レーダークルーズコントロールのシステム設定	車線逸脱警報機能	車線維持支援機能
		車速が 約 50km/h ~	車速が 約 65 ~ 100 km/h
ON	OFF	○	×
	ON 設定車速が 64km/h 以下で車間制御走行 しているとき	○	×
	ON 設定車速が 65km/h 以上で車間制御走行 しているとき	○	○

■ マルチディスプレイ表示

LKA が制御中のとき、車線表示とハンドル表示によって、LKA が作動していることを表示します。



1 ハンドル表示

ハンドル表示 + READY という表示が出ているとき：車線維持支援機能が開始可能な状態

ハンドル表示のみのとき：車線維持支援機能作動中

2 レーダークルーズコントロール表示

3 車線表示

白抜き表示のとき：白線が認識できていないまたは、機能を一時解除している（このときピピッとブザーが鳴ります。）

実線表示のとき：車線逸脱警報機能作動中



車線維持支援機能開始時（レーダークルーズコントロールの車間制御モードを設定することで車線維持支援機能が作動する状態）

知識

■機能の一時解除

以下のいずれかの場合、機能を一時的に解除します。解除されたときの状況が改善されると、作動を再開します。

- 方向指示レバーを操作したとき
- 車線変更に相当する程度にハンドルを操作したとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
レーダークルーズコントロールが解除されるため、ブレーキ操作を止めても車線維持支援機能は再開しません。
- 作動条件以外の車速になったとき（車線維持支援機能が作動中はブザーあり）
- 走行中の白線が認識できなくなったとき（車線維持支援機能が作動中はブザーあり）
- ワイパースイッチを低速作動または高速作動にしたとき（ブザーあり）
レーダークルーズコントロール解除のお知らせを優先し、解除時のブザーが鳴らないときがあります。
- 車線維持支援機能の作動中に手放し運転警告が作動したとき（ブザーあり）

■手放し運転警告について

車線維持支援機能中に、直線路で約 15 秒、またはカーブで約 5 秒ハンドルを操作しないと、ピピッとブザー音が鳴り、マルチディスプレイの表示が点滅し、機能が一時的に解除されます。ハンドルに軽く手を添えた運転が続いたときも同様です。

■ 炎天下に駐車したとき、車内が極低温になったとき

走行開始後、しばらく作動しないことがあります。車内の温度が低下、または上昇し、カメラセンサー周辺（→ P. 189）の温度が適温になると作動開始となるので、一旦 LKA スイッチを OFF にして、しばらくしてから ON にしてください。



警告

■ LKA をお使いになる前に

LKA を過信しないでください。前方不注意を補助するものではないので、常にハンドル操作をして進路を修正し、安全運転に心がけてください。

■ 正しく作動させるには

以下の場合に LKA を使用すると、システムが正しく機能せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。LKA を OFF にして走行してください。

- 白線がかすれたりよごれたりして見えにくいとき
- 雨、雪、霧、逆光などで白線が見えにくいとき
- ヘッドライトのレンズがよごれて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- 検札所や料金所手前など、白線が途切れるとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 道路補修の消し残り線・影・残雪・雨のたまったわだちなど、白線と紛らわしい線が見えるとき
- 高速道路などの本線（走行車線、追い越し車線）以外の車線を走行するとき
- 工事による車線規制や仮設の車線を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の調整不良などで、車が著しく傾いているとき
- うねった道路や荒れた道路を走行するとき
- 雨天時や積雪・凍結などですべりやすい道路を走行しているとき

 注意

■ カメラセンサー



LKA の故障や誤作動を避けるために、以下の
ことをお守りください。

- フロントガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスターでガラスの曇りをとる
- ダッシュボードの上に物を置かない
フロントガラスに写り込んだ映像を、白線と誤って認識する場合があります。
- カメラのレンズをよごしたり、傷をつけたりしない
- カメラセンサーの近くのフロントガラスにステッカーなどを貼らない。

2-4. その他の走行装置の使い方

電子制御エアサスペンション

路面の状態や走行状況にあわせて車高やショックアブソーバーの減衰力を選択できるシステムです。

■ 車高選択スイッチ

車高は、乗員や荷物重量にかかわらず選択したレベルを維持します。



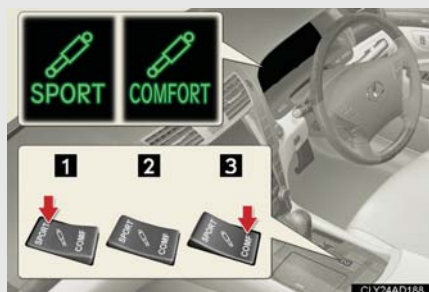
HIGH モード

メーター内の HEIGHT HIGH 表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、HIGH モードがキャンセルされます。

■ AVS (アダプティブバリアブルサスペンションシステム) スイッチ

サスペンションの硬さを走行状態に合わせて選択できます。



- 1 SPORT モード
- 2 NORMAL モード
- 3 COMFORT モード

知識

■ エアサスペンション用コンプレッサーの作動音について

乗車や荷物の積み込みなどによって車高が低下したときやHIGHモードを選択したときなどに、コンプレッサーが作動して“ヴィーン”という音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

 **警告****■エアサスペンションについて**

次の状況ではエンジンを停止してください。

- 縁石などに乗り上げて駐車するとき
- 脱輪したとき
- ジャッキアップするとき
- レッカー車などで車を持ち上げてけん引するとき

“エンジンスタートストップ”スイッチをイグニッション ON モードのままにしておくと、車高が変わり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

2-4. その他の走行装置の使い方

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

滑りやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力を確保します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂やすべりやすい丘面で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VGRS（バリアブルギヤレシオステアリング）*

車速やハンドルの動きに合わせてタイヤが切れる角度を制御します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS、ブレーキアシスト、TRC、VSC、ヒルスタートアシストコントロール、EPS、VGRS、トランスミッションを総合的に制御します。

すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をする際に、ブレーキ、エンジン出力、ハンドル操作力、タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ プリクラッシュセーフティシステム*

→P. 198, 203

■ 後方プリクラッシュセーフティシステム*

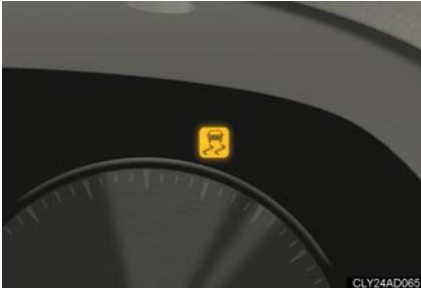
→P. 212

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールが作動しているとき



車が横すべりしそうになったとき、タイヤが空転したとき、坂道発進をしたときは、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロールの作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

ヒルスタートアシストコントロールの作動時、制動灯とハイマウントストップライトが点灯します。

ABS 作動時もスリップ表示灯が点滅します。

TRC や VSC を停止するには

ぬかるみや新雪などから脱出するときに、TRC や VSC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。このようなときに、VSC OFF スイッチを押すことにより脱出しやすくなります。



■ TRC を停止するには

TRCを停止するにはスイッチを押します。

スリップ表示灯が点灯します。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

■ TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時にスイッチを押し、3 秒以上保持します。

スリップ表示灯が点灯し、マルチディスプレイにメッセージが表示されます。

もう一度スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

 知識**■ TRC や VSC の自動復帰について**

TRC や VSC を作動停止にしたあと、“エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にすると自動的に TRC と VSC は作動可能状態にもどります。

■ TRC OFF の作動制限

TRC のみ作動を停止している場合は、車速が高くなると TRC は作動を再開します。

■ TRC と VSC OFF の作動制限

TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による作動再開はありません。

■ ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC、ヒルスタートアシストコントロール、VGRS の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
 - ・ 車体やハンドルに振動を感じる
 - ・ 車両停止後もモーター音が聞こえる
- エンジン始動時や停止時にハンドルがわずかに動いたり、小さな音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ EPS モーターの作動音

ハンドル操作をおこなったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

- シフトレバーが D または S の位置にあるとき
- ブレーキペダルが踏まれていないとき

■ VGRS の作動について

以下の状況では直進時のハンドル位置がずれることがあります。状況が改善されれば元にもどります。

- 停車中か極低速走行中に素速くハンドル操作をしたり、長時間ハンドルをまわし続けたりしたとき
- ハンドルをいっぱいに切った状態で長く力をかけ続けたとき
- バッテリーの充電が不十分、または電圧が一時的に下がったとき
- -30°C 以下でエンジンを始動した後

■ EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルを回し続けると、オーバーヒート为了避免のため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を止め、エンジンを切ってください。10 分程度でもとの状態にもどります。



警告

■ ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる時

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにし、前車と安全な車間距離をとってください。

- 泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 道路のつなぎ目など、段差を越えたとき
- 凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■ TRC の効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、とくに慎重に運転してください。

 **警告****■ ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

急勾配の坂や、凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

■ スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったらとくに慎重に運転してください。

■ TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は自動的にブレーキやエンジンの出力を制御して駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。

そのため、必要なとき以外は TRC 機能、VSC 機能を作動停止状態にしないでください。TRC 機能や VSC 機能を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、とくに慎重な運転を心がけてください。

■ タイヤを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。

異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。

タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

■ タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、VDIM システムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

プリクラッシュセーフティシステム*

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作を促し、衝突の防止に役立ちます。また、前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両の損傷を軽くします。

■ 注意喚起表示・衝突警告表示



衝突の危険性があると検知したとき、“ピーピーピー”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチディスプレイに注意喚起表示が出ます。さらに衝突の可能性が高い場合には、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避操作を促します。

■ プリクラッシュシートベルト

プリテンショナー（→P. 78）の効果を高めると同時に、シートベルトをすばやく引きもどし、拘束力を高めます。センサーが障害物を検知しない場合でも、急ブレーキをかけたときや、車が横すべりしたときも、同様に作動します。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰力を制御して、急ブレーキ時に車両前部が沈み込むのを抑えます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

プリクラッシュブレーキの切り替え



- 1 プリクラッシュブレーキ OFF
 - 2 プリクラッシュブレーキ ON
- OFFにするとPCS警告灯が点滅します。

レーダーセンサー



走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

知識

■ レーダーセンサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ システムの作動条件

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（ブレーキ連動方式）：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 緊急ブレーキや車両の横滑りを判断したとき
- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている

● プリクラッシュシートベルトの作動条件（レーダー方式）：

- ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
- ・ 車速が約 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上

● プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：

- ・ 車速が約 30 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ ブレーキペダルが踏まれているとき

● プリクラッシュブレーキの作動条件：

- ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
- ・ 車速が約 15 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

● サスペンションコントロールの作動条件：

- ・ 車速が 5 km/h 以上
- ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が 30 km/h 以上

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 凍結路や積雪路等のすべりやすい路面状態の場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨、霧、雪、砂嵐等の悪天候の状況
- VSC が OFF で車が横すべりの状態

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の危険があってもシステムは有効に作動しません。

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口の道路脇に障害物があったとき
- カーブで、対向車とすれちがったとき
- 狭い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれちがったとき
- 前を走っている車に急に近づいたとき
- VSC が OFF で車が横すべりしているとき
- ETC ゲートを高速で通過しようとしたとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くなったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 327, 331)

警告

■ 安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。



警告

■ システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援をおこなうために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援をおこないません。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の危険性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らがおこなう必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

■ レーダーセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

● センサーとグリルは常にきれいにしておく。

お手入れをする際は、センサーやグリルを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。

● センサー周辺への強い衝撃を避ける。

センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ず雷克萨斯販売店にて点検を受け、調整してください。

● センサーを分解しない。

● センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

● センサーやグリル周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。

● センサーやグリルを改造したり塗装したりしない。

プリクラッシュセーフティシステム（カメラセンサー付）*

センサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作を促し、衝突の防止に役立ちます。また、前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、乗員のけがや車両の損傷を軽くします。

■ 注意喚起表示・衝突警告表示



衝突の危険性があると検知したとき、“ピーピーピー”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅し、マルチディスプレイに注意喚起表示が出ます。さらに衝突の可能性が高い場合には、“ピピピ…”とブザー音が鳴り、PCS 警告灯が点滅、衝突警告表示を出し、回避操作を促します。

■ プリクラッシュシートベルト

プリテンショナー（→P. 78）の効果を高めると同時に、シートベルトをすばやく引きもどし、拘束力を高めます。センサーが障害物を検知しない場合でも、急ブレーキをかけたときや、車が横すべりしたときも、同様に作動します。

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で危険を知らせ、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切り替えができます。

■ サスペンションコントロール

衝突の可能性が高いと判断したとき、サスペンションの減衰力を制御して、車両前部の沈み込みや車体の傾きを抑えます。

*：グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ ステアリングギヤ比コントロール

衝突の可能性が高いとき：VGRS によってステアリングギヤ比を変化させ、ハンドル操作に対する応答性を高めます。

■ ドライバーモニター

衝突の可能性があると判断し、かつ運転者が正面を向いていない場合に、より早い段階で警報し、早期に危険を知らせます。さらに、状況によっては、警報ブレーキが作動します。

■ 警報ブレーキ

運転者が正面を向いておらず、衝突の可能性が高い状態が継続した場合は、短時間の減速による体感警報により回避操作を促します。

プリクラッシュブレーキの切り替え



1 プリクラッシュブレーキ OFF

2 プリクラッシュブレーキ ON

OFFにするとPCS警告灯が点滅します。

レーダーセンサー



走行中に路上またはその付近に車や障害物があるかどうかを検知し、その位置や速度、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

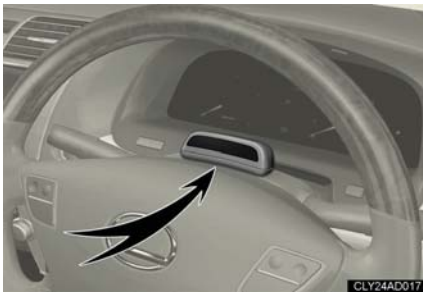
カメラセンサー



レーダーセンサーにくわえ走行中に路上またはその付近の走行者など立体物を検知します。
ヘッドライト点灯時には近赤外線を照射し、夜間の検出性能の確保に寄与します。

- 1 カメラセンサー
- 2 近赤外線投光器

ドライバーモニター用カメラ



運転者の顔の向きを検知し、正面を向いていない状態をシステムが判断します。

知識

■ レーダーセンサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しない場合があります。

■ カメラセンサーが検知しない場合

- 太陽光など強い光がレンズに直接あたっているとき
- 悪天候などで視界が悪いとき
- センサーの温度が非常に高いとき

■ システムの作動条件

- **プリクラッシュシートベルトの作動条件（ブレーキ連動方式）：**
 - ・ 車速が約 30 km/h 以上
 - ・ 緊急ブレーキや車両の横滑りを判断したとき
 - ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
- **プリクラッシュシートベルトの作動条件（レーダー方式）：**
 - ・ フロント席の乗員がシートベルトをつけている
 - ・ 車速が約 5 km/h 以上
 - ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
- **プリクラッシュブレーキアシストの作動条件：**
 - ・ 車速が約 30 km/h 以上
 - ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
 - ・ ブレーキペダルが踏まれているとき
- **プリクラッシュブレーキの作動条件：**
 - ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
 - ・ 車速が約 15 km/h 以上
 - ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上
- **サスペンションコントロールの作動条件：**
 - ・ 車速が約 5 km/h 以上
 - ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が約 30 km/h 以上
- **ステアリングギヤ比コントロールの作動条件：**
 - ・ 車速が約 30 km/h 以上
 - ・ 自車から見た車や障害物の接近速度が約 30 km/h 以上
- **警報ブレーキの作動条件：**
 - ・ プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
 - ・ 正面を向いていないと判断したとき
 - ・ 自車速度が約 40km/h 以上
 - ・ 自車から見た車や障害物との接近速度が約 40km/h 以上
 - ・ 車両直進状態

■ システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されていない状況では有効に作動しないこともあります。

- きついカーブや起伏がある場所
- 凍結路や積雪路等のすべりやすい路面状態の場所
- 交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- 自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- 雨、霧、雪、砂嵐等の悪天候の状況
- VSC が OFF で車が横すべりの状態

■ システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）では、システムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の危険があってもシステムは有効に作動しません。

■ 衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- カーブ入り口の道路脇に障害物があったとき
- カーブで、対向車とすれちがったとき
- 狭い鉄橋を走行したとき
- 路面に金属物があったとき
- 凹凸のある路面を走行したとき
- 右折時に対向車とすれちがったとき
- 前を走っている車に急に近づいたとき
- VSC が OFF で車が横すべりしているとき
- ETC ゲートを高速で通過しようとしたとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引きもどされたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 327, 331)



警告

■安全にお使いいただくために

安全運転をおこなう責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムの機能を過信すると重大な事故につながることも考えられます。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援をおこなうために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援をおこないます。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

●運転者が見る過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容する装置でも、視界不良を補助する装置でもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の危険性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らがおこなう必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

 **警告****■ レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルは常にきれいにしておく。
お手入れをする際は、センサーやグリルを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、調整してください。
- センサーを分解しない。
- センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。
- センサーやグリル周辺にアクセサリをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。
- センサーやグリルを改造したり塗装したりしない。

■ カメラセンサーの取り扱い

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- フロントガラスは、いつもきれいにしておく
雨滴、結露、氷雪などの付着によって性能が低下することがあります。
- カメラに強い衝撃や力を加えない、また分解しない
- カメラの向きは厳密に調整されているため、取り付けを変更したり、取りはずしたりしない
- 寒冷時などにヒーターを足元モードで使用していると、フロントガラスの上部が曇り、映像に影響を与えるので、そのときはフロントデフロスターでガラスの曇りをとる
- ダッシュボードの上に物を置かない
フロントガラスに写り込んだ映像で検出性能が低下する場合があります。
- カメラのレンズをよごしたり、傷をつけたりしない
- カメラセンサーの近くのフロントガラスにステッカーなどを貼らない



警告

■ ヘッドライトについて

近赤外線投光量を確保するため以下のことをお守りください。

- ヘッドライトは、いつもきれいにしておく。
- ハイビームの光軸がずれていたり、点灯しないときは検出性能が低下する場合があります。
- 安全のために
近赤外線投光器は、目に見えない強いエネルギーを照射します。通常、停車時には照射していませんが、のぞき込まないでください。

■ ドライバーモニター用カメラの取り扱い

ドライバーモニターの効果を発揮できるように以下のことをお守りください。お守りいただかないと、故障の原因となったり、顔向き判定ができないおそれがあります。

- カメラを改造したり、傷つけたり、持ち上げたり、ひっぱったりしない
- 走行中はカメラを触ったりしない
- カメラを濡らしたり、飲料水をかけたりしない
- カメラにものを落としたり、ぶつけたり、衝撃を与えない
- カメラ前面部に傷、よごれ、シール貼り等がないようにする
- カメラ前面部の前にものを置いたり、おおったりしない

■ 顔向き判定について

ドライバーモニター用カメラは停車中には顔向き判定をしません。また以下のときは正常に顔向き判定ができない場合があります。

- カメラと顔の間にさえぎるものがあるとき
(カメラの前にものを置くなど。)
- 顔の一部が隠れる状況
- 太陽光などの強い光が、直接顔やカメラにあたる状況
- 正しい運転姿勢をしていないとき

 注意

■ ドライバーモニター用カメラのお手入れ時の注意

- 傷をつけないよう、柔らかい布で軽くふいてください。
- 汚れがひどいときは、水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、その後、乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、ガラスクリーナー、ワックスなどを使用しないでください。

後方プリクラッシュセーフティシステム*

追突を予測して、後方車両への注意喚起とむち打ち傷害を軽減するためのシステムです。

■ 後方車両への警報（非常点滅灯）

追突の可能性があるると判断したときに非常点滅灯を作動させ、後方車両に注意を促します。

■ むち打ち傷害の軽減（プリクラッシュインテリジェントヘッドレスト）

追突の危険性が非常に高いと判断したときにフロントヘッドレスト内のセンサーにより頭部位置を検出し、追突前にプリクラッシュインテリジェントヘッドレストを適切な位置まで移動させ、追突された際のむち打ち傷害を軽減します。

レーダーセンサー



レーダーセンサーにより、後方から接近する物を検知し、その位置や速度、進路から追突する可能性を事前に判断します。

* : グレードで異なる装備やオプション装備

 知識

■ システムの作動条件

“エンジンスターストップ”スイッチがイグニッション ON モードで、自車線内の後方車両が追突する可能性があるときに以下の条件で作動します。

● 後方車両への警報（非常点滅灯）：

- ・ 自車から見た後方車の接近速度が約 30 km/h 以上
- ・ 停止時または前進時でブレーキを踏んでいる
- ・ 方向指示灯や非常点滅灯が OFF

● むち打ち傷害軽減：

- ・ 自車から見た後方車の接近速度が約 15 km/h 以上
- ・ 停止または前進している

■ センサーが検知しにくい場合

後方プリクラッシュセーフティシステムはすべての追突を検知できるシステムではありません。以下のときは作動しない場合がありますので周辺への注意を怠らないでください。

- 車両姿勢が極端に変化しているとき。
- 自転車、オートバイなどは検知しないことがあります。
- 雨滴、氷雪がリヤバンパーに付着したとき。
- カーブや起伏の大きな道路のとき。
- ななめからの追突やオフセットの大きな追突のとき。

■ むち打ち傷害軽減システムについて

帽子をかぶっていたり、髪をうしろで束ねたりしているとき、プリクラッシュインテリジェントヘッドレストが適切な位置に停止できないことがあります。

■ 追突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

- 右左折などで停車したときなどに自車の真うしろを後方車がすり抜けたとき。
- 道路脇に停車したときなどに、車が真横をすり抜けたとき。
- 走行時、後方車が近距離から追い越したとき。
- 走行時または停車時、後方車が近距離まで急接近したとき。

■ システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。（→ P. 327, 331）



警告

■ レーダーセンサーの取り扱い

- センサーを分解しない。
- センサーの裏に貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

■ リヤバンパーの取り扱い

後方プリクラッシュセーフティシステム装着車のリヤバンパーはレーダーセンサーの電波透過性に影響します。システムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- リヤバンパーは常にきれいにしておく。
雨滴、冰雪などによって性能が低下することがあります。
- レーダーセンサー周辺では強い衝撃を避ける。
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店にて点検を受け、修理してください。
- リヤバンパー中央部にトーイングヒッチやバイクホルダーをつけたり、保護フィルムやステッカーを貼ったりしない。
- リヤバンパーの改造や別のものに交換しない。
- リヤバンパーの塗装修理についてはレクサス販売店に相談してください。

■ プリクラッシュインテリジェントヘッドレストの取り扱い

ヘッドレストカバーはつけないでください。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

- できるだけ荷物はトランクに積む。
- 荷物が安全な位置に置かれているか確認する。
- 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む。
- 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする。



警告

■ 積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

- 燃料が入った容器
- スプレー缶

■ 荷物を積むときは

- 以下の場所には荷物を積まないでください。

お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ・ 運転席足元
 - ・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
 - ・ パッケージトレイ
 - ・ インstrumentパネル
 - ・ ダッシュボード
- 車内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。



■ 荷物の重量・荷重のかけ方について

- 荷物を積み過ぎないでください。
- 荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

- 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。
 - ・ エンジンオイル
 - ・ 冷却水
 - ・ ウォッシュャー液
- バッテリーの液量・比重を点検してください。
- 冬用タイヤ（4輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を用意してください。

タイヤは4輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことをおこなってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 足まわりに氷が付いているときは、氷を取り除いてください。
- フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。

■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをPにいれて駐車し、輪止めをしてください。

 知識

■ 寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおっております。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなる場合があります。その場合には速度を落としてください。

■ タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

- 安全に作業できる場所でおこなう
- 後2輪に取り付ける
- ジャッキで車を持ち上げておこなう
- タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう

 警告

■ 冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

 警告**■ タイヤチェーン装着時の警告**

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 50 km/h（一般路）または 30 km/h（冰雪路）を超える速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急ハンドル、急ブレーキを避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■ 駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

 注意**■ タイヤチェーンの使用について**

必ずレクサス純正タイヤチェーンを使用してください。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンを使用すると、車体に当たり、走行のさまたげとなるおそれがあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■ ガラスに付いた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。

合わせガラスの場合、ガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧.....	222
・ インテリアライト.....	223
・ パーソナルライト.....	223

3-2. 収納装備の使い方

収納装備一覧.....	225
・ グローブボックス.....	227
・ コインホルダー.....	228
・ ドアポケット.....	228
・ カップホルダー.....	229
・ コンソールボックス.....	231
・ クールボックス・	
小物入れ.....	232
小物入れ.....	236

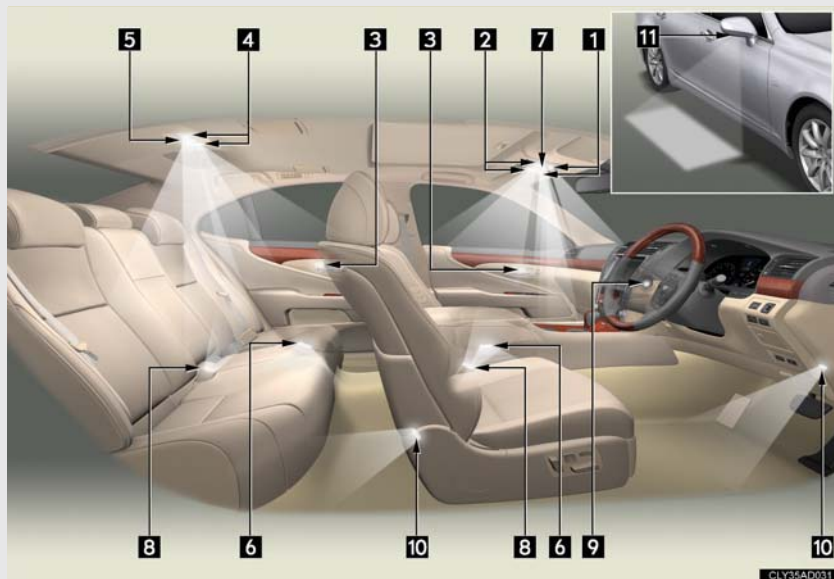
3-3. その他の室内装備の使い方

サンバイザー.....	238
バニティミラー.....	239
外気温度表示.....	240
灰皿.....	241
シガレットライター.....	242
アクセサリソケット/ アクセサリコンセント ...	244
ステアリングヒーター.....	247
コンフォータブル・ エアシート.....	249
アームレスト.....	252
リヤシートリラクゼーション システム (4 席車両).....	253
テーブル (4 席車両).....	255
リヤサンシェード.....	257
リヤドアサンシェード.....	261
トランクスルー.....	264
コートフック.....	266
フロアマット.....	267
トランク内装備.....	268

3-1. 室内灯のつけ方

室内灯一覧

夜間の乗降を補助するために、イルミネーテッドエントリーシステムが付いています。電子キー携帯の有無、ドアの施錠・解錠、ドアの開閉、“エンジンスタートストップ”スイッチの状態によって、各部の照明が点灯・消灯します。



- 1 フロントパーソナルライト (→P. 223)
- 2 フロントインテリアライト (→P. 223)
- 3 インサイドハンドル照明
- 4 リヤパーソナルライト (→P. 223)
- 5 リヤインテリアライト
- 6 ドアカーテシー照明
- 7 シフト照明 (“エンジンスタートストップ”スイッチアクセサリーまたはイグニッション ON モード)
- 8 シートベルトバックル照明
- 9 “エンジンスタートストップ”スイッチ照明
- 10 足元照明
- 11 ドアミラー照明

インテリアライト、パーソナルライト

インテリアライト



- 1 OFF (消灯)
- 2 ドアポジション (ドア連動)
ON/OFF
- 3 ON (点灯)

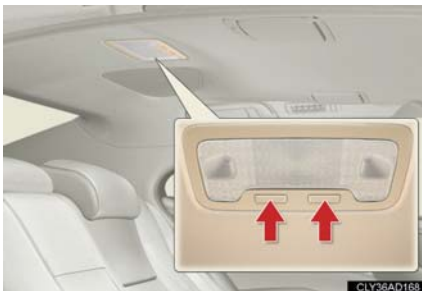
パーソナルライト

▶ フロント



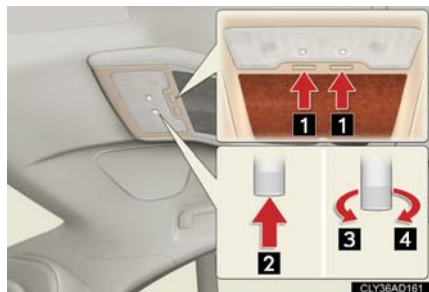
点灯／消灯

▶ リヤ (オーバーヘッドコンソール無車)



点灯／消灯

▶ リヤ（オーバーヘッドコンソール付き車）



- 1 点灯／消灯
- 2 ツマミを押し出します。左右にまわして明るさを調整できます。
- 3 暗くなる
- 4 明るくなる

 知識

■ バッテリーあがりを防ぐために

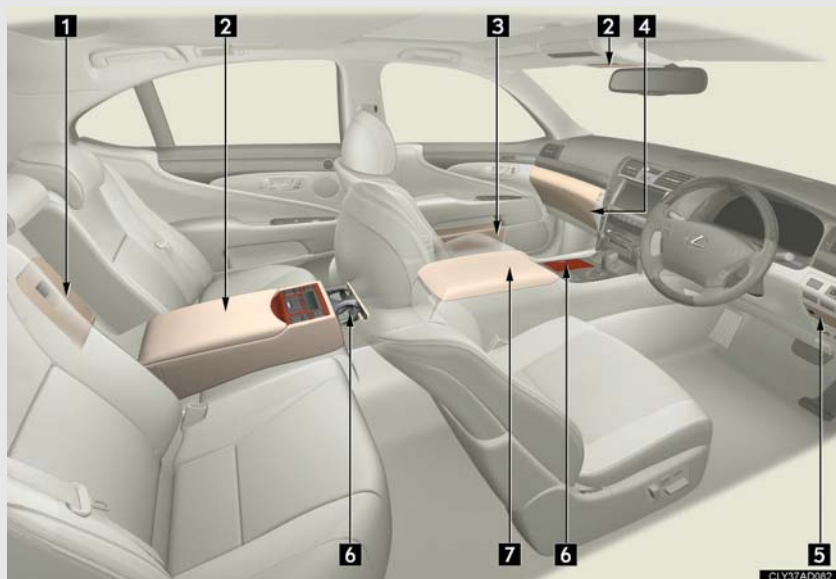
半ドア状態でインテリアライトスイッチのドアポジションが ON のときに、インテリアライトが点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■ 販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧 →P. 383）

収納装備一覧

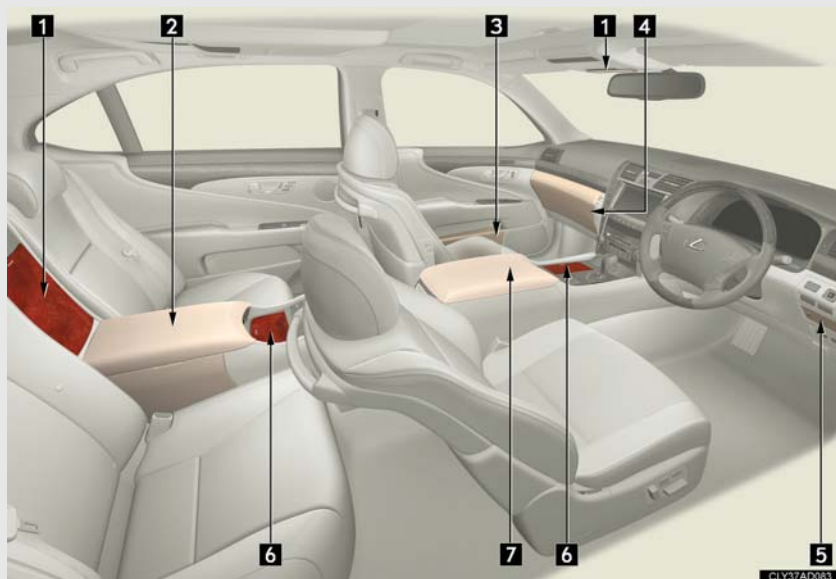
▶ 5 席車両



- 1 クールボックスまたは小物入れ*
- 2 小物入れ
- 3 ドアポケット
- 4 グローブボックス
- 5 コインホルダー
- 6 カップホルダー
- 7 コンソールボックス

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

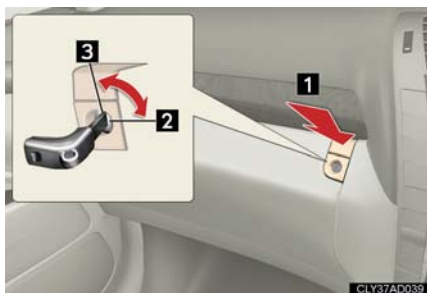
▶ 4 席車両



- 1 小物入れ
- 2 クールボックスまたは小物入れ
- 3 ドアポケット
- 4 グローブボックス
- 5 コインホルダー
- 6 カップホルダー
- 7 コンソールボックス

グローブボックス

グローブボックス



- 1 開ける（ボタンを押す）
- 2 メカニカルキーで施錠
- 3 メカニカルキーで解錠

 知識

■ トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。（→P. 50）

 **警告**
■ 走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。

急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コインホルダー



ボタンを押す。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

コインホルダーを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコインホルダーが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

ドアポケット（フロント席）



フロントドアのドアポケットは開閉することができます。

⚠ 警告

■ 走行中の警告

ドアポケットを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたドアポケットが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

カップホルダー

▶ フロント



カップホルダーのふたの左側を押す。

▶ リヤ (5 席車両)



カップホルダーを押す。

▶ リヤ (4 席車両)



カップホルダーのふたの後側を押す。

**■ 収納してはいけない物**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■ 使わないときは

ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

コンソールボックス



- ❶ ノブを押しながらアームレストをスライドさせる
- ❷ アームレストを持ち上げる

 知識

■ コンソールボックス内のトレイについて



トレイは引き上げた状態でも使うことができます。

■ 開閉操作の補助機能

コンソールボックスの開閉を途中まで行くと、開閉操作を補助するように、操作方向に適切に力が働きます。

 警告

■ 走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。



注意

■ トレイについて

トレイの高さ以上に物を入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあります。

クールボックス・小物入れ*

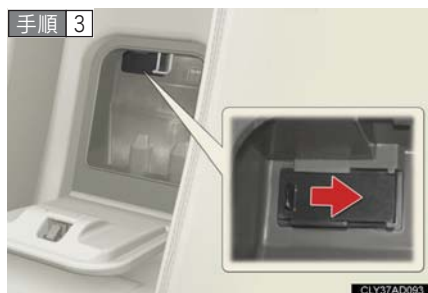
▶ 5 席車両



アームレストを手前に倒す。



レバーを引く。



冷風開閉口を開ける。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

クールボックス・小物入れ

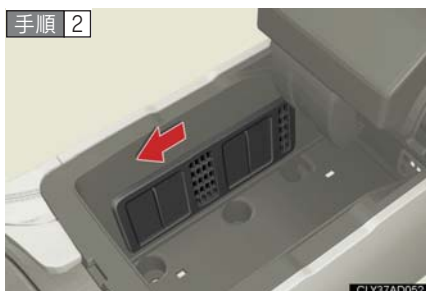
▶ 4 席車両

手順 1



レバーを引き上げてロックを解除し、アームレストを持ち上げる。

手順 2



冷風開閉口を開ける。

3


室内装備の使い方

 知識

■ 作動条件（クールボックス）

▶ 5 席車両



リヤ席エアコン作動中、リヤアームレストのディスプレイに  が表示されているとき。

▶ 4 席車両



クールボックス・小物入れ

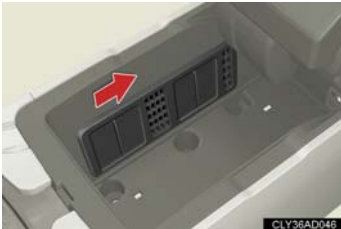
■ 小物入れとして使うには（クールボックス）

▶ 5 席車両



保冷機能を停止するために、冷風開閉口を閉じます。

▶ 4 席車両



保冷機能を停止するために、冷風開閉口を閉じます。

■ クールボックスに入れる物として適さない物

- ふたがされていない容器に入った物
- 割れ物、腐る物、匂いが強い物


警告

■ 走行中の警告

クールボックスを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

小物入れ

▶ 天井*



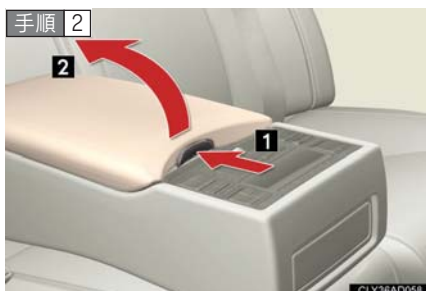
ボタンを押す。

サングラスなどの小物を一時的に収納するのに便利です。

▶ リヤシート (5 席車両)



アームレストを手前に倒す。



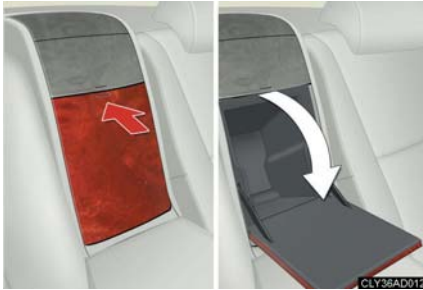
1 ボタンを押してロックを解除する。

2 ふたを持ち上げる。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

小物入れ

▶ リヤシート（4 席車両）



ふたの上側を押す。

DVD やヘッドホンを収納するのに便利です。

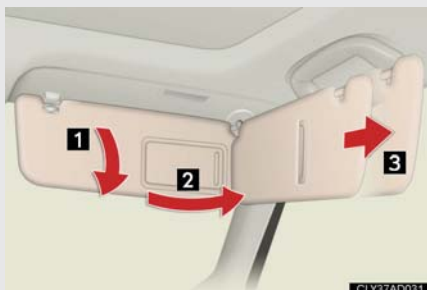
警告**■ 小物入れ（天井）に放置してはいけない物**

小物入れにめがねやライターを放置しないでください。
室温が高くなったときライターが爆発したり、めがねが変形やひび割れを起こしたりすることがあります。

■ 走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

サンバイザー



- 1 下ろす
- 2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす
- 3 横へスライドさせる

3-3. その他の室内装備の使い方 バニティミラー

▶ フロント



カバーをスライドして開けます。
カバーを開けるとライトが点灯しま
す。

▶ リヤ



ボタンを押して開けます。
ライトが点灯します。

⚠ 注意

■ 使用しないときは（リヤ）

バニティミラーを必ず閉じてください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態で長時間ライトを点灯しないでください。

外気温度表示

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき、 -40°C から 50°C の間で表示されます。



知識

■ “-” または “E” が表示されたときは

システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■ 表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

- 停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
- 外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

3-3. その他の室内装備の使い方

灰皿

▶ フロント



ふたの前部を押して開けます。閉めるときはもう一度ふたを押します。

取りはずすときは、本体左右を持って引き上げます。

▶ リヤ



ふたを開けます。

取りはずすときは、ふたを持って引き上げます。

⚠ 警告

■ 使用後について

ふたを必ず閉じてください。

走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

■ 出火を防ぐために

- マッチ、タバコなどの火は完全に消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものをいれないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方 シガレットライター

▶ フロント



灰皿のふたを開けて、シガレットライターを押し込みます。

元の位置にもどったら使用できません。

▶ リヤ*



シガレットライターを押し込みます。

元の位置にもどったら使用できません。

知識

■ 使用条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリまたはイグニッションONモードのとき

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 **警告****■ やけどを防ぐために**

- シガレットライターの金属部分に触れないでください。
- シガレットライターを押し込んだままにしないでください。
- 備えつけのシガレットライター以外のものを差し込まないでください。
ソケットが変形し、その後シガレットライターを使用したときにシガレットライターが飛び出したり、押し込まれたまま出てこないおそれがあります。

■ 使用後について（フロント）

ふたを必ず閉じてください。
走行中の思わぬ事故や急停止により、けがをするおそれがあります。

3-3. その他の室内装備の使い方

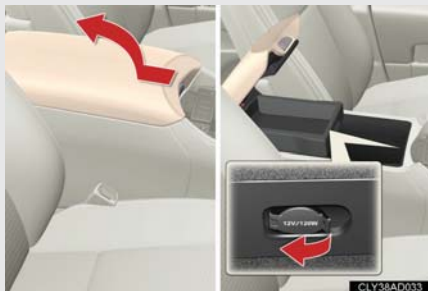
アクセサリースOCKET/アクセサリコンセント

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

12V: DC12Vで最大電流 10A (最大消費電力 120W) 以下の電気製品

AC100V: AC100Vで最大消費電力 100W 以下の電気製品

▶ アクセサリースOCKET (フロント)



▶ アクセサリースOCKET (リヤ) *



▶ アクセサリコンセント *



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 使用条件

▶ アクセサリーソケット

“エンジンスタートストップ”スイッチがアクセサリーまたはイグニッション ON モードのとき

▶ アクセサリーコンセント

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき



注意

■ ショートや故障を防ぐために

▶ アクセサリーソケット

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

▶ アクセサリーコンセント

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかたりしないように、使用しないときはコンセントから電気製品のプラグをはずし、ふたを閉めておいてください。

■ ヒューズが切れるのを防ぐために

▶ アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止した状態でアクセサリーソケット／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■ 正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切り替え（50/60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

3-3. その他の室内装備の使い方

ステアリングヒーター*

ハンドルのレザー部分をあたためることができます。



ON/OFF

作動中はインジケータが点灯します。

知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ タイマー機能

約 30 分後に自動で OFF になります。

■ インジケータが点滅した場合

スイッチを OFF にし、もう一度スイッチを押してください。点滅がさらに続く場合はシステムの異常が考えられます。作動を停止し、レクサス販売店で点検を受けてください。

警告

■ やけどについて

低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたが触れないようにご注意ください。

- ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
- ・ 皮膚の弱いかた
- ・ 疲労の激しいかた
- ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



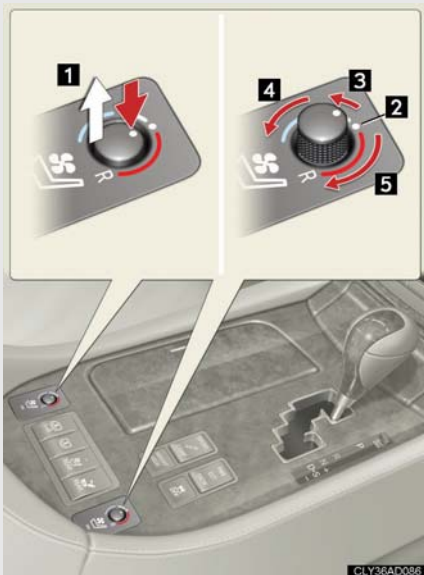
■ **バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

コンフォータブル・エアシート*

シート表面をあたためたり、冷やしたりすることができます。

■ フロントコンフォータブル・エアシート



1 ツマミを押し出します。左右にまわして温度を設定します。

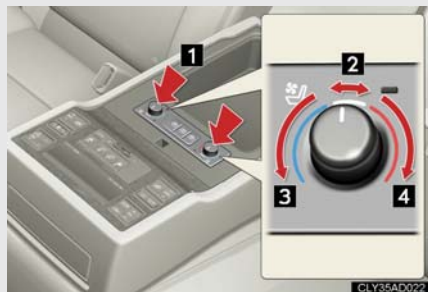
使用しないときはツマミを元の位置にもどしてください。

- 2 OFF
- 3 送風
- 4 冷房
- 5 暖房

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

■ リヤコンフォータブル・エアシート

▶ 5 席車両



1 ツマミを押して ON にします。
左右にまわして温度を設定し
ます。

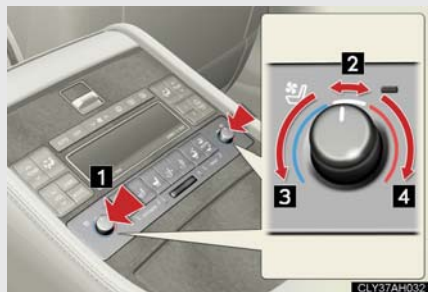
OFF するにはもう一度ツマミを押
します。

2 送風

3 冷房

4 暖房

▶ 4 席車両



フロント席からも ON/OFF する
ことができます。



 知識

■ コンフォータブル・エアシートの作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ フィルターについて

コンフォータブル・エアシートにはフィルターが入っています。交換の際はレクサス販売店にご相談ください。

 **警告**
■ やけどや冷やしすぎを防ぐために

- 低温やけどや冷やしすぎのおそれがあるため、以下のかたはとくにご注意ください。
 - ・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
 - ・ 皮膚の弱いかた
 - ・ 疲労の激しいかた
 - ・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた
- シートに毛布、クッション等を使用しないでください。
コンフォータブル・エアシートの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

 **注意**
■ コンフォータブル・エアシートの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■ バッテリーあがりを防止するために

エンジンが停止しているときはスイッチを OFF にしてください。

3-3. その他の室内装備の使い方

アームレスト*



手前に倒して使用します。

注意

- アームレストの破損を防ぐために
過度の負荷をかけないでください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

リヤシートリラクゼーションシステム（4 席車両）

エアーとバイブレーターによるリラクゼーションシステムがリヤ左席に装備されています。作動の強さ、速度、バイブレーターの速度をお好みにより調整することができます。



- 1** ON/OFF - システムの ON/OFF、各作動の停止
約 3 分間作動ボタンが選択されなかった場合、自動的に OFF になります。
- 2** リフレッシュ - リフレッシュの自動コース作動を開始
- 3** ストレッチ - ストレッチの自動コース作動を開始
- 4** 肩 - 肩部の作動を開始
- 5** 腰 - 腰部の作動を開始
- 6** 強さ - 作動の強さ調整
3 段階の調整が可能です。
- 7** 速さ - 作動の速度調整
3 段階の調整が可能です。
- 8** バイブ - バイブレーターの ON/OFF
バイブレーターは、リフレッシュ、ストレッチ、肩または腰モードとともに作動させることができます。同時に作動しているとき、選択されているモードのボタンを押してもバイブレーターを OFF にできます。

9 バイブ速さ - バイブレーター の速度調整

7 段階の調整が可能です。

知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ 自動コースの機能

- リフレッシュ - 背中全体へ部分的に作動します。
- ストレッチ - 腰部中心に作動をします。

■ タイマー機能

各作動は、開始から約 15 分で自動的に OFF になります。

警告

■ ご使用について

- 妊娠中のかた、出産直後のかた、静養を要する疾患（心臓疾患）のあるかたは、使用する前に必ず医師に相談してください。
- お子様は使用しないでください。
- 食後や長時間の使用は避けてください。
- 使用中に気分が悪くなった場合は、ただちに使用を止めてください。

3-3. その他の室内装備の使い方 テーブル（4 席車両）



レバーをスライドさせてテーブルを上げる。



テーブルを引き上げ、手前へ倒す。



テーブルの向きを変えることができます。テーブルを使用する前に、必ずロックされている事を確認してください。

前席のシート位置調整中、シートがテーブルに接触しそうになると作動が停止します。(→P. 58)



テーブルをもどすには、ロック解除レバーを引きながらテーブルを上げてください。

 **警告**

■ **使用しないときは**

けがを防ぐために、テーブルをもどしてください。

■ **走行中の警告**

テーブルを確実にもどしてください。事故や急ブレーキ時などに、テーブルに接触し、重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

■ **テーブル使用中について**

以下の注意をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪な場合死亡につながるおそれがあります。

- テーブルが確実にロックされていることを確認してください。
- テーブルにもたれかけないでください。
- テーブルの上に 10kg を超える物体を置かないでください。

 **注意**

■ **テーブルの破損を防ぐために**

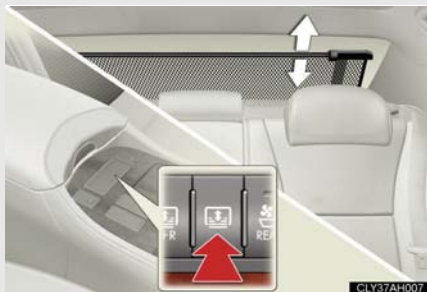
過度の負荷をかけないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

リヤサンシェード

スイッチ操作でリヤサンシェードを展開／格納できます。

▶ フロント席からの操作



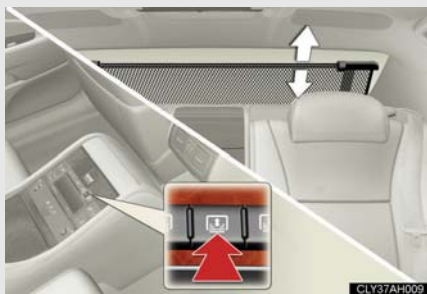
展開／格納

▶ リヤ席からの操作（5 席車両）



展開／格納

▶ リヤ席からの操作（4 席車両）



展開／格納

 知識

■ 作動条件

“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリモードまたは OFF にした後でも、約 60 秒間リヤサンシェードを操作できます。

■ リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトレバーを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降します。

ただし、下記のいずれかをおこなうと、リヤサンシェードは再度上昇します。

- スイッチをもう一度押す
- シフトレバーを P に入れる
- シフトレバーを P と R 以外にし、15 km/h 以上で走行する

リバース連動機能によりリヤサンシェードが下降した状態でエンジンを切った場合は、再びエンジンをかけて 15 km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、スイッチを押してください。

■ ボタンロック機能

▶ 5 席車両



誤った作動を防止するために、リアアームレストのリヤサンシェード、リヤドアサンシェード、オーディオ、エアコンの操作を禁止することができます。

ロックするには MODE ボタンをブザーが鳴るまで押してください。

もう一度 MODE ボタンをブザーが鳴るまで押すと解除されます。

▶ 4 席車両



ボタンロック中はディスプレイにインジケータが表示されます。

⚠ 警告

■ リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

 注意

■ バッテリーあがりを防ぐため

エンジンがかかっていない状態ではリヤサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分に物を置かないでください。
- リヤサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けないでください。

3-3. その他の室内装備の使い方

リヤドアサンシェード*

スイッチ操作でリヤドアサンシェードを伸縮できます。

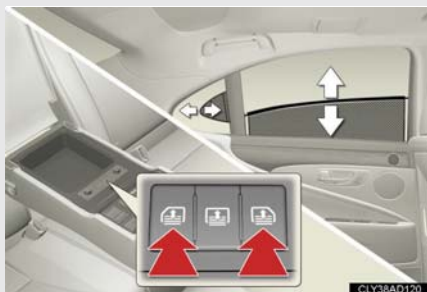
▶ フロント席からの操作



展開／格納

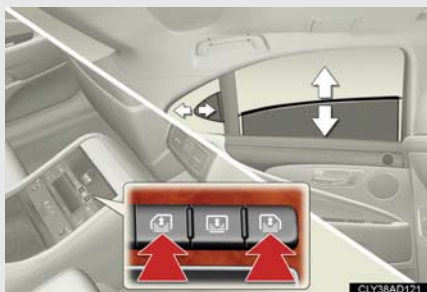
片側が開いている状態では両側とも格納します。

▶ リヤ席からの操作 (5 席車両)



展開／格納

▶ リヤ席からの操作 (4 席車両)



展開／格納

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 知識

■ 作動条件

- “エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッション ON モードのとき
- リヤドアガラスが完全に閉じているとき
リヤドアガラスを開けると自動的にリヤドアサンシェードが格納します。

■ “エンジンスタートストップ”スイッチ OFF 後の作動

“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF にした後でも、約 60 秒間リヤドアサンシェードを操作できます。

■ 挟み込み防止機能

リヤドアサンシェードと窓枠との間に異物が挟まると、挟み込み防止機能が作動してアームからサンシェードがはずれてサンシェードが格納します。

▶ 展開作動中で挟み込み防止機能が作動したら

スイッチを押すとアームとサンシェードが連結されます。

スイッチをもう一度押すことで再び使用できます。

もしスイッチを押してもサンシェードが作動しない場合は、もう一度操作してください。

▶ 格納作動中に挟み込み防止機能が作動したら

サンシェードを再び展開させるためにボタンを押し、そのままサンシェードが完全に展開し停止してから 5 秒以上経過するまでボタンを押しつづけてください。

■ ボタンロック機能

誤った作動を防止するために、リヤアームレストの一部のボタン操作を禁止することができます。(→P. 259)

■ バッテリーを再接続したときは

バッテリーを再接続した後、最初にスイッチを操作をすると、必ずリヤドアサンシェードは格納方向に動きます。

 **警告****■ リヤドアサンシェード作動中は**

リヤドアサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

■ 挟み込み防止機能

挟み込み防止機能を故意に作動させるため、体の一部を挟んだりしないでください。

 **注意****■ バッテリーあがりを防ぐため**

エンジンがかかっていない状態ではリヤドアサンシェードを操作しないでください。

■ 正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

- モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。
- 開閉の妨げになる部分に物を置かないでください。
- リヤドアサンシェードにものを貼らないでください。
- 溝をきれいに保ってください。
- 長時間操作を続けないでください。

トランクスルー*

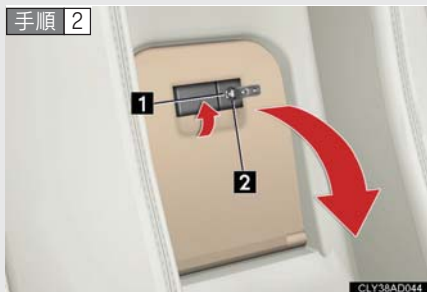
トランクとリヤ席のスペースを利用して、長い荷物を積むことができます。

手順 1



アームレストを手前に倒す。

手順 2



アームレストドアを開ける。

アームレストドアはメカニカルキーで施錠、解錠することができます。

- 1 施錠
- 2 解錠

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

手順 3 リヤ席側から、またはトランク側からトランクスルードアを開け、荷物を積む。

▶ リヤ席から開ける



▶ トランクから開ける



警告

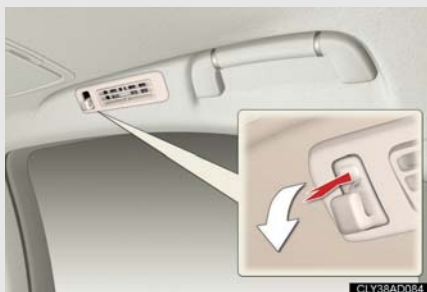
■ 使わないときは

トランクスルードアを閉めておいてください。
思わぬ事故や急ブレーキをかけたときなどに、トランクに収納していたものが車内に飛び出し、けがをするおそれがあります。

3-3. その他の室内装備の使い方

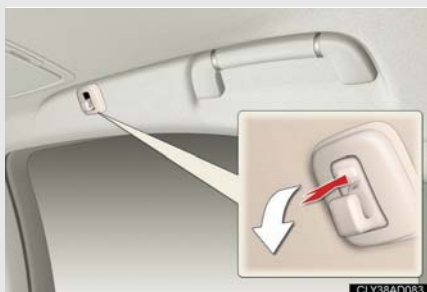
コートフック

▶ リヤエアコン装着車



使用するときには、コートフックを押しします。

▶ リヤエアコン装着車を除く



警告

■ コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

フロアマット

車に合ったものを、フロアカーペットの上にしかりと固定してお使いください。



カーペットには、フロアマットの固定クリップ取り付け用の穴があります。

警告

■ フロアマットを敷くときは

以下のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、フロアマットがすべったり、運転中にペダルの操作をさまたげ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- フロアマットを裏返して使用しない
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない

3-3. その他の室内装備の使い方

トランク内装備

■ 荷物固定用ネット



ネットを使って荷物を固定したり、トランク内を前後に仕切ることができます。

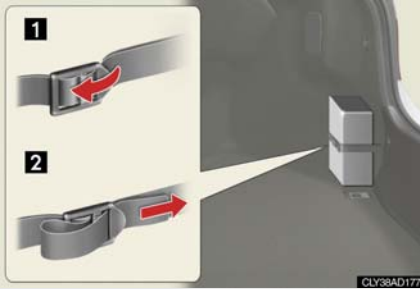
床上のフックを引き上げます。ネットをフックにかけます。



■ 買い物フック



■ 救急箱固定用バンド



1 ゆるむ

2 締まる

■ ラゲージマット

▶ スペアタイヤ搭載車



レバーを上へ引き上げ、ラゲージマットを持ち上げます。



レバーはトランクの縁へかけることができます。

▶ パンク修理キット付き車



ハンドルを起し、ラゲージマットを持ち上げます。



ラゲージマットは折り曲げることができます。

 警告

■ 荷物固定用ネットを使用しないときは

必ず固定用フックを元の位置にもどしておいてください。

 注意

■ トランクを閉めるときは

ラゲージマット上のレバーをトランクの縁へかけたままにしないでください。
ラゲージマットが損傷するおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ	272
内装の手入れ	275
タイヤについて.....	277

4-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット	281
ガレージジャッキ.....	283
エンジンルームカバー	285
電球（バルブ）の交換	287
ヒューズの点検、交換.....	301
電子キーの電池交換.....	314
ウォッシャー液の補給	316

4-1. お手入れのしかた

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

- 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。
- 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。
- 水をふき取る。
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう。

ポデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。(およそ体温以下を目安としてください。)

なお、ポデーコート、ホイールコート、ガラスコートなどレクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

■ 自動洗車機を使うときは

- 洗車する前に、ミラーを格納してください。
- ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。

■ 高圧洗車機を使うときは

- 室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。
- 洗車の前に給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■ アルミホイール

中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは使用しないでください。

■ バンパーおよびサイドモールディング

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ ドアミラーの親水コーティングについて

親水膜の効果を持続させるため、以下のことに注意してください。

- シリコンやコンパウンドの入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す
- 晴天時に太陽光を1・2日間当てる

■ 塗装の劣化や車体の腐食を防ぐために

- 次のような場合はただちに洗車してください。
 - ・ 海岸地帯を走行したあと
 - ・ 凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
 - ・ コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
 - ・ ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
 - ・ ほこり、泥などで激しく汚れたとき
 - ・ 塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

警告

■ 洗車をするときは

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ 排気管およびデュアルエキゾーストパイプ（バンパー一体ディフューザー付）について

排気管およびデュアルエキゾーストパイプは排気ガスにより高温になります。洗車などで触れる場合は、十分に排気管およびデュアルエキゾーストパイプが冷えてからにしてください。やけどをするおそれがあります。

■ 後方プリクラッシュセーフティシステム* について

リヤバンパーの塗装に傷がついたときは、レクサス販売店にご相談ください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 注意

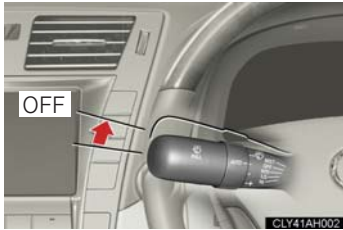
■ 塗装の損傷をさけるために

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤は使用しないでください。

■ ライトの清掃

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。
- ライトにワックスがけをおこなわないでください。レンズを損傷するおそれがあります。

■ 自動洗車機を使用するときは



ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

4-1. お手入れのしかた

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 車内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る

■ 本革部分の手入れ

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤を柔らかい布に含ませ、汚れをふき取る
ウール用の中性洗剤を約 5% の水溶液まで薄めたものを使用してください。
- 真水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分を拭き取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固くしぼったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■ 本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■ カーペットの洗淨

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■ シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→ P. 77)



警告

■ 車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。
電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→ P. 105)
電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。



注意

■ 清掃するとき使用する溶剤について

変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤などは使用しないでください。

■ 革の傷みをさけるために

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

- 革についたほこりや砂はすぐに取り除く。
- 直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。
- ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはりつくおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■ 床に水がかかると

水で洗わないでください。

オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボディが錆びるおそれがあります。

■ リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

- 熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。
- 熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

4-1. お手入れのしかた タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。

タイヤの磨耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）をFR車は10,000 kmごとに、AWD車は5,000 kmごとにおこなってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。

点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときにおこなってください。

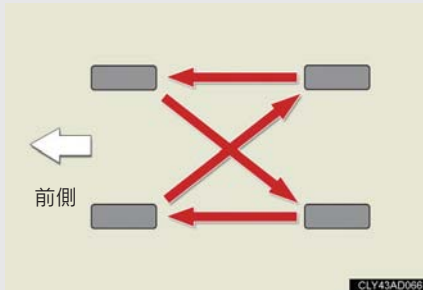
● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

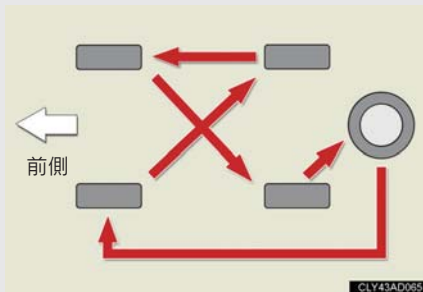
- ▶ スペアタイヤが応急用タイヤ、またはパンク修理キット搭載車の場合



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、レクサスは定期点検毎のタイヤローテーションをおすすめします。

- ▶ スペアタイヤが標準タイヤの場合



図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、レクサスは定期点検毎のタイヤローテーションをおすすめします。

 知識

■ タイヤ空気圧の数値



前輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

後輪：230 kPa (2.3 kg/cm²)

スペア：420 kPa (4.2 kg/cm²) ※1
230 kPa (2.3 kg/cm²) ※2

※1 応急用タイヤ

※2 標準用タイヤ

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

■ タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

警告

■ 点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。

お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、ベルテッドバイアスタイヤ、バイアスタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

 警告

■ **タイヤサイズの変更について**

新車時に装着されているタイヤサイズによってタイヤ切れ角の設定が異なるため、装着されているタイヤサイズ以外のタイヤを装着しないでください。サイズの異なるタイヤやホイールを装着した場合に車両の安定性が十分に確保できなくなるおそれがあります。

■ **異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷をあたえる
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

 注意

■ **走行中に空気漏れが起こったら**

走行を続けしないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■ **悪路走行に対する注意**

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

4-2. 簡単な点検・部品交換 ボンネット

車内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

手順 1



ボンネット解除レバーを引く。
ボンネットが少し浮き上がります。

手順 2



レバーを引き上げてボンネット
を開ける。

⚠ 警告

■ 走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、死亡事故や重大な傷害につながるおそれがあります。

■ エンジンルームを点検したあとは

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れてしまうと、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■ ボンネットを閉めるときは



ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

■ ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

- ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。
- ボンネットにはボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。
 - ・ ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
 - ・ ロッド部を軍手などで触れない
 - ・ ボンネットにレクサス純正品以外のアクセサリ用品を付けない
 - ・ ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

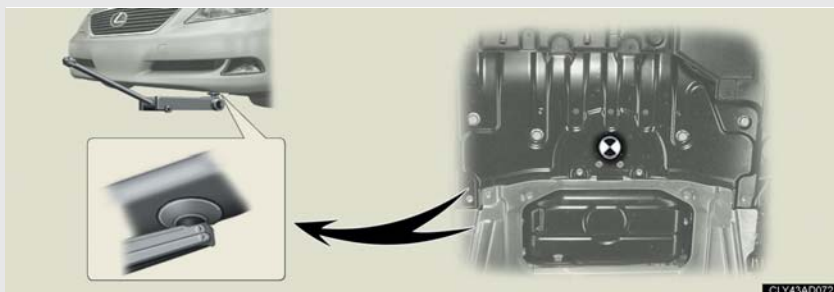
4-2. 簡単な点検・部品交換 ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用してお車を持ち上げる時は、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。

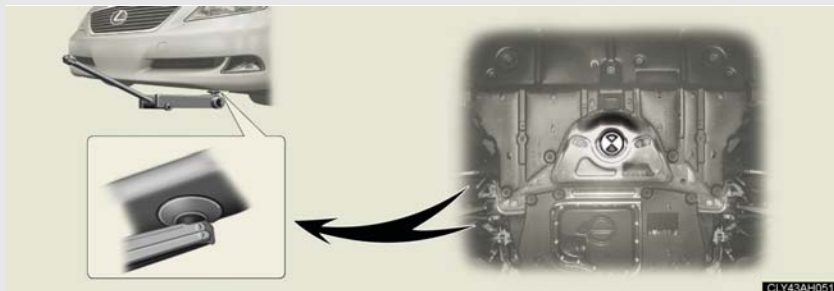
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ フロント側

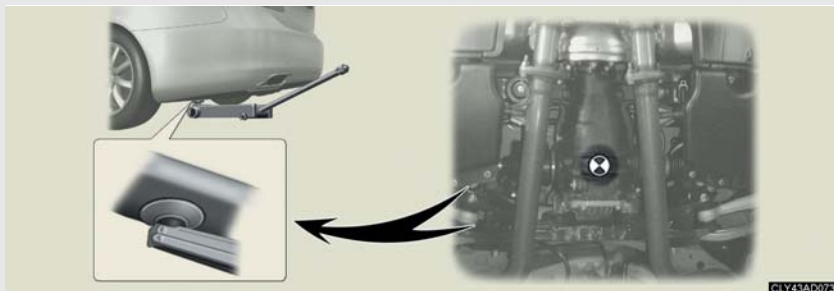
▶ FR 車（後輪駆動）



▶ AWD 車（4 輪駆動）



■ リヤ側



警告

■ 車両を持ち上げる時には

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。



● 図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

- 車に搭載されているジャッキを使用しないでください。車両が落下するおそれがあります。
- ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしないでください。
自動車用ジャッキスタンドを硬い水平面で使用してください。
- 車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しないでください。
- 平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトレバーをPにしてください。
- ガレージジャッキは、必ずジャッキポイントに正しく取り付けてください。
ガレージジャッキを正しく取り付けずに車両を持ち上げると、車両が損傷します。
また車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。
- 車内に乗員がいるときは車両を持ち上げないでください。
- 車両を持ち上げるときは、ガレージジャッキの上下に物を置かないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 エンジンルームカバー

ヒューズや電球（バルブ）の点検・交換などをおこなうときに取りはずします。

■ エンジンルームカバーの取りはずし方

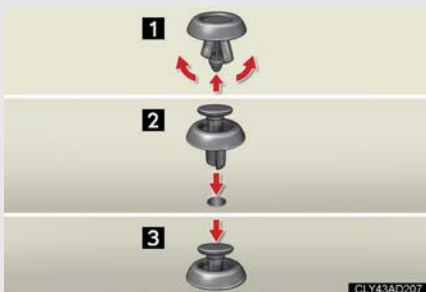
▶ 外側



▶ 前側



▶ クリップの取り付け方

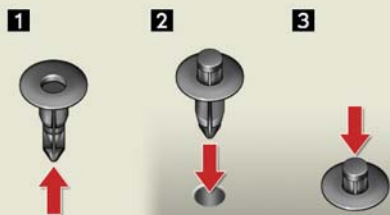


■ バッテリーカバーの取りはずし方

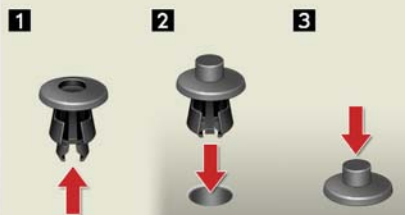


▶ クリップの取り付け方

小型クリップ



大型クリップ



⚠ 警告

■ けがを防ぐために

カバーを取りはずす前に、“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれてけがをすることがあります。

⚠ 注意

■ カバーを取り付けたあとは

元の場所に確実に取り付けられていることを確認ください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電球（バルブ）の交換

以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、レクサス販売店にご相談ください。

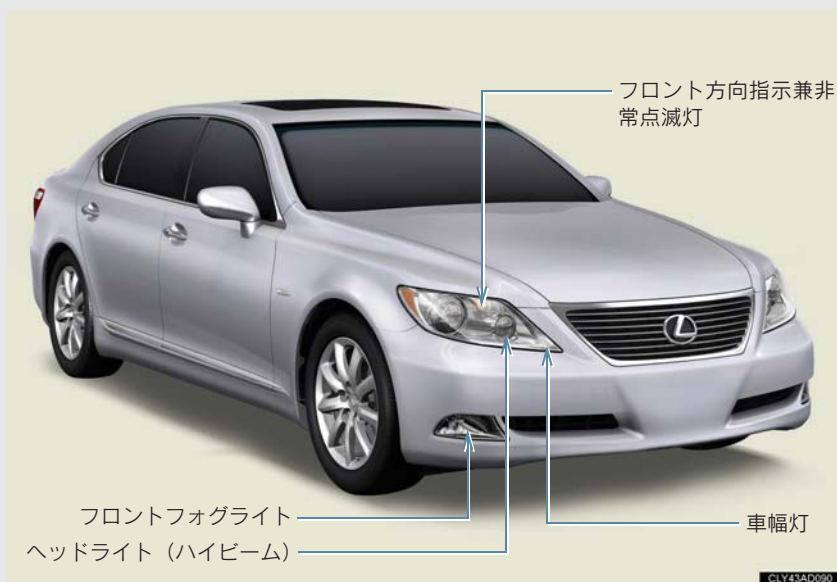
■ 電球の用意

切れた電球の W 数を確認してください。（→P. 381）

■ エンジンルームカバーの取りはずし

→P. 285

■ フロントのバルブ位置



■ リヤのバルブ位置



* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球交換のしかた

■ ヘッドライト（ハイビーム）

手順 1 電球を交換するまえに、

▶ 左側



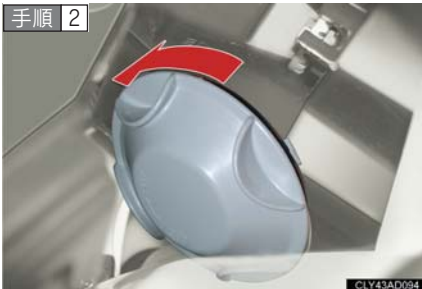
ウォッシャー液補給口の固定ボルトをはずし、補給口の位置を移動する。

▶ 右側

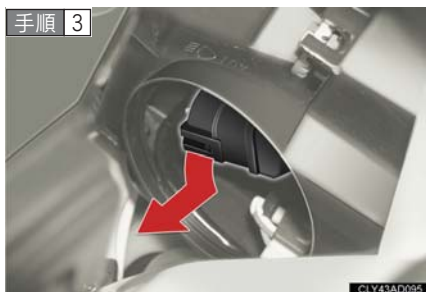


ヒューズボックス固定ボルトをはずし、ヒューズボックスを移動する。

手順 2



カバーを取りはずす。



ソケットを取りはずす。

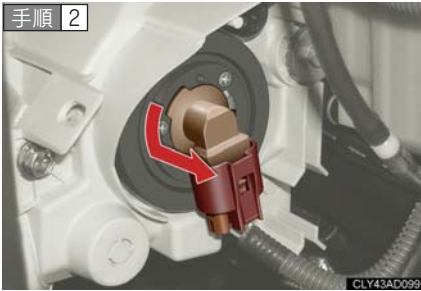


電球を取りはずす。

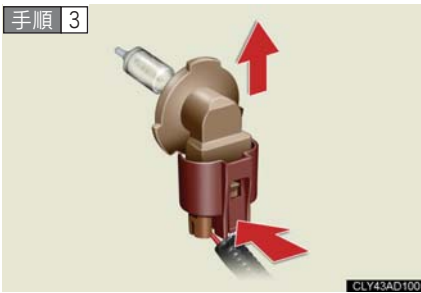
■ フロントフォグライト



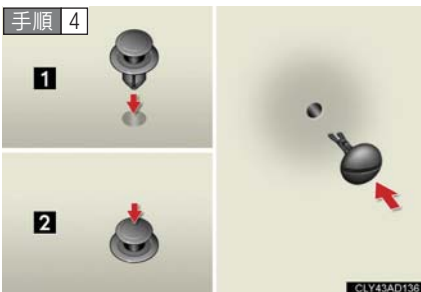
交換するライトの反対側へハンドルをまわし、タイヤの向きをかえる。フェンダーライナー固定ボルトとクリップをはずし、フェンダーライナーをめくる。



ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。



固定ボルトとクリップを取り付ける。

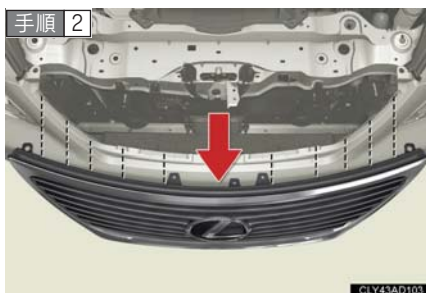
■ 車幅灯

手順 1



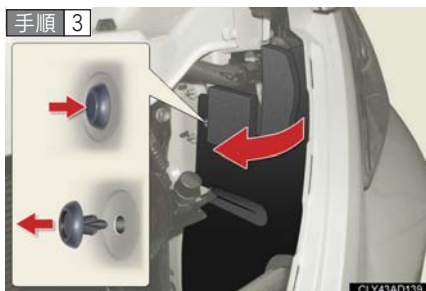
クリップとボルトを取りはずす。

手順 2



グリルを取りはずす。

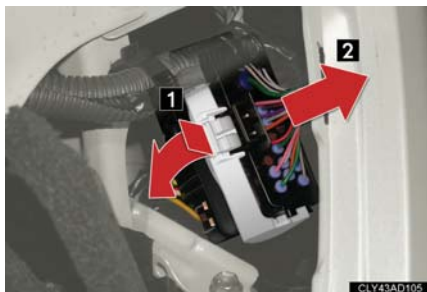
手順 3



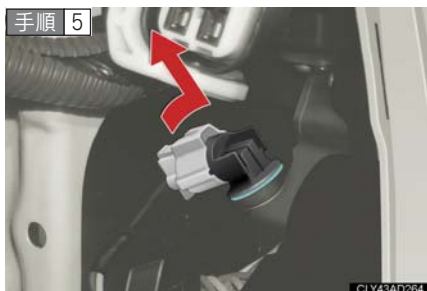
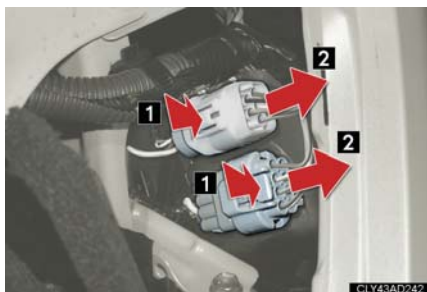
カバークリップをはずしてからカバーを取りはずす。

手順 4 ロックを解除し、コネクタを取りはずす。

▶ カメラセンサー装着車

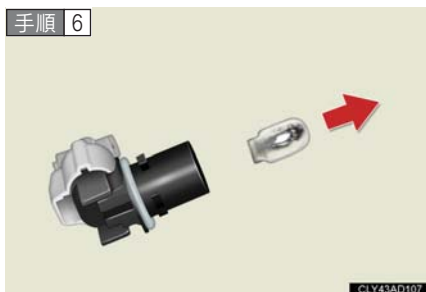


▶ カメラセンサー装着車を除く



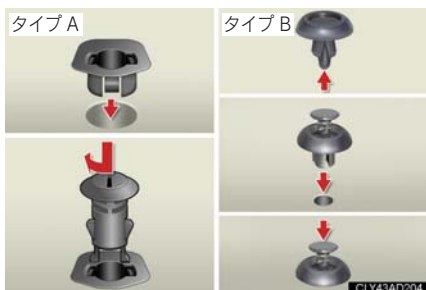
ソケットを取りはずす。

手順 6



電球を取りはずす。

電球を交換したあとは、カバーとクリップを確実に取り付ける。



■ フロント方向指示兼非常点滅灯

手順 1 電球を交換するまえに、

▶ 左側



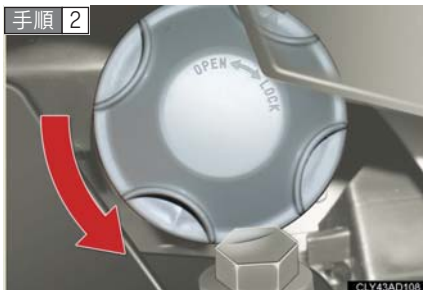
ウォッシャー液補給口の固定ボルトをはずし、補給口の位置を移動する。

▶ 右側



ヒューズボックス固定ボルトをはずし、ヒューズボックスを移動する。

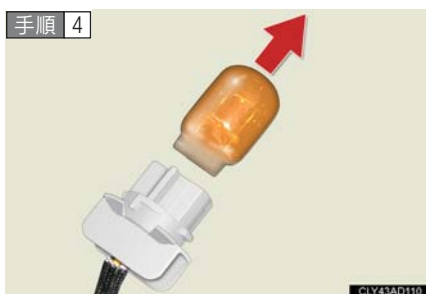
手順 2



カバーを取りはずす。



ソケットを取りはずす。



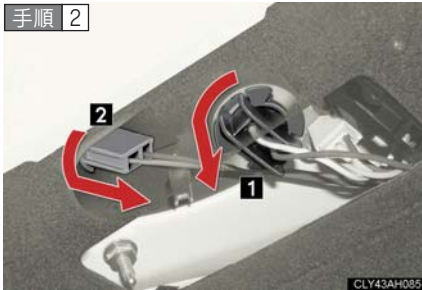
電球を取りはずす。

■ 後退灯、リヤフォグライト*



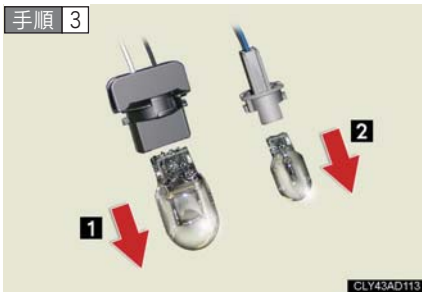
トランクを開け、カバーを取りはずす。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



ソケットを取りはずす。

- 1 リヤフォグライト*
- 2 後退灯



電球を取りはずす。

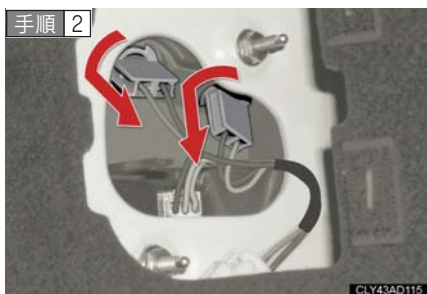
- 1 リヤフォグライト*
- 2 後退灯

■ リヤ方向指示兼非常点滅灯

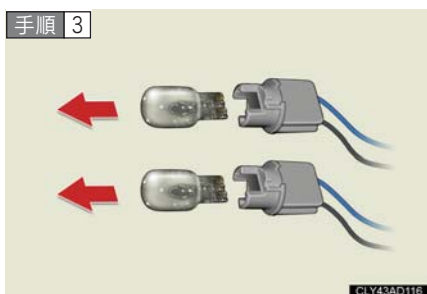


トランクを開け、カバーを取りはずす。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



ソケットを取りはずす。



電球を取りはずす。

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドライト（ロービーム）
- サイド方向指示兼非常点滅灯
- 制動灯
- ハイマウントストップライト
- 尾灯
- 番号灯

 知識

■ レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ライト内に水がたまっている

■ ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。電圧が正常にもどると再点灯します。

 警告

■ 電球を交換するときは

- ライトは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどするおそれがあります。
- 電球のガラス部を素手で触れないでください。プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。
- 電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。
- 電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。感電による重大な傷害の原因となります。

■ ディスチャージヘッドライトについて

- 交換するとき（電球交換含む）は、必ずレクサス販売店にご相談ください。
- 点灯中は、高電圧ソケットに触れないでください。瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電による重大な傷害の原因となることがあります。



■ **ヘッドライト（ハイビーム）、フロントフォグライト、フロント方向指示兼非常点滅灯の電球交換について**

ご自身で電球交換をおこなった場合、車を損傷するおそれがあります。

■ **お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

■ **LED 制動灯、ハイマウントストップライト、尾灯について**

制動灯、ハイマウントストップライト、尾灯は数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

ヒューズの点検、交換

ライトがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検をおこなってください。

手順 1 “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にする。

手順 2 エンジンルームカバーを取りはずす。(→P. 285)

手順 3 ヒューズボックスを開ける。

▶ エンジンルーム (ヒューズボックス A)



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ エンジンルーム (ヒューズボックス B)



ツメを押しながら、カバーを持ち上げる。

▶ 運転席足元



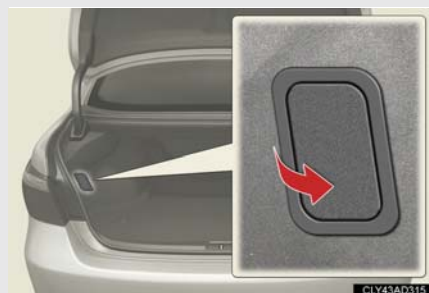
カバーを取りはずす。

▶ 助手席足元



カバーを取りはずす。

▶ トランク



カバーを取りはずす。

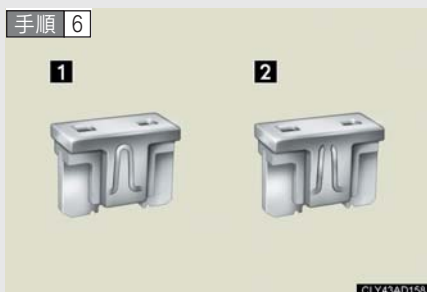
手順 4 故障の状況から、点検すべきヒューズを確認する。(→ P. 304)

手順 5



ヒューズはずしてヒューズを引き抜く。

手順 6



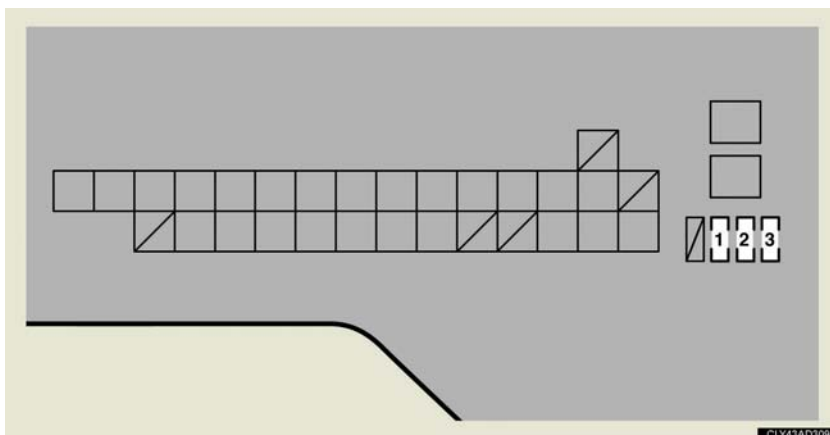
ヒューズが切れていないか点検する。

- 1 正常
- 2 ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

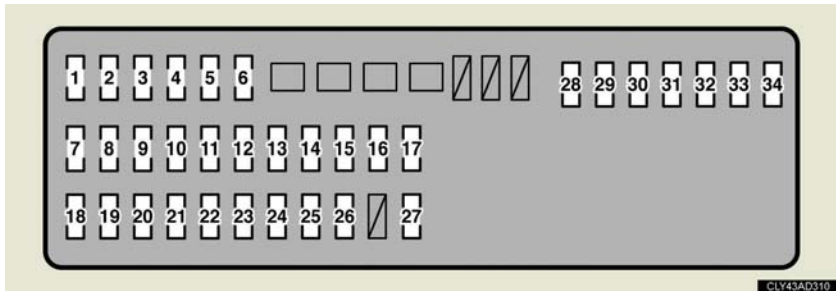
ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム（ヒューズボックス A）



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1	PTC HTR 3	25 A	エアコン
2	PTC HTR 1	25 A	エアコン
3	VSSR	5 A	電源制御システム

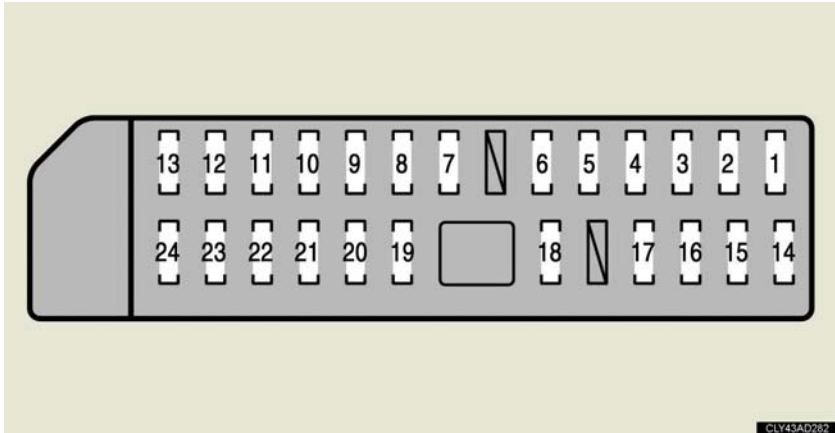
■ エンジンルーム（ヒューズボックス B）



ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1	25 A	フロントワイパーデアイサー
2	30 A	ワイパー
3	10 A	ABS、VSC、VDIM
4	25 A	スマートエントリー&スタートシステム
5	10 A	EPS
6	30 A	ヘッドライト（ハイビーム）、ホーン
7	10 A	AFS、ヘッドライト（ハイビーム）、車幅灯、ホーン、ウォッシャー、排気システム
8	10 A	充電システム、EPS、電動クーリングファン、AFS
9	15 A	ヘッドライト（ロービーム）
10	10 A	ブレーキシステム、プリクラッシュシートベルト
11	15 A	ヘッドライト（ロービーム）
12	10 A	EFI システム
13	10 A	クルーズコントロール
14	10 A	EFI システム、ブレーキシステム、SRSエアバッグシステム
15	10 A	EFI システム、制動灯、プリクラッシュシートベルト、充電システム
16	30 A	ECU-B、D MPX-B 1、D MPX-B 2、DOME

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
17	ECU-B	10 A	ヘッドライト (ハイビーム)、車幅灯、ホーン、ウォッシャー、プリクラッシュシートベルト
18	A/F	15 A	EFI システム、排気システム
19	EDU2	25 A	EFI システム
20	FR CTRL ALT	20 A	ウォッシャー、車幅灯
21	EDU1	25 A	EFI システム
22	RELIEF VLV	10 A	フューエルシステム
23	FR FOG	15 A	フロントフォグライト
24	A/C W/P	10 A	エアコン、電動クーリングファン
25	H-LP LVL	10 A	ディスチャージヘッドライト、ヘッドライト (ハイビーム)、車幅灯、ホーン、ウォッシャー
26	P-J/B	10 A	P IG2
27	INJ	10 A	EFI システム
28	D/C CUT 2	30 A	P MPX-B、RR MPX-B 1、RR MPX-B 2
29	ECU-B 2	5 A	ブレーキシステム
30	ABS MAIN 3	10 A	ブレーキシステム、プリクラッシュシートベルト
31	EFI MAIN 2	25 A	EFI システム、排気システム
32	EFI MAIN	25 A	EFI システム、フューエルシステム
33	EFI	10 A	EFI システム、フューエルシステム
34	EFI-B	10 A	EFI システム

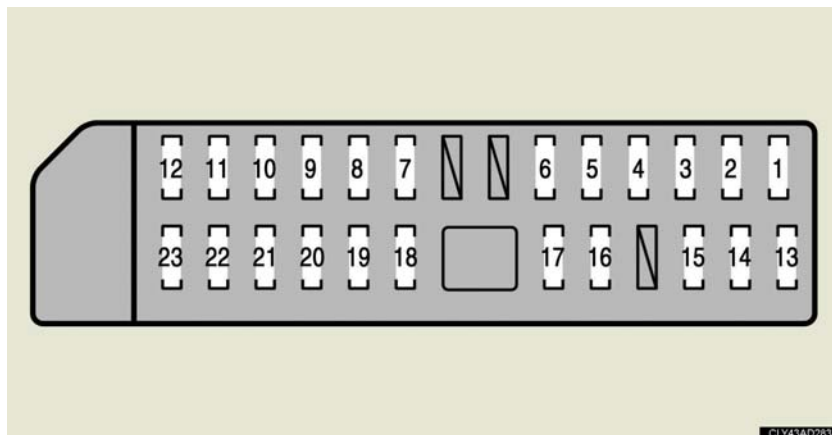
■ 運転席足元



ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1	D-IG1-3	10 A	オートマチックトランスミッション、パワードアロックシステム、クルーズコントロール、ブレーキシステム、リヤウィンドウデフォグガー、ムーンルーフ、プリクラッシュシートベルト、ヘッドレスト、ブレーキシステム、アクセサリースOCKET、方向指示兼非常点滅灯、コンフォータブル・エアシート、オーディオ
2	D-IG1-2	5 A	クルーズコントロール
3	D-IG1-4	15 A	始動システム、コンフォータブル・エアシート
4	D-IG1-1	5 A	メインボデー ECU、プリクラッシュシートベルト、電動チルト&テレスコピックステアリング、始動システム
5	PWR OUTLET	15 A	アクセサリースOCKET
6	D-ACC	5 A	パワードアロックシステム
7	S/ROOF	30 A	ムーンルーフ
8	TI&TE	30 A	電動チルト&テレスコピックステアリング
9	AM1	5 A	パワードアロックシステム
10	OBD	10 A	ダイアグノーシスコネクター

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
11	D P/SEAT	30 A	フロントシート調整
12	D S/HTR	20 A	コンフォータブル・エアシート
13	D RR S/HTR	30 A	コンフォータブル・エアシート
14	D MPX-B 1	10 A	メーター、フロントシート調整、リヤシート調整、電動チルト&テレスコピックステアリング、パワードアロックシステム、クルーズコントロール
15	DOME	10 A	室内灯、時計
16	D MPX-B 2	10 A	オーディオ
17	PANEL	10 A	フューエルリッド、室内灯、オーディオ
18	SECURITY	5 A	スマートエントリー&スタートシステム
19	STR LOCK	20 A	電動チルト&テレスコピックステアリング
20	D-DOOR 2	10 A	パワードアロックシステム
21	HAZ	10 A	方向指示兼非常点滅灯
22	D RR DOOR	25 A	室内灯、パワードアロックシステム、パワーウィンドウ
23	D DOOR 1	25 A	室内灯、電動ミラー、パワードアロックシステム、パワーウィンドウ、電動格納ミラー
24	STOP	5 A	制動灯

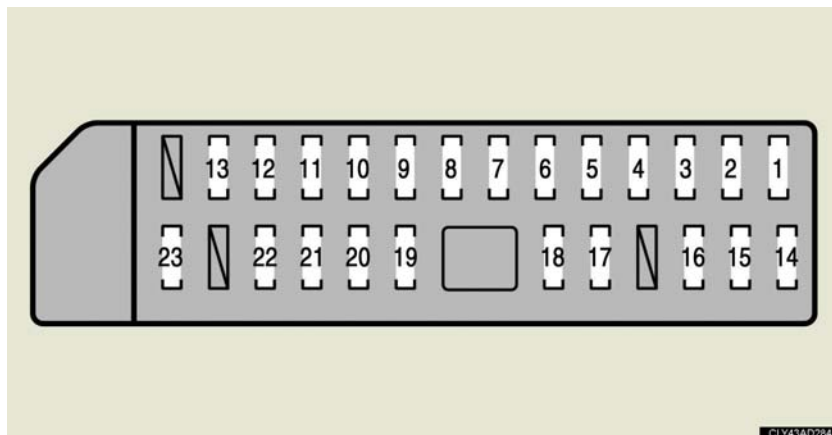
■ 助手席足元



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1	P-IG1-2	5 A	オーディオ
2	P-IG1-3	5 A	VGRS
3	P-IG1-1	10 A	オーディオ、ナビゲーションシステム、パワードアロックシステム、エアコン、ヘッドレスト、プリクラッシュシートベルト、バックガイドモニター
4	P-IG1-4	10 A	コンフォータブル・エアシート
5	P-CIG	15 A	シガレットライター
6	P-ACC	5 A	オーディオ、ナビゲーションシステム、時計、クルーズコントロール
7	A/C	10 A	エアコン
8	P S/HTR	20 A	コンフォータブル・エアシート
9	P P/SEAT 2	30 A	フロントシート調整
10	RR SEAT	30 A	リヤシート調整
11	P P/SEAT 1	30 A	フロントシート調整
12	P RR S/HTR	30 A	コンフォータブル・エアシート
13	P IG2	5 A	電動チルト&テレスコピックステアリング、スマートエントリー&スタートシステム、メーター、電源制御システム

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
14	P RR-IG2	5 A	ダイアグノーシスコネクター
15	P MPX-B	10 A	パワードアロックシステム、フロントシート調整、リヤシート調整、VGRS、スマートエントリー&スタートシステム、始動システム、バックガイドモニター
16	AIR SUS	20 A	エアサスペンションシステム
17	AM2	5 A	パワードアロックシステム
18	RADIO NO.1	20 A	エアコン、ナビゲーションシステム
19	PMG	5 A	電源制御システム
20	P-D/C CUT	5 A	ライトスイッチ、ワイパー&ウォッシャー、ホーン、電動チルト&テレスコピックステアリング、パワーウィンドウ、パワードアロックシステム、ドアサンシェード、リヤサンシェード、リヤシート調整、ハンドルスイッチ
21	P DOOR 2	10 A	パワードアロックシステム
22	P RR DOOR	25 A	室内灯、パワードアロックシステム、パワーウィンドウ
23	P DOOR 1	25 A	室内灯、電動ミラー、パワードアロックシステム、パワーウィンドウ、ミラーヒーター

■ トランク



	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
1	RR-IG1-3	10 A	コンフォータブル・エアシート
2	RR-IG1-4	10 A	リヤシート調整
3	RR-IG1-2	10 A	パワードアロックシステム、クールボックス、エアコン
4	RR-IG1-1	5 A	充電システム、ブレーキシステム、リヤシート調整
5	RR-ACC	5 A	オーディオ、リヤシートエンターテインメントシステム
6	RR-CIG	15 A	シガレットライター
7	AC100/115V	15 A	アクセサリソケット
8	RL SEAT	30 A	リヤシート調整
9	B/ANC	10 A	シートベルトアンカー
10	RR S/SHADE	10 A	リヤサンシェード
11	PSB	30 A	プリクラッシュシートベルト
12	PTL	30 A	パワートランクリッド
13	FUEL OPN	15 A	フューエルリッド、パワートランクリッド
14	RR MPX-B 1	10 A	オーディオ、リヤシートエンターテインメントシステム、パワートランクリッド

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ装置名称
15	RR MPX-B 2	5 A	パワードアロックシステム、リヤシート調整、室内灯、パワートランクリッド
16	IGCT 3	5 A	————
17	BATT FAN	20 A	電動クーリングファン
18	B-FAN RLY	5 A	電動クーリングファン
19	RR ECU-B	5 A	シートベルトバックルライト、トランクルームライト
20	ABS MAIN 4	10 A	充電システム
21	STOP LP 1	10 A	制動灯、後退灯
22	STOP LP 2	10 A	リヤフォグライト、ハイマウントストップライト
23	TAIL	5 A	尾灯、番号灯

知識

■ ヒューズを交換したあと

- 交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 287)
- 取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

 **警告****■車の故障や、車両火災を防ぐために**

次のことをお守りください。

お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。一瞬であっても、決して銅線などでつながないでください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

4-2. 簡単な点検・部品交換 電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいプラスドライバー
- リチウム電池 CR1632

■ 電池交換のしかた

手順 1



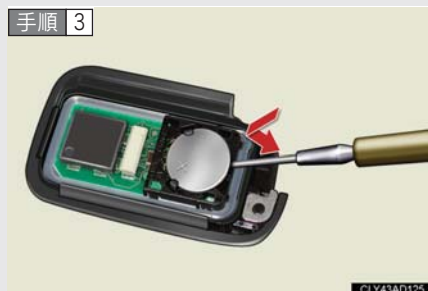
メカニカルキーを抜く。

手順 2



カバーをはずす。

手順 3



消耗した電池を取り出す。

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

 知識**■ 電子キーの電池が消耗していると**

以下のような状態が起こります。

- スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■ リチウム電池 CR1632 の入手

電池はレクサス販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

■ カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

 **警告****■ 取りはずした電池と部品について**

お子さまに触れさせないください。

部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせるおそれがあります。

 **注意****■ 交換後、正常に機能させるために**

以下のことを必ずお守りください。

- 濡れた手で電池を交換しない
錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、触れたり動かしたりしない
- 電極を曲げない

4-2. 簡単な点検・部品交換 ウォッシャー液の補給



ウォッシャー液が出なかったり、マルチディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補給する。

警告

■ ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。

塗装にしみがつくおそれがあります。

■ ウォッシャー液の薄め方

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

5-1. まず初めに

非常点滅灯	318
発炎筒	319
けん引について.....	321
イベントデータ レコーダー	325

5-2. 緊急時の対処法

警告灯がついたときは.....	327
警告メッセージが 表示されたときは.....	331
パンクしたときは (スペアタイヤ搭載車)	333
パンクしたときは (パンク修理キット付き車)	344
エンジンがかからない ときは	356
シフトレバーがシフト できないときは.....	358
パーキングブレーキが解除 できないときは.....	359
キーを無くしたときは.....	363
電子キーが正常に 働かないときは.....	364
バッテリーがあがった ときは	367
オーバーヒートした ときは	370
スタックしたときは.....	373

5-1. まず初めに 非常点滅灯

事故や故障のときなどにお使いください。



スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

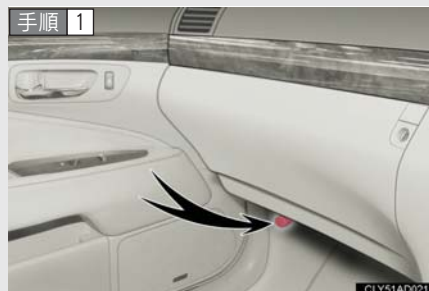
注意

■ バッテリーあがりを防ぐために

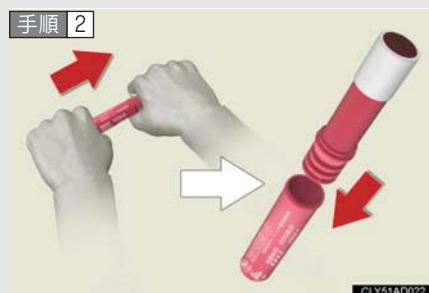
エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

5-1. まず初めに 発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約5分です。非常点滅灯と併用してお使いください。



助手席足元の発炎筒を取り出す。



本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして差し込む。



先端のふたを取りはずし、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる。

知識

■ 発炎筒の有効期限

表示してある有効期間がきれる前に、レクサス販売店でお求めください。

 **警告**

■ **発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■ **発炎筒の取り扱いについて**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

5-1. まず初めに けん引について

けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

■ けん引する前に

以下の場合、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店へご連絡ください。

- エンジンがかかるが、車が動かない
- 異常な音がする

■ けん引されるときは

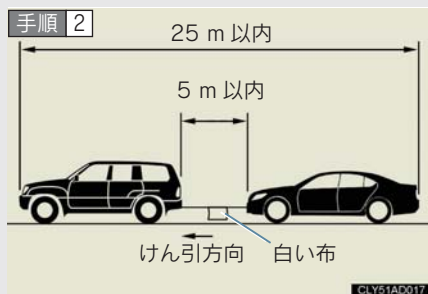
手順 1



車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける。

前進方向でけん引してください。

手順 2



ロープの中央に白い布を付ける。

布の大きさ：

0.3 m 平方 (30 cm × 30 cm) 以上

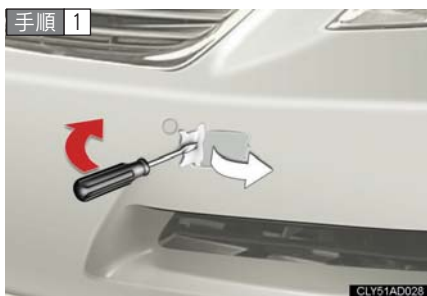
手順 3 けん引される車両のエンジンをかける。

エンジンがかからないときは、“エンジンスタートストップ”スイッチをアクセサリーまたはイグニッション ON モードにしてください。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する。

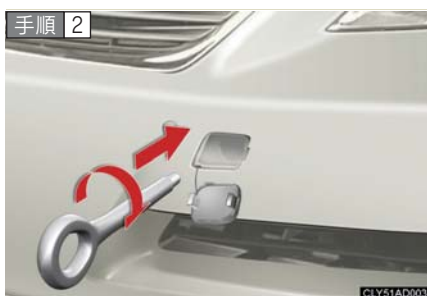
けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

けん引フックの取り付けかた

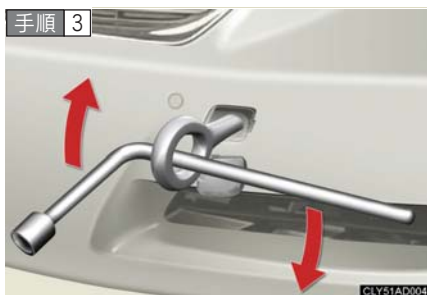


マイナスドライバーを使ってふたをはずします。

車体への損傷を防ぐため、イラストのように車体とマイナスドライバーの間に布をあててください。



けん引フックを穴に差しこみ軽く締めます。



ホイールナットレンチを使い確実に取り付けます。

 知識**■ けん引フックの使用目的**

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■ けん引フックの収納位置

→P. 333, 344

 **警告****■ けん引フックを車両に取り付けるときは**

しっかりと取り付けてください。

さもないとけん引時にはずれてしまい、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■ 車両を運搬するとき

必ず4輪とも持ち上げた状態で運搬してください。

駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。

■ けん引中の運転について

- けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。

けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。

けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

- “エンジンスタートストップ” スイッチを OFF にしないでください。

ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- けん引される車は、慎重に運転してください。

エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。



注意

■車の損傷を防ぐために

- けん引するときは以下のことを必ずお守りください。
 - ・ワイヤーロープは使用しない
 - ・速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
 - ・前進方向でけん引する
 - ・サスペンション部などにロープをかけない
- この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。
駆動系部品などに重大な損傷を与えるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピュータを搭載しています。このコンピュータはシステムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録するイベントデータレコーダ（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。

データの開示について

レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、レクサスおよびレクサスが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。


- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理をおこなうなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	ブレーキ警告灯（赤色） ・ブレーキ液の不足 ・電子制御ブレーキシステムの異常



ただちに停車してください。





以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	充電警告灯 充電システムの異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ/プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常

警告灯	警告灯名・警告内容
	ABS & ブレーキアシスト警告灯 ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	ブレーキ警告灯 (黄色) ・電子制御ブレーキシステムの異常 ・電動パーキングブレーキシステムの異常
	パワーステアリング警告灯 EPS (エレクトリックパワーステアリング) の異常
	PCS 警告灯* プリクラッシュセーフティシステムの異常

知識

■ パワーステアリング警告灯について

バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に点灯することがあります。

警告

■ パワーステアリング警告灯が点灯したときは

ハンドルが非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 (警告ブザー) ※ 1 いずれかのドアまたはトランクが確実に閉まっていない	全ドアおよびトランクを閉める。
 燃料計内	燃料残量警告灯 燃料の残量 (約 13 L 以下)	燃料を補給
	運転席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 運転席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	助手席シートベルト 非着用警告灯 (警告ブザー) ※ 2 助手席シートベルトの非着用	シートベルトを着用
	マスターウォーニング システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチディスプレイ上に警告メッセージを表示	→ P. 331

※ 1 半ドア走行時警告ブザー：

各ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が 5 km/h を超えたときにブザーが鳴ります。

※ 2 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：

運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

 知識

■ 助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

警告メッセージが表示されたときは

マルチディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときはメッセージの内容にしたがって処置してください。



1 マスターウォーニング


マルチディスプレイにメッセージが表示されているとき点灯・点滅します。


2 マルチディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が以下のように切り替えます。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

	専用警告灯	警告ブザー*	警告内容
点灯	—	あり	走行に関わるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。
—	点灯もしくは点滅	あり	表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点滅	—	あり	お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。
点灯	—	なし	電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。

	専用警告灯	警告ブザー*	警告内容
点滅	—	なし	お車を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。

*：メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

■ 専用警告灯について

以下の内容のメッセージが表示されたときは、マスターウォーニングライトが点灯・点滅しません。その場合は個別の専用警告表示をおこないます。

- AFS（アダプティブフロントライティングシステム）の異常
AFS OFF 表示灯が点滅します。（→P. 155）
- ブレーキシステムの異常
ブレーキ警告灯（赤色）が点灯します。（→P. 327）
- 電子制御ブレーキシステム・電動パーキングブレーキシステムの異常
ブレーキ警告灯（黄色）が点灯します。（→P. 327）
- ABS の異常
ABS & ブレーキアシスト警告灯が点灯します。（→P. 327）
- 充電システムの異常
充電警告灯が点灯します。（→P. 327）
- エンジン冷却水高温異常
水温計の針がレッドゾーンに入ります。（→P. 146）

■ 「電装品作動制限中」が表示されたときは

バッテリーの充電が不足していることを意味します。

このとき、エアコンなどの消費電力が大きい電装品の作動を一時的に制限することがあります。故障ではありませんので、バッテリーの充電が回復したときに電装品の作動は復帰します。

パンクしたときは（スペアタイヤ搭載車）

パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。

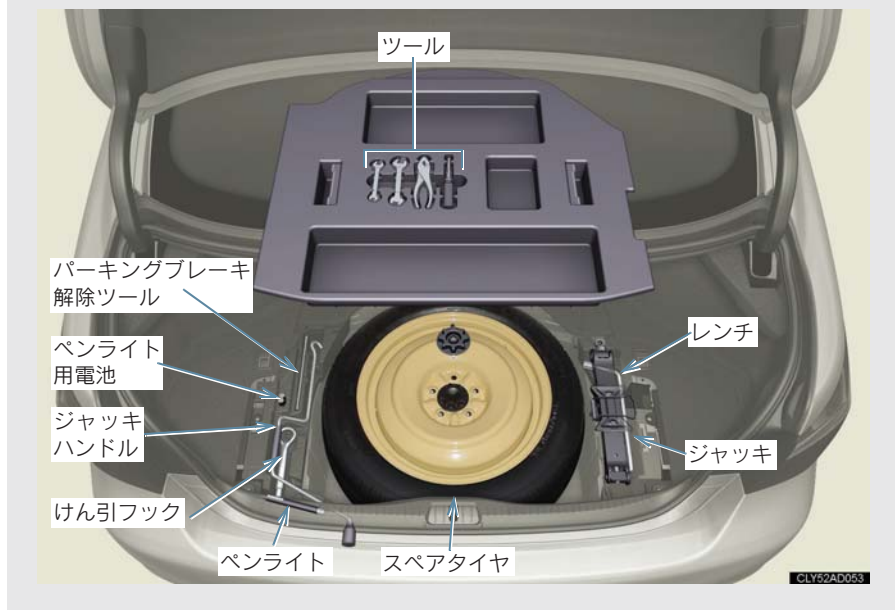
（タイヤについての詳しい説明は P. 277 をご覧ください。）

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

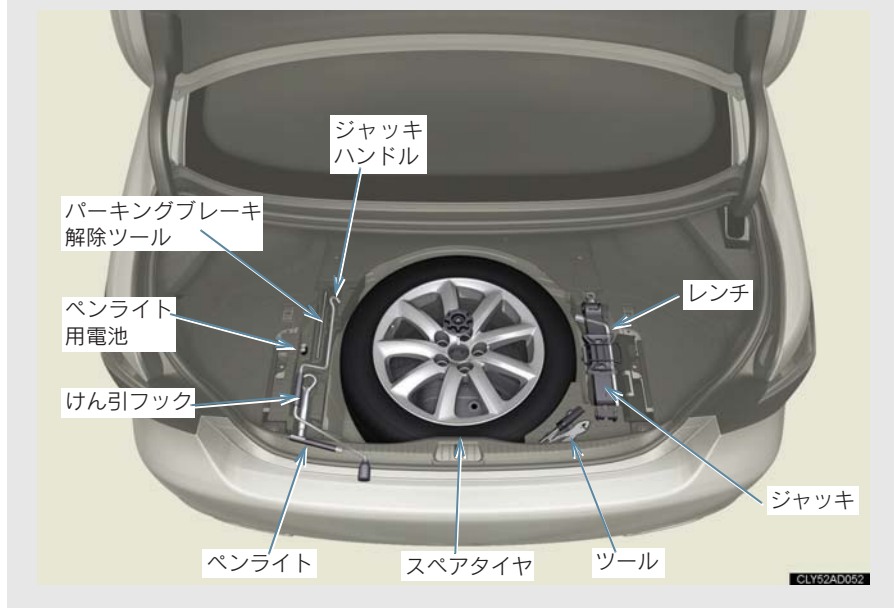
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーを P に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

■ 工具とジャッキ位置

▶ 応急用タイヤ搭載車



▶ 標準タイヤ搭載車



ペンライトの使い方

夜間のタイヤ交換などに使用できるペンライトをトランク内に装備しています。



- 1 先端部を回して開ける。
- 2 電池を入れる。
- 3 先端部を装着する。
- 4 ON/OFF

ジャッキとスペアタイヤの取り出し方

手順 1



ラゲージマットを持ち上げる

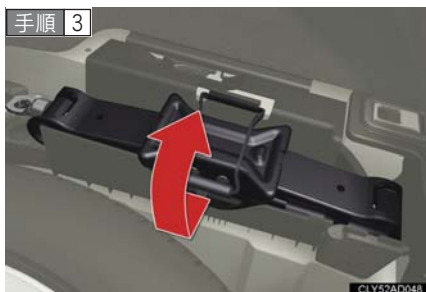
手順 2 ラゲージマットをかけて、ツールトレイを取り出す

▶ 応急用タイヤ搭載車

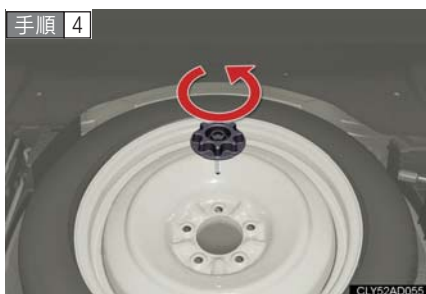


▶ 標準タイヤ搭載車





ジャッキのとめ具を取りはずす



スペアタイヤのとめ具を取りはずす

スペアタイヤのとめ具が固く回らないときは、車載のレンチを使用してください。(タイヤを固定するときは、とめ具を手で取り付けてください。レンチなどの工具は使用しないでください。)

応急用タイヤ搭載車：応急用タイヤを取り出すときは、タイヤの両端をしっかりと持ってください。(応急用タイヤ単体重量：約 20 kg)

パンクしたタイヤの交換

手順 1



輪止め※をする。

パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	左側	右側後輪後ろ
	右側	左側後輪後ろ
後輪	左側	右側前輪前
	右側	左側前輪前

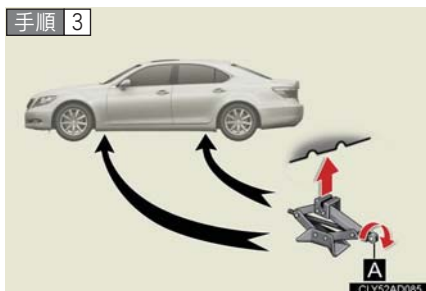
※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

手順 2



ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる。

手順 3



ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける。



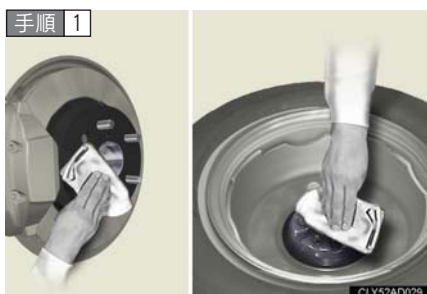
タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる。



ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす。

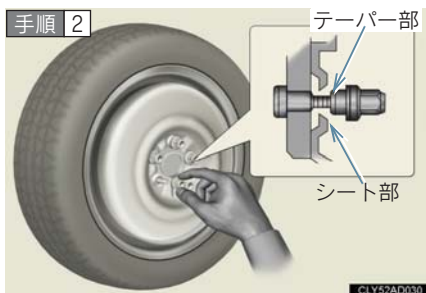
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷つかないように意匠面を上にする。

スペアタイヤの取り付け



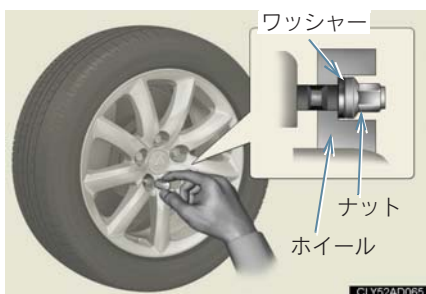
ホイール接触面の汚れをふき取る。

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



スペアタイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする。

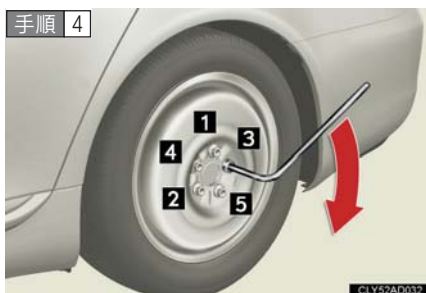
応急用タイヤ搭載車：
ナットのテーパ部がホイールのシート部に軽く当たるまでまわす。



標準タイヤ搭載車：
ワッシャーがホイールに軽く当たるまでナットをまわす。



車体を下げる。



図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける。

締め付けトルク：
140 N・m (1430 kgf・cm)

手順 5 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する。

 知識

■ 応急用タイヤ*について

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用のみお使いください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 381)

 警告

■ ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。

以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使わない
- 備え付けのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に身体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下に物をのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する
- 電子制御エアサスペンションの車高調整機能が作動しないように、ジャッキアップ時は必ずエンジンを停止する

車を下げる際はとくに、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

**警告****■ タイヤ交換について**

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

- ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらない
ナットを締めるときに必要な以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。
またナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部についている場合はふき取ってください。
- ホイールの交換後はすぐに 140 N・m (1430 kgf・cm) の力でナットをしめる
- タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する
- ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検をうける
上記のことを守らないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、死亡や重傷を負う事故につながるおそれがあります。

■ 応急用タイヤ*を使用するときは

- お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください
- 同時に2つ以上のスペアタイヤを使用しないでください
- できるだけ早く通常のタイヤと交換ください
- 急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回はお避けください

■ 応急用タイヤ*使用時の速度制限

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。

応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備



警告

■ 応急用タイヤ*装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があります、下記システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- ABS
- ブレーキアシスト
- VSC
- TRC
- ナビゲーションシステム
- バックガイドモニター*
- クルーズコントロール
- インテリジェントパーキングアシスト*

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

- AWD システム*

■ タイヤを収納するときは

ボデーとタイヤとのあいだに、指などを挟まないように注意してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

 注意**■パンクしたままの走行について**

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ*装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ*使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で後輪がパンクした場合は、応急用タイヤを後輪として使用せず、前輪に使用し、はずした前輪を後輪に付けてからタイヤチェーンを装着してください。

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

パンクしたときは（パンク修理キット付き車）

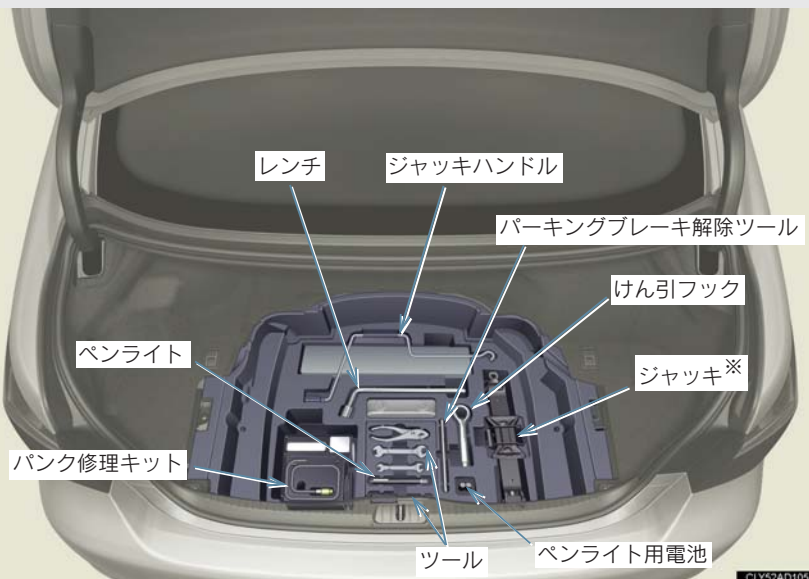
タイヤがパンクしたときにパンク修理キットで応急修理することができます。釘やねじなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液1本につき、応急修理できるタイヤは1本です。）

パンク修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、販売店にご相談ください。

■ 応急修理する前に

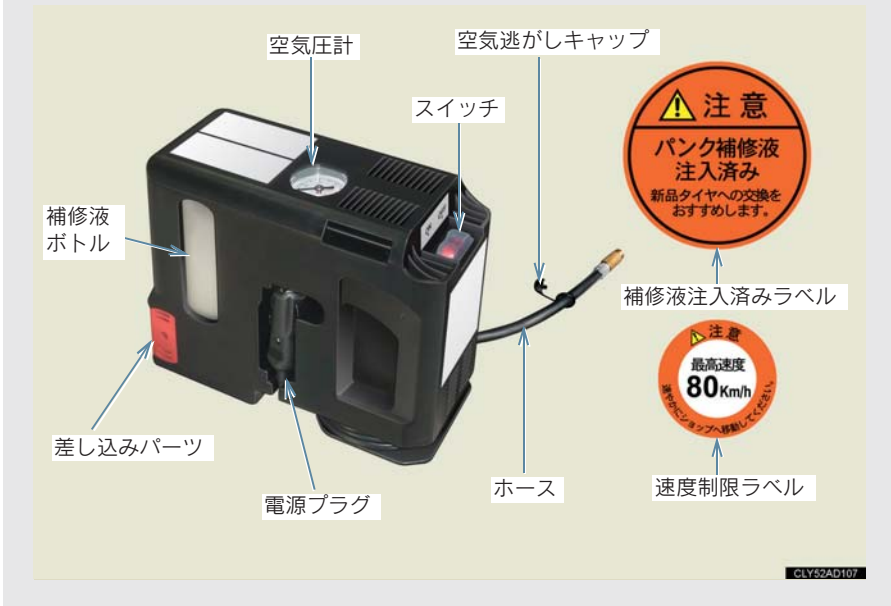
- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトレバーをPに入れる
- エンジンを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる

■ パンク修理キット、工具およびジャッキ位置



※：ジャッキの使い方（→P. 337）

■ パンク修理キットの内容、各部名称



ペンライトの使い方

夜間の応急修理などに使用できるペンライトをトランク内に装備しています。



- 1 先端部を回して開ける。
- 2 電池を入れる。
- 3 先端部を装着する。
- 4 ON/OFF

パンク修理キットの取り出し方



ハンドルを起し、ラゲージマットを折り曲げる。



デッキボードを取りはずす。

手順 3 パンク修理キットを取り出す。

応急修理する前に

応急修理をする前に、タイヤ損傷の程度を確認する。

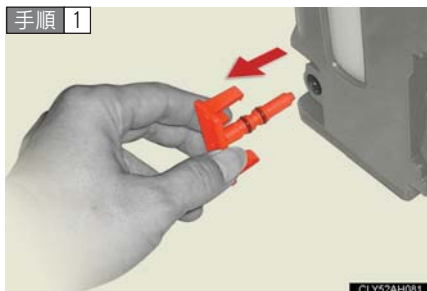


釘やねじなどが刺さっている場合のみタイヤを応急修理してください。

- ・ タイヤに刺さったクギやネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
- ・ パンク補修液が漏れないように、パンク箇所が分かっている場合は、タイヤのパンク箇所が上になるように車を移動してください。

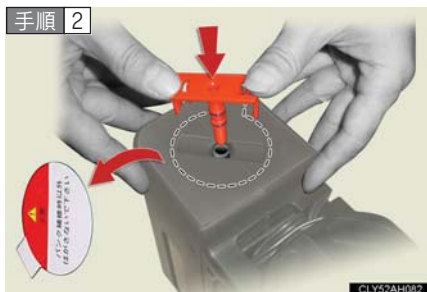
応急修理するときは

手順 1



キットから差し込みパーツを引き抜く。

手順 2



キット底面を上に向けてシールをはがし、差し込みパーツを押し込む。

“パチッ”と音がするまでしっかりと奥まで押し込んでください。

手順 3



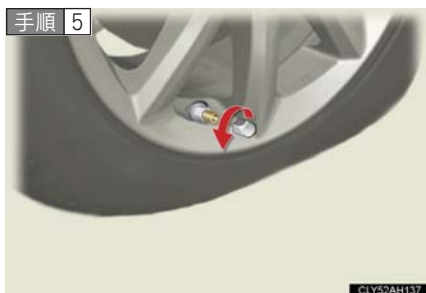
キットの向きを元にもどし、スイッチがOFFであることを確認する。

必ず立ててご使用ください。

手順 4



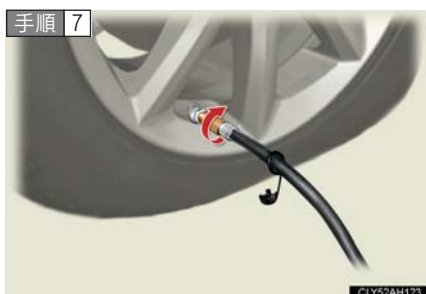
キットの電源プラグをアクセサリソケットに差し込む。(→P. 244)



バルブからバルブキャップを取りはずす。



ホースから空気逃がしキャップを取りはずす。



ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する。

ホース先端を時計まわりに回してしっかりと最後までねじ込む。



タイヤの指定空気圧を確認する。

運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。(→P. 381)

手順 9 エンジンを始動する。

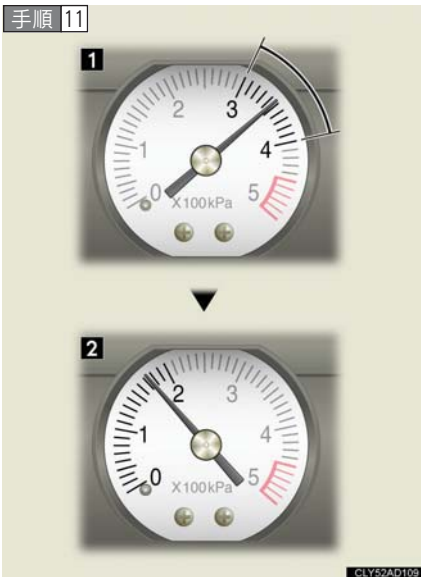
手順 10



キットのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する。

必ず立ててご使用ください。

手順 11



空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する。

- 1 スイッチ ON 直後はパンク補修液を注入するため、一時的に空気圧計が 300 ~ 400kPa まで上昇します。
- 2 1 分程度で実際の空気圧表示になります。指定空気圧になるまで充填してください。

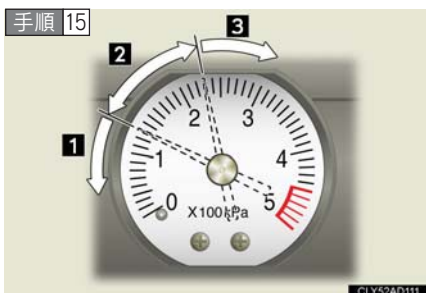
- ・ 空気圧は、キットのスイッチを OFF にして確認してください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認を繰り返してください。
- ・ 空気圧計の針が赤いゾーン (450kPa 以上) に達した場合、タイヤまたはキットに異常がある可能性があります。直ちに修理を中止してください。
- ・ 10 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。販売店にご連絡ください。
- ・ 空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。(→P. 352)

手順 12 バルブからキットのホースを取りはずし、アクセサリソケットから電源プラグを取りはずす。

手順 13 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、直ちに約 5 km 走行する。



走行後、再度キットを接続する。



キットのスイッチを数秒間ONにし、OFF にしてから空気圧を確認する。

1 空気圧が 130 kPa 未満の場合：
応急修理できません。販売店にご連絡ください。

2 空気圧が 130 kPa 以上、指定空気圧未満の場合：**手順 16** へ

3 空気圧が指定空気圧の場合：
手順 17 へ

手順 16 キットのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後に改めて **手順 14** から実施する。



キットを片付けて、付属のラベル 2 枚を図のようにそれぞれ貼り付ける。

急ブレーキ、急ハンドルを避け、80km/h以下で慎重に運転して販売店へ行きませす。タイヤの修理・交換については販売店にご相談ください。

知識

■ 以下のときは、パンク修理キットでは応急修理できません。販売店にご連絡ください。

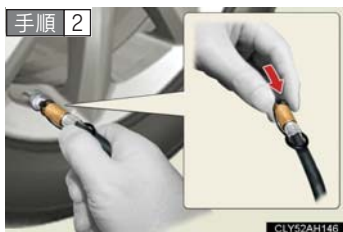
- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側壁の亀裂や損傷によりタイヤがパンクしているとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤ溝に 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2カ所以上の切り傷や刺し傷があるとき

■キットについて

- パンク補修液の有効期限は製造より4年間です。(有効期限はボトル側面に表示されています。)有効期限がきれる前に交換してください。交換については販売店にご相談ください。
- タイヤ1本を1回、応急修理できます。使用したパンク補修液のボトルと付属品の交換は販売店にご相談ください。
- 外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。
- キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
- パンク補修液が衣服に付着するとシミになる場合があります。
- パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などで速やかに拭き取ってください。
- キット作動中は大きな音がしますが故障ではありません。

■空気を入れすぎてしまったときは

手順 1 タイヤからホースを取りはずす。



ホース先端に空気逃がしキャップをかぶせ、キャップの突起部をバルブに押しあて、空気を抜く。

手順 3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する。

手順 4 キットのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する。
(→P. 381)

指定空気圧より低いときは、再度キットのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急修理後のバルブについて

パンク修理キットを使用したときは、バルブを新品に交換してください。

**警告****■パンク補修液について**

- 誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさん水を飲み、直ちに医師の診察を受けてください。
- もし目に入ったり、皮膚に付いたりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

- 車両を安全で平坦な場所に停止させる。
- ディスクホイールやブレーキまわりなどには触れない。
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため手や足などが触れると、やけどをするおそれがあります。
- タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続する。
- ホースの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。
- パンク補修液注入中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。
- 空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。
- 破裂の危険があるのでキット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、直ちにキットのスイッチを切り、修理を中止してください。
- キットは長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。10分以上連続で作動させないでください。
- キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。
- 速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などのSRSエアバッグ展開部に速度制限ラベルを貼ると、SRSエアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。



警告

■ 補修液を均等に広げるための運転について

- 低速で慎重に運転してください。とくにカーブや旋回時には注意してください。
- 車がかたすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、以下を確認してください。
 - ・ タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。
 - ・ 再度空気圧を測ってください。130kPa 以下の場合はタイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。



注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けしないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■ 応急修理をするときは

- タイヤ溝に刺さった釘やねじを取り除かずに応急修理をおこなってください。
取り除いてしまうと、パンク修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。
- キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。
- 砂地などの砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。砂埃などを吸い込むと、故障の原因になります。
- キットが倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。



注意

■ キットについて

- キットはDC12V専用です。ほかの電源での使用はできません。
- キットにガソリンが掛かると劣化するおそれがあります。ガソリンがかからないようにしてください。
- キットは指定の位置に格納し、お子様が誤って手を触れないようご注意ください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、圧力計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 132）にしたがっても、エンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

- 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。
- 燃料を吸いこみすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 132）にしたがって、エンジンをかけてください。
- エンジンイモビライザーシステムに異常がある可能性があります。
（→ P. 98）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 367）
- バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない

以下の原因が考えられます。

- 電装品の断線やヒューズ切れなど電気系統異常の可能性がります。異常の種類によっては、エンジンを一時的な処置でかけることができます。（→P. 357）

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

- バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- バッテリーあがりの可能性があります。（→ P. 367）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
処置の方法がわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

緊急始動機能

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

- 手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
- 手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する。
- 手順 3 “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードにする。
- 手順 4 ブレーキペダルをしっかりと踏んで “エンジンスタートストップ” スイッチを約 15 秒以上押しつづける。

上記の方法でエンジンが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

5-2. 緊急時の対処法

シフトレバーがシフトできないときは

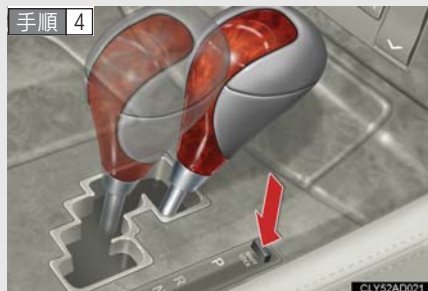
ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける。

手順 2 “エンジンスタートストップ” スイッチをアクセサリモードにする。

手順 3 ブレーキペダルを踏む。



シフトロック解除ボタンを押す。

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

パーキングブレーキが解除できないときは

バッテリー上がりやパーキングブレーキスイッチを操作しても解除されないときは、以下の手順で手動解除することができます。緊急時などでパーキングブレーキを解除する必要があるときのみおこなってください。バッテリーが正常なときにスイッチ操作で解除できない場合は、パーキングブレーキシステムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

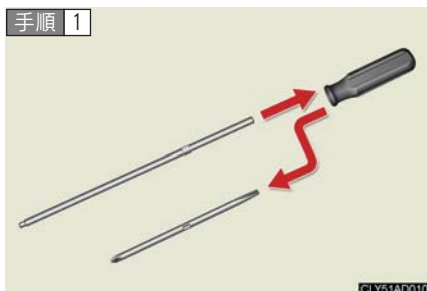
■ 手動解除する前に

- シフトレバーをPに入れる
- “エンジンスタートストップ” スイッチをOFFにする
- パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認する
- 輪止めをする

手動解除の方法

▶ スペアタイヤ搭載車

手順 1

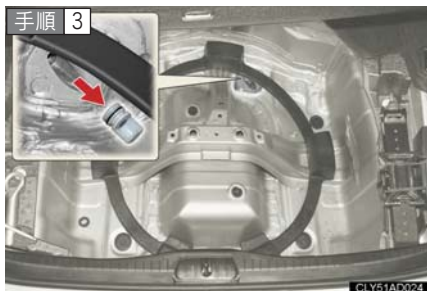


パーキングブレーキ解除ツールと車載ドライバーをトランクから取り出す (→ P. 333)

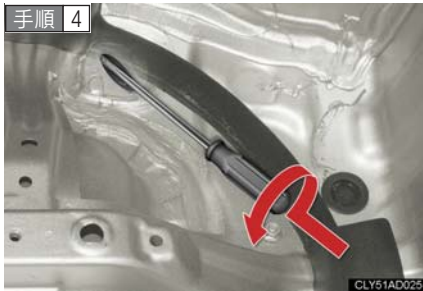
車載ドライバーのハンドルに専用工具を取り付けます。

手順 2 スペアタイヤを取り出す (→ P. 333)

手順 3

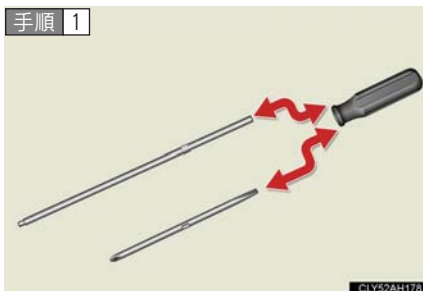


キャップを取りはずす。



工具を差し込み、強く押し当てながら左へ止まるまでまわす。

▶ パンク修理キット付き車

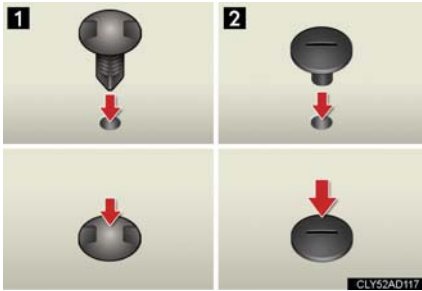


パーキングブレーキ解除ツールと車載ドライバーをトランクから取り出す。(→ P. 344)

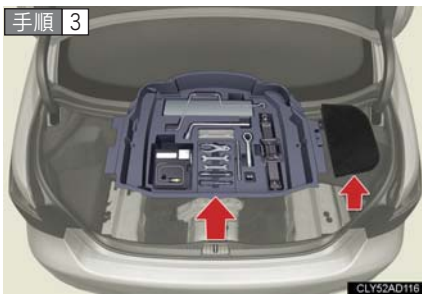
車載ドライバーのハンドルは、用途に応じてパーキングブレーキ解除ツールに差し換えてご使用ください。



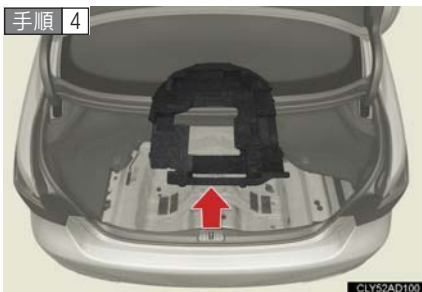
マイナスドライバーを使って、クリップを取りはずす。



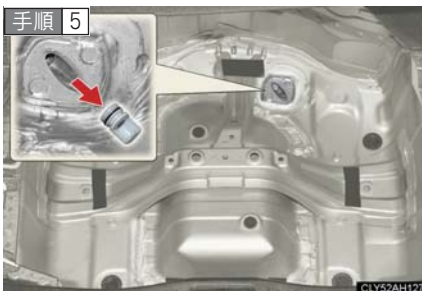
図のようにクリップを取りつける。



サイドデッキボードを取りはずし、
ツールトレイを取り出す。



ツールトレイガードを取り出す。



キャップを取りはずす。



車載ドライバーのハンドルにパーキングブレーキ解除ツールを差し換える。

パーキングブレーキ解除ツールを差し込み、強く押し当てながら左へ止まるまでまわす。

知識

■ 手動操作について

パーキングブレーキは手動でかけることができません。

警告

■ 手動解除するときの警告

- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ずシフトレバーをPに入れて輪止めで固定してください。
車が動きだすおそれがありますので、特に注意してください。
- パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ず“エンジンスタートストップ”スイッチをOFFにして、パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
“エンジンスタートストップ”スイッチがイグニッションONモードのときに手動解除をおこなうと、システムが作動して差し込んだツールが回転し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいキーを作ることができます。
(→ P. 26)

5-2. 緊急時の対処法

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 33）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアやトランクを開けたり、エンジンを始動したりすることができます。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠とキー連動操作

▶ ドア



メカニカルキー（→P. 27）を使って、運転席側のカバーを取りはずした後操作します。

- 1 全ドア施錠
- 2 ドアガラス・ムーンルーフ*が閉まる（長まわし）
- 3 全ドア解錠
- 4 ドアガラス・ムーンルーフ*が開く（長まわし）

使用後は、カバーを元にもどしてください。



▶ トランク



メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

モードの切り替え、エンジン始動の方法

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む。



電子キーのレクサスエンブレム面で、“エンジンスタートストップ”スイッチに触れてください。

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“エンジンスタートストップ”スイッチに触れた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。



手順 3 モードの切り替え：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルから足をはなして“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。“エンジンスタートストップ”スイッチを押すごとにモードが切り替わります。(→ P. 133)

エンジンの始動：ブザーが鳴ってから 10 秒以内に、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

処置をしてもエンジンがかからないときは、レクサス販売店に連絡してください。

 知識

■ **エンジンの停止方法**

通常のエンジンの停止方法と同様に、シフトレバーを P にして“エンジンスタートストップ”スイッチを押します。

■ **電池交換について**

上記のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。(→P. 314)

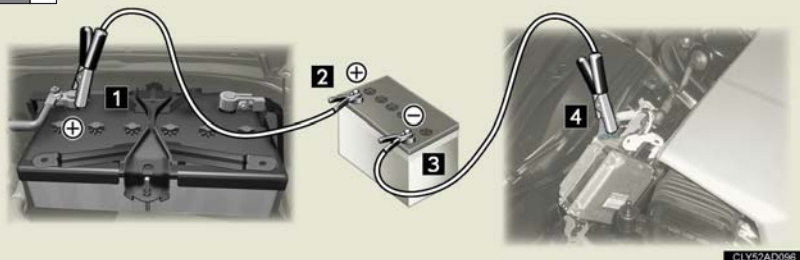
バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

手順 1 エンジンルームカバーとバッテリーカバーをはずします。
(→P. 285)

手順 2



バッテリーの+端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ。

- 1** 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの+端子につなぐ。
- 2** 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの+端子につなぐ。
- 3** 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの-端子につなぐ。
- 4** 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ。

手順 3 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する。

手順 4 “エンジンスタートストップ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する。

手順 5 救援車のエンジン回転を維持したまま、“エンジンスタートストップ” スイッチをいったんイグニッション ON モードにしてから自車のエンジンをかける。

手順 6 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす。

エンジンがかかっても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

 知識

■ **バッテリーあがり時の始動について**

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■ **バッテリーあがりを防ぐために**

- エンジンがかかっていないときは、ライトやオーディオの電源を切ってください。
- 渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■ **バッテリーがはずされたり、バッテリーがあがってしまった場合は**

“エンジンスタートストップ”スイッチを OFF にしてすぐにバッテリーターミナルを取りはずすと、ディスプレイ（ナビゲーション等）に関連する一部のデータがハードディスクに正常に保存されないことがあります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

 警告

■ バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない
- ブースターケーブルの+側と-側を絶対に接触させない
- バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■ バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

- バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液（酸）が皮膚・衣服・車体につかないようにする
- バッテリーに寄りかかたりしない
- 誤ってバッテリー液が身体に付いたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまをバッテリーに近づけない

 注意

■ ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める。

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する。

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する。

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける。

手順 3 エンジンルームカバーをはずす。(→P. 285)

手順 4 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する。

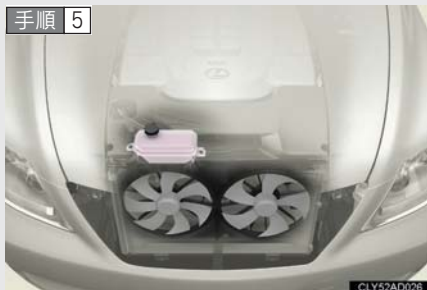
ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきからエンジンを止める。

ファンが作動していない場合：

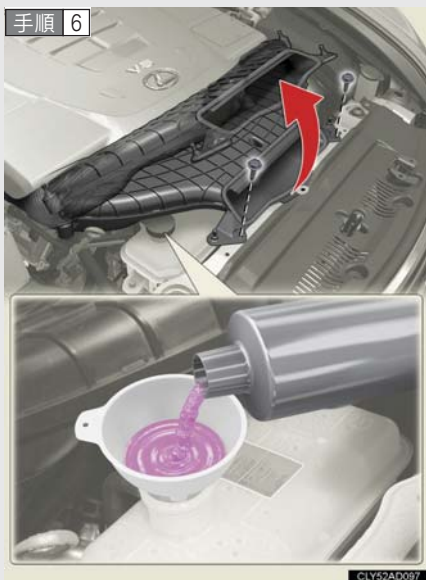
すぐにエンジンを止めて、レクサス販売店に連絡する。

手順 5



エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する。

手順 6



CLY52AD097

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する。

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。(別冊メンテナンスノート参照)

早めに最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

 知識

■ オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る



警告

■ エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- エンジンがかかっているときは、手や着衣をファンやベルトから離してください。
- エンジン及びラジエーターおよび補助タンクが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。



注意

■ 冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法を試みてください。

手順 1 パーキングブレーキをかけシフトレバーを P に入れ、エンジンを停止する。

手順 2 タイヤ前後の土や雪を取り除く。

手順 3 タイヤの下に木や石などをあてがう。

手順 4 エンジンを再始動する。

手順 5 シフトレバーを D または R に確実に入れ、注意しながらアクセルを踏む。

TRC、VSC の作動で脱出しにくいときは、TRC または VSC を停止してください。(→P. 194)

警告

■ 脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何も無いことを確認してください。

スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■ シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。

車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■ トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ
(指定燃料、
オイル量など) 376

6-2 カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ
機能一覧 383

6-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料、オイル量など）

燃料

指定燃料	容量 [L]（参考値）
無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）	84

エンジンオイル

銘柄※ ¹	容量 [L]（参考値）	
	オイルのみ 交換	オイルと オイル フィルター 交換
弊社純正モーターオイル SM 0W-20 ※ ² —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20 弊社純正モーターオイル SM 5W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30 弊社純正モーターオイル SM 10W-30 —API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30 弊社純正モーターオイル SL 5W-20 —API SL, EC SAE 5W-20 弊社純正モーターオイル SL 10W-30 —API SL, EC SAE 10W-30	8.4	8.6 ※ ³ 9.0 ※ ⁴

※¹ 使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

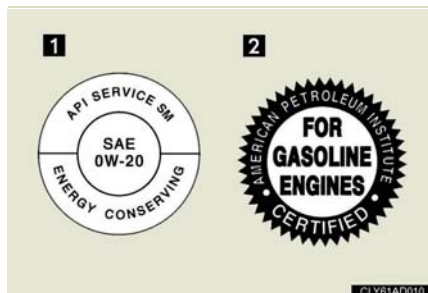
※² 0W-20 は最も省燃費性に優れるオイルです。

※³ FR 車（後輪駆動）

※⁴ AWD 車（4 輪駆動）

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサックサーティフィケーション）マークがついています。

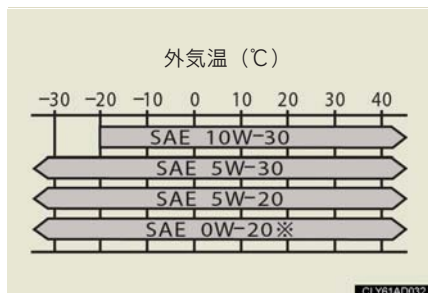


1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のオイルをご使用ください。



※ 0W-20 は最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の 0W は、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄※	駆動方式	容量 [L] (参考値)
弊社純正スーパーロングライフ クーラント 凍結保証温度 濃度 30% -12℃ 濃度 50% -35℃	FR (後輪駆動)	11.0
	AWD (4輪駆動)	11.1

※ 使用するクーラントの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正クーラントのご使用をおすすめします。弊社純正クーラント以外を使用される場合は、弊社純正クーラントに相当する品質のものをご使用ください。

オートマチックトランスミッション

銘柄※	駆動方式	容量 [L] (参考値)
弊社純正オートフルード WS	FR (後輪駆動)	10.3
	AWD (4輪駆動)	10.7

※ 使用するオートフルードの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オートフルードのご使用をおすすめします。弊社純正オートフルード以外を使用される場合は、弊社純正オートフルードに相当する品質のものをご使用ください。

トランスファー (AWD車)

銘柄※ (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	0.70

※ 使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

フロントディファレンシャル (AWD 車)

銘柄 [※] (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	0.75

※ 使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

リヤディファレンシャル

▶ FR 車 (後輪駆動)

銘柄 [※] (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LT (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

▶ AWD 車 (4 輪駆動)

銘柄 [※] (推奨粘度)	容量 [L] (参考値)
弊社純正ディファレンシャルギヤオイル LX (API GL-5, SAE 75W-85)	1.35

※ 使用するオイルの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイルのご使用をおすすめします。弊社純正オイル以外を使用される場合は、弊社純正オイルに相当する品質のものをご使用ください。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄[※]

弊社純正ブレーキフルード 2500H

※ 使用するブレーキフルードの品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正ブレーキフルードのご使用をおすすめします。弊社純正ブレーキフルード以外を使用される場合は、弊社純正ブレーキフルードに相当する品質のものをご使用ください。

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ~ 2
踏み込んだときの床板とのすき間 [※]	95

※ 200 N (20 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目 (エンジン始動時)	パーキングブレーキ表示灯の 状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上押したとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上引いたとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯しないことを確認する。

ウォッシャー

容量 [L] (参考値)

4.7

タイヤ

タイヤサイズ		タイヤが冷えているときの 空気圧 kPa (kg/cm ²)	
		前輪	後輪
標準 タイヤ	235/50R18 97W	230 (2.3)	230 (2.3)
	245/45R19 98Y		
応急用 スペア タイヤ*	T155/70R18 101M	420 (4.2)	

電球 (バルブ)

電球		W (ワット) 数
車外	ヘッドライト ハイビーム	
	カメラセンサー装着車 (バルブタイプ: HB3)	60
	カメラセンサー装着車を除く (バルブタイプ: HIR1)	65
	ロービーム (ディスチャージヘッドライト)	35
	車幅灯	5
	フロントフォグライト (バルブタイプ: HB4)	51
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯	5
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	16
	制動灯 & 尾灯	LED ※
	尾灯	LED ※
	後退灯	16
	リヤフォグライト *	21 *
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	LED ※
ドアミラー照明	5	

* : グレードなどで異なる装備やオプション装備

電球		W (ワット) 数
車内	フロントインテリアライト	8
	フロントパーソナルライト	LED※
	フロントバニティライト	8
	リヤインテリアライト	8
	リヤパーソナルライト	LED※
	リヤバニティライト	3
	シフト照明	LED※
	インサイドハンドル照明	LED※
	ドアカーテシー照明	5
	シートベルトバックル照明	LED※
	足元照明	LED※
	グローブボックスライト	LED※
	フロントコンソールボックスライト	LED※
	リヤコンソールボックスライト	LED※
	クールボックス	LED※
	トランクリッドライト	3.8
トランクライト	3.8	

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

名称	型式	エンジン	駆動方式
LS460	USF40 USF41	1UR-FSE (4.6L ガソリン)	FR（後輪駆動）
	USF45 USF46		AWD（4輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。レクサス販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム (→P. 30)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
ワイヤレスドアロック (→P. 41)	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠時の操作	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア解錠
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30秒	60秒
			120秒
	作動の合図 (非常点滅灯)	あり	なし
	半ドア警告ブザー	あり	なし
	トランク解錠時の操作	1回長押し	2回押し
1回短押し			
ドアロック (→P. 43, 364)	車速感応式ドアロック	あり	なし
	運転席を開けたときの全ドア解錠	なし	あり
	シフトレバーを P にしたときの全ドア解錠	あり	なし
	シフトレバーを P 以外にしたときの全ドア施錠	なし	あり
	キーによる解錠	1回で全ドア解錠	1回で運転席ドアのみ解錠、連続2回で全ドア解錠

項目	機能の内容	初期設定	変更後
トランク (→P. 49)	パワートランクリッド機能	あり	なし
パワーウィンドウ (→P. 87)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動 開閉機能	あり	なし
	ワイヤレスリモコン連動時 の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	スマートエントリー&ス タートシステム連動閉機能	あり	なし
ムーンルーフ (→P. 90)	ドアキー連動開閉機能	あり	なし
	ドアキー連動時の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	ドアキー連動作動時の開閉 部位	スライドのみ	チルトのみ
	ワイヤレスリモコン連動 開閉機能	あり	なし
	ワイヤレスリモコン連動時 の作動	開閉作動	開作動のみ 閉作動のみ
	ワイヤレスリモコン連動作 動時の開閉部位	スライドのみ	チルトのみ
	スマートエントリー&ス タートシステム連動閉機能	あり	なし
ライト自動点 灯・消灯システ ム (→P. 154)	ライトセンサーの感度調整	レベル3	レベル1～5
	ライトを点灯するまでの 時間	標準	長め

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション (→P. 222)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	“エンジンスタートストップ” スイッチ OFF 後の作動	あり	なし
	足元照明の点灯	あり	なし
	シフト照明の点灯	あり	なし
	ドアミラー照明の点灯	あり	なし

さくいん

略語一覧	388
五十音順さくいん	389
症状別さくいん	399

ナビゲーションシステムおよびエレクトロマルチビジョンに関わる装備（エアコン・オーディオなど）は、別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
AFS	アダプティブフロントライティングシステム
AI-SHIFT	アーティフィカルインテリジェンスシフト
AVS	アダプティブバリアブルサスペンションシステム
AWD	オールホイールドライブ
DISP	ディスプレイ
ECT	エレクトリックコントロールドトランスミッション
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
ETC	エレクトロニックツールコレクション
LED	ライトエミッティングダイオード
LKA	レーンキーピングアシスト
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
PWR	パワー
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VDIM	ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント
VGRS	バリアブルギヤレシオステアリング
VSC	ビークルスタビリティコントロール

あ	アームレスト.....	252	
	アクセサリーコンセント.....	244	
	アクセサリーソケット.....	244	
	足元照明.....	222	
	アダプティブフロントライティング システム.....	155	
	アンチロックブレーキシステム.....	192	
	い	イグニッションスイッチ.....	132
		イベントデータレコーダー.....	325
		イルミネーテッドエントリー システム.....	222
		インストルメントパネル 照度調整スイッチ.....	147
インテリアライト スイッチ.....		223	
インテリジェントパーキングアシスト※			
インナーミラー.....		83	
う		ウインカー W数.....	381
		スイッチ.....	140
		電球の交換.....	287
	ウインドウ ウォッシャー.....	158	
	パワーウインドウ.....	87	
	ウインドウロックスイッチ.....	87	
	ウォーニングライト.....	327	
	ウォッシャー 液の補給.....	316	
	スイッチ.....	158	
	タンク容量.....	380	
冬の前の準備・点検.....	217		

運転	
寒冷時の運転.....	217
正しい姿勢.....	104
手順.....	124
運転席シートベルト 非着用警告灯.....	329

え	エアコン※	
	エアバッグ	
	SRS エアバッグ.....	105
	一般的な警告.....	111
	お子さまのための注意.....	111
	カーテンシールドエアバッグに 関する警告.....	111
	カーテンシールドエアバッグの 作動条件.....	107
	改造・分解.....	114
	警告灯.....	327
	サイドエアバッグに 関する警告.....	111
サイドエアバッグの作動条件... 作動条件.....	107	
正しい姿勢.....	104	
配置.....	105	
エレクトリック パワーステアリング.....	192	

※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

エンジン

イグニッションスイッチ	132
エンジン回転計	146
エンジンがかからない	356
エンジン警告灯	327
エンジンスイッチ	132
エンジンルームカバー	285
オーバーヒート	370
かけ方	132
ボンネット	281
エンジンイモビライザーシステム	98
エンジンオイル	
冬の前の準備・点検	217
容量	376

お 応急用タイヤ

空気圧	381
スペアタイヤ	333
オーディオ※	
オートアラーム	99
オートマチックトランスミッション	
Sモード	137
オートマチックトランス	
ミッション	136
シフトレバーが	
シフトできない	358
オートレベリングシステム	156
オーバーヒート (エンジン)	370
オープナー	
給油口	94
トランク	49
ボンネット	281

お子さまの安全のために

ウインドウロックスイッチ	87
エアバッグに関する警告	111
お子さまのシートベルト着用	79
コンフォータブル・エアシートに	
関する警告	251
シートベルトコンフォート	
ガイド	78
シートベルトに関する警告	80
チャイルドシート	115
チャイルドシートの固定	115
チャイルドプロテクター	44
電子キーの電池に関する	
警告	315
トランクに関する警告	51
バッテリーに関する警告	369
パワーウィンドウに	
関する警告	89
ムーンルーフに関する警告	93
オドメーター	146
か カーテンシールドエアバッグ	105
外気温表示	152
買い物フック	268
カスタマイズ機能	383
ガソリンスタンドでの情報	402
カップホルダー	229

き	キー	
	エンジンスイッチ	132
	キー	26
	キーナンバー	26
	キーレスエントリー	41
	キーを無くした	363
	電子キー	26
	電子キーが正常に働かない	364
	メカニカルキー	26
	ワイヤレスドアロック	41
	救急箱固定用バンド	268
	給油口	94
	緊急時の対処	
	エンジンがかからない	356
	オーバーヒートした	370
	キーを無くした	363
	警告灯がついた	327
	警告メッセージが表示された	331
	けん引	321
	シフトレバーが	
	シフトできない	358
	スタックした	373
	電子キーが正常に働かない	364
	発炎筒	319
	バッテリーがあがった	367
	パンクした	333, 344
	緊急ブレーキ	
	シグナル	192, 198, 203
<	空気圧 (タイヤ)	381
	クールボックス	232
	区間距離計	146
	曇り取りスイッチ※	

	クリアランスソナー※	
	クルーズコントロール	
	クルーズコントロール	161
	レーダークルーズ	
	コントロール	164
	レーダークルーズコントロール	
	(全車速追従機能付き)	173
	グローブボックス	227

け	計器	
	メーター	146
	メーター照度調整スイッチ	147
	警告灯	
	SRS エアバッグ	327
	アンチロックブレーキ	
	システム	327
	エンジン	327
	シートベルト非着用	329
	充電	327
	燃料残量	329
	パワーステアリング	327
	半ドア	329
	プリクラッシュセーフティ	
	システム	327
	プリテンショナー	327
	ブレーキ	327
	ブレーキアシスト	327
	マスターウォーニング	329
	警告表示	331
	警告ブザー	
	シートベルト非着用	329
	半ドア	329
	化粧用ミラー	239
	けん引	321

※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

こ	コインホルダー	228
	交換	
	タイヤ	333
	電球	287
	電子キーの電池	314
	ヒューズ	301
	工具	333, 344
	後退灯	
	W数	381
	電球の交換	287
	コートフック	266
	後方ブリクラッシュセーフティ	
	システム	212
	コンソールボックス	231
	コンフォータブル・エアシート	249
	コンライト	
	(自動点灯・消灯装置)	154
さ	サイドエアバッグ	105
	サンシェード	
	リヤ	257
	リヤドア	261
	ルーフ	90
	サンバイザー	238
し	シート	
	運転席ポジションメモリー	67
	コンフォータブル・	
	エアシート	249
	シートポジション	
	メモリー	67, 70, 72

助手席ポジションメモリー	70
正しい姿勢	104
チャイルドシートの固定	115
調整	55, 60
調整に関する警告	59, 62
手入れ	275
ヘッドレスト	74
リヤシートポジション	
メモリー	72
リヤシートリラクゼーション	
システム	253
シートベルト	
お子さまの着用	79
緊急時シートベルト固定機構	79
シートベルト警告灯	329
シートベルト	
プリテンショナー	78
清掃・手入れ	275
正しい着用	77
チャイルドシート固定機構	79
チャイルドシートの固定	115
調整	77
妊娠中のかたの着用	79
シートポジション	
メモリー	67, 70, 72
シガレットライター	242
室内灯	
スイッチ	223
シフト照明	222
シフトレバー	
オートマチックトランス	
ミッション	136
シフトレバーが	
シフトできない	358

シフトロックシステム	358
車高調整	
電子制御エアサスペンション ...	190
ジャッキ	
ガレージジャッキ	283
車載ジャッキ	333
ジャッキハンドル	333
車幅灯	
W 数	381
電球の交換	287
ライトスイッチ	154
車両型式	382
車両仕様	376
収納装備	225
助手席シートベルト	
非着用警告灯	329
す 水温計	146
スイッチ	
ECT スイッチ	137
イグニッションスイッチ	132
ウインドウロックスイッチ	87
エンジンスイッチ	132
ドアロックスイッチ	43
パーキングブレーキスイッチ ...	141
ハザードライトスイッチ	318
パワーウインドウスイッチ	87
パワートランクリッド	
スイッチ	49
非常点滅灯スイッチ	318
フォグライトスイッチ	157
ライトスイッチ	154
ワイパー&ウォッシャー	
スイッチ	158

スタック	
スタックした	373
ステアリングホイール	
調整	82
ハンドルポジションメモリー	67
ヒーター	247
ステアリングホイールヒーター	247
スピードメーター	146
スペアタイヤ	
空気圧	381
収納場所	333
スペック	376
スマートエントリー&スタートシステム	
エンジンの始動	132
ドアの施錠・解錠	30
トランクを開ける	30

せ 清掃	
外装	272
シートベルト	275
内装	275
積算距離計	146
洗車	272
前照灯	
W 数	381
スイッチ	154
ディスチャージヘッドライトに	
関する警告	299
電球の交換	287

そ 速度計	146
--------------------	-----

た	タイヤ	
	空気圧	381
	交換	333
	スペアタイヤ	333
	チェーン	217
	点検	277
	パンクした	333, 344
	パンク修理キット	344
	冬用タイヤ	217
	ローテーション	277
	タコメーター	146
ち	チェーン (タイヤチェーン)	217
	チェンジレバー	
	オートマチックトランス	
	ミッション	136
	チェンジレバーが	
	シフトできない	358
	チャイルドシート	
	ISOFIX バーでの固定	117
	シートベルトでの固定	116
	チャイルドプロテクター	44
	駐車ブレーキ	141
つ	ツール	333

て	ディスプレイ	
	警告メッセージ	331
	トリップインフォメーション ...	152
	レーダークルーズ	
	コントロール	164, 173
	手入れ	
	外装	272
	シートベルト	275
	内装	275
	テーブル	255
	テールランプ	
	スイッチ	154
	電球	
	W 数	381
	交換	287
	電子キー	
	電池が切れた	364
	電子制御エアサスペンション	190
	電話スイッチ※	
と	ドア	
	ドアガラス	87
	ドアミラー	84
	ドアロック	30, 41, 43
	ドアカーテシーライト	222
	ドアガラス	87
	ドアポケット	228

ドアミラー	
調整.....	84
ミラーポジションメモリー.....	67
ドアミラー照明	
W数.....	381
ドアミラー照明.....	222
盗難警報アラーム.....	99
盗難防止システム	
エンジンイモビライザー	
システム.....	98
オートアラーム.....	99
トークスイッチ※	
ドライビングポジションメモリー.....	67
トラクションコントロール.....	192
トランク	
オープナー.....	49
トランクスルー.....	264
トランクライト	
W数.....	381
トリップメーター.....	146
な ナビゲーションシステム※	
に 荷物	
積むときの注意.....	215
荷物固定用フック.....	268

ね 燃料	
ガソリンスタンドでの情報.....	402
給油.....	94
種類.....	376
燃料計.....	146
容量.....	376
は パーキングブレーキ	
パーキングブレーキ.....	141
パーキングブレーキが	
解除できない.....	359
ハザードライト	
スイッチ.....	318
パーソナルライト	
スイッチ.....	223
灰皿.....	241
発炎筒.....	319
バックアップライト	
W数.....	381
電球の交換.....	287
バックガイドモニター※	
バッテリー	
バッテリーがあがった.....	367
冬の前の準備点検.....	217
バニティミラー.....	239
バニティライト	
W数.....	381
バニティライト.....	239
バリアブルギヤレシオ	
ステアリング.....	192
バルブ	
W数.....	381
交換.....	287

※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

パワーウィンドウ	87	冬用タイヤ	217
パンク		プリクラッシュセーフティ	
パンクした	333, 344	システム	198, 203, 212
パンク修理キット	344	ブレーキ	
パンク修理キット	344	パーキングブレーキ	141
ハンドル		ホールド	143
調整	82	ブレーキアシスト	192
ハンドルポジション		ブレーキホールド	143
メモリー	67	フロアマット	267
ひ ピークルスタビリティ		フロントシート	
コントロール	192	シートポジション	
ピークルダイナミクス		メモリー	67, 70
インテグレイテッド		調整	55
マネージメント	192	ドライビングポジション	
非常点滅灯		メモリー	67
スイッチ	318	フロントターンシグナルライト	
尾灯		W 数	381
スイッチ	154	フロントフォグライト	
ヒューズ	301	W 数	381
表示灯	148	スイッチ	157
ヒルスタートアシスト		へ ヘッドライト	
コントロール	192	W 数	381
ふ フォグライト		スイッチ	154
W 数	381	ディスチャージヘッドライトに	
スイッチ	157	関する警告	299
電球の交換	287	電球の交換	287
フック		ヘッドレスト	
買い物フック	268	調整	74
けん引フック	321	ペンライト	334
コートフック	266		
荷物固定用フック	268		

ほ	ホイール.....	277
	方向指示灯	
	W 数	381
	スイッチ	140
	電球の交換	287
	ホーン	145
	ボンネット.....	281

ま	マルチディスプレイ	151
----------	-----------------	-----

み	ミラー	
	インナーミラー	83
	ドアミラー	84
	バニティミラー	239

む	ムーンルーフ.....	90
----------	-------------	----

め	メーター	
	インストルメントパネル	
	照度調整スイッチ	147
	メーター	146
	メンテナンス	
	メンテナンスデータ.....	376

ら	ライト	
	W 数	381
	室内灯	222
	電球の交換	287
	ドアカーテシーライト.....	222
	ハザードライト.....	318
	パーソナルライト.....	223
	バニティライト.....	239
	非常点滅灯	318
	フォグライト	157
	ヘッドライト	154
	方向指示灯	140

り	リヤウインドウデフォッガースイッチ※	
	リヤサンシェード	257
	リヤシート	
	シートポジションメモリー	72
	調整	60
	リヤターンシグナルライト	
	W 数	381
	電球の交換	287
	リヤドアサンシェード	261
	リヤフォグライト	
	W 数	381
	スイッチ	157
	電球の交換	287
	リヤブリクラッシュセーフティ	
	システム	212

※：別冊「HDD ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照ください。

れ	冷却水	
	冬の前の準備・点検.....	217
	容量.....	378
	冷却装置	
	エンジンオーバーヒート.....	370
わ	レーダークルーズ	
	コントロール.....	164, 173
	レーンキーピングアシスト.....	185
	ワイパー	
	スイッチ.....	158
	ワイヤレスドアロック	
	電池交換.....	314
	リモコン.....	41



タイヤがパンクした

P. 333
P. 344

パンクしたときは



エンジンがかからない

P. 356

エンジンがかからないときは

P. 98

エンジンイモビライザーシステム

P. 367

バッテリーがあがったときは



シフトレバーが動かない

P. 358

シフトレバーがシフトできないときは



水温計の針が
赤いゾーンに入った

P. 370

オーバーヒートしたときは



エンジンルームから
蒸気が立ちのぼった



キーをなくした

P. 363

キーをなくしたときは



バッテリーがあがった

P. 367

バッテリーがあがったときは



ドアが施錠できない

P. 30

P. 41

P. 43

ドア



ホーンが鳴り出した

P. 99

オートアラーム



ぬかるみや砂地などで
動けなくなった

P. 373

スタックしたときは



警告灯が点灯、点滅した

P. 327 警告灯がついたときは



■ 警告灯一覧



ブレーキ警告灯（赤色）

P. 327



充電警告灯

P. 327



ABS& ブレーキアシスト
警告灯

P. 327



運転席シートベルト非着用
警告灯

P. 329



ブレーキ警告灯（黄色）

P. 327



助手席シートベルト非着用
警告灯

P. 329



燃料残量警告灯

P. 329



マスターワーニングと
警告メッセージ

P. 329



SRSエアバッグ/プリテン
ションー警告灯

P. 327



パワーステアリング警
告灯

P. 327



半ドア警告灯

P. 329



PCS 警告灯

P. 327



エンジン警告灯

P. 327



警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチディスプレイの警告メッセージを確認ください。

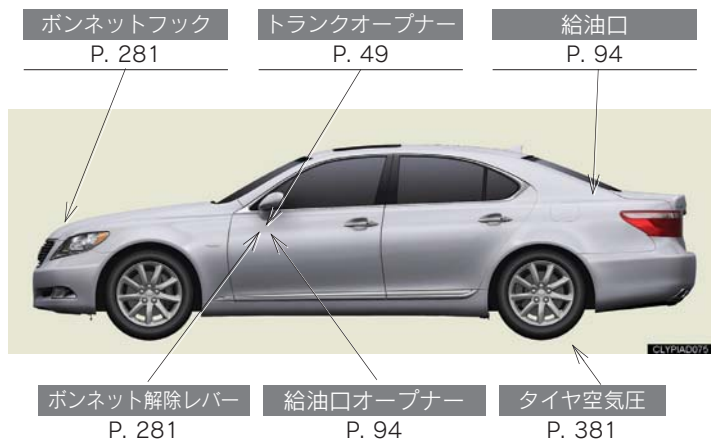
- 警告灯が点灯、点滅している (→P. 327)
- 警告メッセージが表示されている (→P. 331)

■警告灯の点灯、点滅や、マルチディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 38
	車外に出たとき	
	スマートエントリー&スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーをRにしたとき	P. 139
	シフトダウンしたとき	P. 138
	レーダークルーズコントロールを使っているとき	P. 164, 173

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要な項目をまとめてあります。



燃料の容量	84L
燃料の種類	無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク） P. 95, 376
タイヤが冷えているときの空気圧	標準タイヤ : 230 (2.3) kPa (kg/cm ²) 応急用タイヤ : 420 (4.2) kPa (kg/cm ²)
エンジンオイル容量	オイルのみ交換時 : 8.4 L オイルとフィルター交換時 FR車（後輪駆動） : 8.6 L AWD車（4輪駆動） : 9.0 L
エンジンオイルの種類	弊社純正モーターオイル ・ SM 0W-20 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 0W-20) ・ SM 5W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 5W-30) ・ SM 10W-30 (API SM, EC/ILSAC GF-4, SAE 10W-30) ・ SL 5W-20 (API SL, EC, SAE 5W-20) ・ SL 10W-30 (API SL, EC, SAE 10W-30)

「個人情報保護方針」については、<http://lexus.jp>にて掲載しております。

